

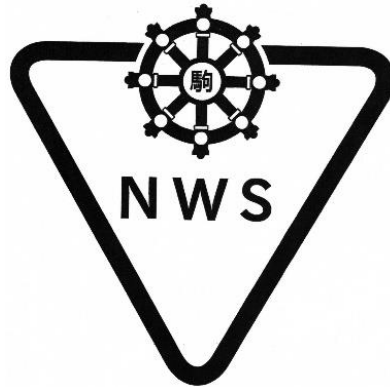
授業計画

令和5年度（2023年度）

学校法人駒沢岩見沢学園

駒沢看護専門学校

校章



N : Nurse 看護師、看護の意

W : Wefare 福祉、福利の意

S : Special 専門、特別の意

三角形の頂点は仏教の三つの宝である。

「仏（自由）・法（平等）・僧（平和）を配している。

上部には「法輪」と言ってお釈迦さまが最初に説法で示された「誰でも、何時でも、何処でも」出来る「八つの人道」を象徴化したものを置きました。

それは、「正しく物事を見る。人の喜びを喜ぶ。思いやりを持って語る。疑われる行動を慎む。常識的な生き方をする。自分の役割をしっかりと努める。物事に感謝する。落ち着いて対処する」実践で、「安らぎ」の世界を実現できると説かれた。

校 是

本学は、駒澤大学の建学の精神に基づき 信、誠、敬、愛 を校是に掲げ、豊かな情操と透徹した知性によって、「行学一如」の実践に努める人間形成を教育の基本に据えている。

信 とは、かけがえない真実の自己に対する確認と他の生命の尊厳性を 認め、互いに信じあうこと。

誠 とは、至誠の心をもって学業に精励し、正しい自己形成の道を限り なくひたむきに歩むこと。

敬 愛 とは、慈悲の営みであり、主体性を確立しながら共同体として、人間社会の連帯感に目覚め、互いに奉仕しあい慈しみあうこと。

目 次

教育課程の考え方	p.1
1. 教育理念	p.2
2. 教育目的	p.2
3. 教育目標	p.2
4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	p.2
5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	p.3
6. 入学者受け入れの条件（アドミッション・ポリシー）	p.4
7. 学年目標	p.5
8. 主要概念	p.6
カリキュラムと教科外活動	p.8
1. 教育課程	p.9
2. 教育課程進捗	p.10
3. 1年次カリキュラム	p.11
4. 2. 3年カリキュラム	p.12
5. 教科外活動	p.13
授業科目と講義概要	p.14
基礎分野	p.15
専門基礎分野	p.30

目 次

専門分野	p.54
1) 基礎看護学	p.54
2) 地域・在宅看護論	p.70
3) 成人看護学	p.78
4) 老年看護学	p.87
5) 小児看護学	p.93
6) 母性看護学	p.100
7) 精神看護学	p.106
8) 看護の統合と実践	p.112
9) 領域横断科目	p.120
10) 臨地実習	p.128
複数教員が担当する科目の配点表	p.141

教育課程の 考え方

1. 教育理念

本学は、駒澤大学の建学の精神である「仏教」の教えと「禅」の精神に基づき、社会や医療の急速な変化や国際化に対応するとともに、保健医療福祉チームの一員として地域住民一人ひとりの健康と福祉に貢献する看護職者を育成することを使命とする。

「仏教」の教えと「禅」の精神である「行学一如」の実践に務め、加えて高い倫理観をもつ看護の専門職を育成することを目指している。「行学一如」の「行」とは実践であり、「学」とは学問研究であり、実践と学問研究を一体化することを意味し、校是である「信誠敬愛（シンセイケイアイ）」は、「行学一如」を具現化したものである。

本学では、看護とは、人間個々の有している能力を最大限に発揮できるように、基本的欲求の充足に視点を置き、生活を整える実践活動であり、あらゆる健康のレベルの個人および家族と集団を援助する社会的活動であるととらえている。さらに、看護は、人間愛と生命の尊厳を護ることを基盤に、対象者との関係を形成しながら支援する活動であり、看護職は保健医療福祉チームと協働し、変化する社会の中での役割を認識し、人々の健康状態の向上に寄与することを目指している。

2. 教育目的

「仏教」の教えと「禅」の精神を基盤として、専門的な知識・技術に加えて高い倫理観をもった看護専門職者として、惜しみなく社会に貢献しうる人材を育成する。

3. 教育目標

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2) 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と人間関係を形成する能力を養う。
- 3) 看護師としての責務を自覚し、倫理的な判断に基づいた看護を対象者のQOLの向上を考えて、実践する基礎的能力を養う。
- 4) 多様な健康課題を明確にし、対象者の個別性に合わせて看護を実践するための科学的・論理的思考能力を養う。
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連する各職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
- 6) 看護職者として、看護の質の向上を図るために、向上心をもち自己研鑽する能力を養う。

4. 卒業認定・学位授与の方針（デュプロマ・ポリシー）

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を修得している。
- 2) 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と、人間関係を形成する能力を身につけている。
- 3) 対象者のQOLの向上を目指し、倫理的判断に基づいた看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
- 4) 対象者の健康課題の解決に向けて、科学的・論理的な判断に基づいた看護を検討する能力を身につけている。

- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連する各職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を修得している。
- 6) 自己の学修状況を振り返り、看護の専門職として自己研鑽する姿勢を身につけている

5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護の専門職業人として必要な知識・技術を学修し、人間愛とに基づいた対人関係を形成しながら看護を実践する力を備え、地域社会に惜しみなく貢献できる看護職者を育成するために、以下の方針に基づき教育を実施し、ディプロマポリシーの達成を図る。

- 1) 教育課程は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野である看護学から構成され、カリキュラムデザインは、基礎となる基礎分野、専門基礎分野の授業科目の学修と同時に看護学の専門知識・技術を系統的、段階的に学修できるよう配置する漸進型デザインとする。
- 2) 基礎分野は、「専門基礎分野」、「専門分野」の基盤として、科学的思考力を養い、看護の対象である人間と生活・社会の理解についての内容で構成する。「科学的思考の基盤」では、物理学的視点から看護技術を学ぶ内容と論理的な思考の強化、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的な知識・技術を学習する科目で構成する。「人間と生活・社会の理解」では人間・社会についての幅広い理解と社会関係を形成するために必要な科目で構成する。さらに、本学は、建学の精神に仏教の教えを基盤に据えていることから、仏教学の基礎的知識を含めている。
- 3) 専門基礎分野は、専門分野である看護学の基盤として「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」からなり、様々な健康レベルある対象に必要な観察力・判断力を養い、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的知識を学ぶ内容としている。さらに、健康や障害の状態に応じた社会資源を活用するために、「健康支援と社会保障制度」を学び、保健医療福祉チームと連携・協働するための基礎的知識で構成している。とくに、地域・在宅で生活する人々の健康課題と健康管理の現状に焦点を当てた「健康管理論」、地域・在宅医療の現状と課題及び多職種連携について学ぶ「地域・在宅医療論」を設け、地域・在宅看護論に繋がられるようにする。
- 4) 専門分野は、8看護学領域から成り立っている。看護に共通する基礎的知識・技術・態度を内容とする「基礎看護学」、地域・在宅で療養する人々とその家族の生活に視点をおいた多様な場で展開される看護、多職種連携を内容とする「地域・在宅看護論」、人間の成長発達と様々な健康状態の看護に焦点をおいた「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」、周産期を中心に女性の一生に焦点をおいた「母性看護学」、人間の心・精神の健康に焦点をおいた「精神看護学」、専門基礎分野と領域別の看護学で学んだ内容を統合し、看護実践能力の強化を図る「看護の統合と実践」である。

さらに、成人看護学、老年看護学、小児看護学に関連・共通する内容をまとめた領域横断科目を、「人間発達論」、「周術期看護」、「セルフマネジメントを支える看護」、「がん看護」の4科目を設定した。

臨地実習では、既習の知識・技術をもとに、看護実践の場面に適用し、看護理論と実践を結びつけられるように、学内の授業進度を工夫するとともに、「看護研究」の授業で看護実践を振り返る機会を設けている。さらに、実習施設が多岐に渡っていることから、実習指導教員、実習指導者との連絡・調整を密にすることを心がけている。各看護学の臨地実習において機会を逃さずに保健・医療・福祉との連携・協働、チーム医療、多職種連携を学ぶことができるよう調整を図るとともに、地域・在宅看護論実習、看護統合実習においては意図的に学習内容に挙げている。

5) 教育方法では、学生の主体性を育むために、アクティブラーニングを用いた授業を各学年に実施することとした。

具体的には、グループダイナミクスを考慮した少人数による演習、臨場感のもてるシミュレーション教育、関心のある看護・医療分野の文献検索と先行研究の知見を得られる教育環境を整えることなどが挙げられる。

6. 入学者受け入れの条件（アドミッション・ポリシー）

本学では、「行学一如」の実践に務め、加えて高い倫理観をもつ看護の専門職を育成するため、次のような学生を求める。

- 1) 人々の健康と生活に関心をもち、看護職として地域社会に貢献しようとする意志がある人。
- 2) 入学後の学習に必要な基礎学力を有し、自分自身の健康管理ができる人。
- 3) 豊かな感性をもち、柔軟に物事を考え、誠実で責任感のある人。
- 4) 物事に積極的に、誠実に、責任をもって取り組む姿勢のある人
- 5) 人々との交流を大切にし、他者を尊重し、思いやりのある関係を築ける人。

7. 学年目標

ディプロマ・ポリシー	2年次到達目標	1年次到達目標
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を修得している。	1. 人間は、受胎から死まで絶えず成長発達を続ける存在であることを理解し、各発達段階の課題の達成状況をとらえられる。 2. 様々な発達段階にある人間を身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された存在としてとらえられる。 3. 人間は、環境と相互に作用し、変化するとともに人間の健康に影響を与えていることを理解できる。	1. 人間の身体のしくみと働きについて理解できる。 2. 人間の成長発達について、各期の特徴と発達課題の達成状況からとらえられる。 3. 人間を身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された存在としてとらえられる。 4. 人間は、環境と相互に作用しながら影響を受け、変化する存在であることを理解できる。

ディプロマ・ポリシー	2 年次到達目標	1 年次到達目標
<p>2. 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と、人間関係を形成する能力を身につけている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理と医療・看護における倫理的課題について考えられる。 2. 生命の尊厳と人々の権利を尊重し、かけがえのない人間として尊重する態度を身につける。 3. 相手の立場に立ち、傾聴・共感の姿勢をもち、関係を形成できる。 4. 自己および他者を理解し、他者を尊重して、互いに支え合い、成長し合う関係を築くことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊さについて考えられる。 2. 人間は様々な社会的文化的な背景の中で、個々のパーソナリティと価値観を培っていることを理解できる。 3. 異なる価値観をもつ人を理解し、関係を形成しようと努力できる。 4. 自己の言動を振り返り、自己と他者の言動を客観的にとらえられる。
<p>3. 対象者の QOL の向上を目指し、倫理的判断に基づいた看護を実践することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な対象者に合わせて実践した看護を QOL と倫理的な視点で振り返られる。 2. 対象者の特徴に合わせて、安全・安楽・自立を考えた看護を実践できる。 3. 対象者の QOL の向上を目指した看護を検討できる。 4. 医療・看護の安全を考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を倫理的な視点で振り返り、対象者の立場に立ち、よりよい看護について考えられる。 2. 看護を実践するために必要な看護技術を身につけられる。 3. 対象者の特徴に合わせて、安全安楽を考えた看護を実践できる。 4. 医療安全の意義を理解できる
<p>4. 対象者の健康課題の解決に向けて、科学的・論理的な判断に基づいた看護を検討する能力を身につけることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識に基づき、収集した情報を科学的・論理的に分析し、対象者の健康に関する課題をとらえられる。 2. 対象者の症状や訴えから健康状態をとらえるための知識、判断力、思考力を身につけようと努力できる。 3. 対象者の健康上の課題の解決に向けて、根拠に基づいた個別性のある看護を考えられる。 4. 看護実践の効果について検討できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の課題を科学的根拠に基づいて解決するための方法を理解できる。 2. 対象に応じた看護行為の根拠を考えることができる。

ディプロマ・ポリシー	2年次到達目標	1年次到達目標
5 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連する各職種役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を修得している。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉チームが連携・協働していることをイメージ化できる。 2. 看護チームの一員としてメンバーの役割を果たすことができる。 3. 対象者の看護および保健医療福祉チームの連携・協働する場面の見学をとおして、看護職の役割を考えられる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会において保健・医療・福祉チームが果たしている役割・機能を理解できる。 2. 保健・医療・福祉チームにおける看護職の役割を理解できる。 4. グループのリーダーとメンバーの役割を理解し、グループの一員として協力・連携することができる。 3. 看護チームの一員として、役割を果たそうと努力できる。
6 自己の学修状況を振り返り、看護の専門職として自己研鑽する姿勢を身につけている。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践した看護を振り返り、看護についての考えを述べられる。 2. 興味・関心のある分野の文献の知見を得て、自己研鑽に励むことができる。 3. 学習姿勢及び実践した看護を振り返り、自己課題を明確にし、解決に向けて努力できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学のみならず、社会情勢及び他の学問分野に関心を持ち自己研鑽しようとする努力できる。 2. 学内の授業および臨地実習を通して、自己課題を明確にし、解決に向けて努力できる。

8. 主要概念

カリキュラムを編成するにあたって、基本となる主要概念は下記のとおりとらえている。

<人間>

1. 人間は、信念、価値観などの固有の自己概念をもつ存在であり、一人ひとり尊重されるべき存在である。
2. 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
3. 人間は、受胎から死まで絶えず成長発達し続ける存在であり、各発達段階には達成や獲得が期待される課題がある。
4. 人間は、環境と相互作用しながら、主体的に環境に働きかけ、変化する存在である。
5. 人間は、社会関係の中で学び、互いを支え合い成長していく存在である。
6. 人間は、豊かなコミュニケーションおよび思考能力、意思決定力、感情を有し、家族を含めた他者との関係を形成する。

<環境>

1. 環境は、自然・社会・生活などの外部環境と身体内部の生理的・心理的機能の内部環境がある。
2. 環境と人間は、相互に影響し合い環境を変化させ、直接的、間接的に人間の健康や成長発達に変化を与えている。
3. 社会は、生活の基盤となる地域社会、家庭があり、独自の規範・習慣を有する。
4. 社会は、政治、経済、法律、文化、教育、保健、医療、福祉などの機能を有する。

<健康>

1. 健康は、良好な状態から死に至るまで連続的・流動的に変化するものであり、身体的・精神的・社会的側面が互いに影響し合っている。
2. 良好な健康とは、自らの能力を最大限に発揮し調和が取れている状態である。
3. 健康は、生活のあり方および生活の自律性に影響され、環境との相互作用のなかで変化する個別的なものである。
4. 健康は、その人らしい生活を営むための基盤となるものであり、基本的な権利である。
5. 健康は、生きていくうえで基本となるものであり、一人ひとりの人生の目標を達成するための手段である。

<看護>

1. 看護は、様々な成長・発達段階にあるすべての人、あらゆる健康レベルの個人とその家族および集団を対象とする。
2. 看護は、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、その人らしく生を全うできるように支援することを目的とする
3. 看護は、人間個々の有している能力を最大限に発揮できるように、基本的欲求を充足できるよう生活を整える実践活動である。
4. 看護は、人間愛と生命の尊厳を護ることを基盤に、対象者との関係を形成しながら支援する活動である。
5. 看護は、社会のニーズに対応し、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働し、看護の専門職として独自の役割を担う。
6. 看護は、看護・医療事故の予防ができ、安心・安全で質の高い看護を提供することを目指す。

<学修・教育>

1. 学修とは、学修者が主体的に経験を意味づけし自己成長していく過程であり、内発的動機づけで促進される。
2. 教育とは、学修者と教育者の相互作用であり、教育者は学習環境を整え、学修者の能力を伸長し変化するように意図的・計画的に働きかけることである。
3. 教育者と学修者は互いに尊重し、影響を受けながら、ともに成長する関係形成を目指すものである。
4. 看護基礎教育は、専門職業人として看護を追求していくための基盤となり、看護学の発展に寄与するものである。

カリキュラム と教科外活動

教育課程

分野	科目名	単位数	時間数		備考	分野	科目名	単位数	時間数		備考
			講義	実習					講義	実習	
基礎分野	科学的思考の基礎	看護物理学	1	15		専門分野	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15		
		論理学	1	30			地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30		
		情報処理演習	1	15			地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30		
		情報技術と看護	1	15			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30		
		法学入門	1	15			家族看護論	1	15		
	人間と生活の理解	心理学	1	30			多職種連携	1	30		
		人間関係論	1	30			成人看護学概論	1	30		
		仏教学概論	1	15			成人看護学援助論Ⅰ	1	30		
		生命倫理	1	15			成人看護学援助論Ⅱ	1	30		
		社会学	1	30			成人看護学援助論Ⅲ	1	30		
		英語Ⅰ	1	30			老年看護学概論	1	15		
		英語Ⅱ	1	30			老年看護学援助論Ⅰ	1	30		
		日本語表現	1	15			老年看護学援助論Ⅱ	1	30		
		教育学	1	30			小児看護学概論	1	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15		小児看護学援助論Ⅰ	1	30			
		解剖生理学Ⅱ	1	30		小児看護学援助論Ⅱ	1	30			
		解剖生理学Ⅲ	1	30		母性看護学概論	1	30			
		解剖生理学Ⅳ	1	30		母性看護学援助論Ⅰ	1	30			
		生化学	1	30		母性看護学援助論Ⅱ	1	30			
		臨床栄養学	1	15		母性看護学援助論Ⅲ	1	15			
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30		精神看護学概論Ⅰ	1	15			
		薬理学Ⅰ	1	30		精神看護学概論Ⅱ	1	30			
		薬理学Ⅱ	1	30		精神看護学援助論Ⅰ	1	30			
		微生物学	1	30		精神看護学援助論Ⅱ	1	30			
		病態治療論Ⅰ	1	30		看護管理	1	30			
		病態治療論Ⅱ	1	30		医療安全	1	30			
		病態治療論Ⅲ	1	30		災害看護と国際看護	1	30			
		病態治療論Ⅳ	1	30		看護統合演習	1	30			
		リハビリテーション概論	1	15		人間発達論	1	30			
		病態治療論演習	1	15		周術期看護	1	30			
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	15		セルフマネジメントを支える看護	1	30			
		地域・在宅医療論	1	15		がん看護	1	30			
		社会福祉	1	30							
		関係法規	1	15							
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30		基礎看護学実習Ⅰ	1	45			
		看護学概論Ⅱ	1	30		基礎看護学実習Ⅱ	2	90			
		共通基本技術	1	30		地域・在宅看護論実習	2	90			
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30		成人看護学実習Ⅰ	2	90			
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30		成人看護学実習Ⅱ	2	90			
		フィジカルアセスメント技術	1	30		成人看護学実習Ⅲ	2	90			
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15		老年看護学実習Ⅰ	2	90			
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30		老年看護学実習Ⅱ	2	90			
		看護過程	1	30		小児看護学実習Ⅰ	1	45			
		看護研究の基礎	1	15	3:11	小児看護学実習Ⅱ	1	45			
		看護研究	1	30		母性看護学実習	2	90			
						精神看護学実習	2	90			
						看護統合実習	2	90			
合計	基礎分野<14単位 (315時間)> 専門基礎分野<22単位 (525時間)> 専門分野 講義<79単位(1165時間)> 随地実習<13単位 (3035時間)>					総計 102単位 (3060時間)					

1年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数	
			講義	実習				講義	実習
基礎分野	看護物理学	1	15		専門分野	看護学概論Ⅰ	1	30	
	情報処理演習	1	15			看護学概論Ⅱ	1	30	
	法学入門	1	15			共通基本技術	1	30	
	心理学	1	30			日常生活援助技術Ⅰ	1	30	
	人間関係論	1	30			日常生活援助技術Ⅱ	1	30	
	仏教学概論	1	15			フィジカルアセスメント技術	1	30	
	生命倫理	1	15			診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15	
	社会学	1	30			看護過程	1	30	
	英語Ⅰ	1	30			地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	
	日本語表現	1	15			成人看護学概論	1	30	
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	15		老年看護学概論	1	15		
	解剖生理学Ⅱ	1	30		母性看護学概論	1	30		
	解剖生理学Ⅲ	1	30		精神看護学概論Ⅰ	1	15		
	解剖生理学Ⅳ	1	30		人間発達論	1	30		
	生化学	1	30		基礎看護学実習Ⅰ	1		45	
	臨床栄養学	1	15		基礎看護学実習Ⅱ	2		90	
	病理学	1	30						
	薬理学Ⅰ	1	30						
	微生物学	1	30						
	病態治療論Ⅰ	1	30						
	病態治療論Ⅱ	1	30						
	リハビリテーション概論	1	15						
	病態治療論演習	1	15						
	医療概論	1	15						
	公衆衛生学	1	15						
	健康管理論	1	15						
	1年次開講科目							科目数	単位数
基礎分野							10	10	210
専門基礎分野							16	16	375
専門分野							16	17	495
計							42	43	1080

2年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数	
			講義	実習				講義	実習
基礎	論理学	1	30		専門分野	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	
	英語Ⅱ	1	30			母性看護学援助論Ⅱ	1	30	
専門基礎分野	薬理学Ⅱ	1	30			母性看護学援助論Ⅲ	1	15	
	病態治療論Ⅲ	1	30			精神看護学概論Ⅱ	1	30	
	病態治療論Ⅳ	1	30			精神看護学援助論Ⅰ	1	30	
	社会福祉	1	30			精神看護学援助論Ⅱ	1	30	
	関係法規	1	15			周術期看護	1	30	
専門分野	診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30			セルフマネジメントを支える看護	1	30	
	看護研究の基礎	1	15			がん看護	1	30	
	地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30			成人看護学実習Ⅰ	2		90
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30			成人看護学実習Ⅱ	2		90
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30			老年看護学実習Ⅰ	2		90
	成人看護学援助論Ⅰ	1	30		小児看護学実習Ⅰ	1		45	
	成人看護学援助論Ⅱ	1	30						
	成人看護学援助論Ⅲ	1	30						
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30						
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30						
	小児看護学概論	1	30						
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30						
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30						
2年次開講科目							科目数	単位数	時間
基礎分野							2	2	60
専門基礎分野							5	5	135
専門分野							26	29	945
計							33	36	1140

3年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数	
			講義	実習				講義	実習
基礎	情報技術と看護	1	15		専門分野	地域・在宅看護論実習	2		90
	教育学	1	30			成人看護学実習Ⅲ	2		90
専門基礎	地域・在宅医療論	1	15			老年看護学実習Ⅱ	2		90
専門分野	看護研究	1	30			小児看護学実習Ⅱ	1		45
	家族看護論	1	15			母性看護学実習	2		90
	多職種連携	1	30			精神看護学実習	2		90
	看護管理	1	30			看護統合実習	2		90
	医療安全	1	30						
	災害看護と国際看護	1	30						
	看護統合演習	1	30						
3年次開講科目							科目数	単位数	時間
基礎分野							2	2	45
専門基礎分野							1	1	15
専門分野							14	20	780
計							17	23	840

教科外活動

	1年生	時間	2年生	時間	3年生	時間
4月	入学式	4				
	入学ガイダンス	16				
	積尊降誕会	1			実習ガイダンス	2
	新入生歓迎会(学友会)	2	新入生歓迎会(学友会)	2	新入生歓迎会(学友会)	2
	健康診断	4	健康診断	4	健康診断	4
	防火避難訓練	4	防火避難訓練	4	防火避難訓練	4
	ユニフォームサイズ合わせ	2				
5月						
6月	スポーツ交流会(学友会)	8	スポーツ交流会(学友会)	8		
7月						
8月						
9月	実習激励会(学友会)	2	実習激励会(学友会)	2		
			実習ガイダンス	2		
10月	決意式練習	4		4		
	決意式	4				
11月			低学年国家試験模擬試験	4		
12月			実習報告会	2	国試対策補講・模試	12
1月					国試対策補講・模試	12
2月	予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2
				6	卒業生交流会	2
3月					卒業式練習	2
	卒業式	2	卒業式	2	卒業式	2
通年	単位修得試験	43	単位修得試験	28	単位修得試験	5
小計		98		70		49
総計			217	時間		

授業科目と 講義概要

基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護物理学	1	15	1年前期	合同	森山 隆則 実務経験あり(臨床検査技師)

科目のねらい

物理学の法則に基づいて身近な看護実践を具体的ににとりながら、物理学の知識を用いた科学的な思考を学ぶ。この授業では、看護技術と物理学を結びつけながら授業・演習を進めることで、物理学の知識に裏づけられた看護技術の根拠を確かなものとし、対象者に看護を適用する際の基盤を形成することをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
1	1. SI 単位の概略	医療過誤と単位の間違え, 重さ・容積・濃度の単位と換算方法	講義・演習
2	2. 体位変換に必要な物理学	力の合成と分解, てこの原理, 重心, トルク	
2	3. 温度の定義と医薬品の保存温度	摂氏・華氏・絶対温度, 冷蔵庫・冷凍庫の温度	
2	4. 冷罨法と温罨法の物理学	水の比熱・融解熱・気化熱, 低体温症	
1	5. 電気に関する基礎理論	オームの法則, 直流と交流, 電気ショック	
2	6. 圧力の定義と血圧	トリチェリーの実験, 圧力の単位, 酸素ポンベの取り扱い, 加圧蒸気滅菌装置(オートクレーブ)	
2	7. 酸・アルカリ・pH および溶液の濃度	水素イオン濃度と pH, 様々な体液の pH, 浸透圧の定義, 血液透析の原理, 濃度の様々な表示方法と換算	
2	8. 超音波・電磁波・放射線	超音波の定義と応用, 紫外線・赤外線の影響, 放射線の応用と被曝	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 教員が作成する配布資料

参考図書 : ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学ー (学研)

学生のみなさんへ : 積極的な質問を歓迎します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
論理学	1	30	2年前期	合同 クラス別	林寺 正俊 実務経験あり (大学准教授)

科目のねらい

仏教は、「苦しみや悩みはどのようにして起こるのか」「どうしたらその苦しみや悩みはなくなるのか」ということを論理的に説き、そのうえで苦しみや悩みをなくすための実践方法を説くが、このことは、状況を把握・分析し、適切な方策を考えて実施する「看護」に通ずる面がある。

この授業では、仏教の教えの論理的な面について学ぶとともに、思考実験・グループ討論・推論の練習を行なうことにより、論理的に思考する力・論理的に説明（表現）する力の習得をめざす。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習内容
2	論理(学)とは何か	板書と配布プリントをもとに、各単元の内容を学ぶ。	講義・演習
2	論理と倫理		
2	仏教の教えと論理－四諦(1)		
2	仏教の教えと論理－四諦(2)		
2	仏教の教えと論理－縁起		
2	仏教の教えと論理－慈悲		
2	仏教における看護の論理		
2	仏教における看護の事例		
2	思考実験とグループ討論(1)		
2	思考実験とグループ討論(2)		
2	思考実験とグループ討論(3)		
2	推論(1)－演繹法		
2	推論(2)－仏教論理の三支作法		
2	推論(3)－帰納法		
2	総 括		
1	単位修得試験		

評価方法 : 授業で提出する出席票 (30%) と筆記試験 (70%)

教科書 : 適宜プリントを配布

参考文献 : なし

学生のみなさんへ : 看護師として医療現場でいろいろな人と接することになるみなさんにとって、コミュニケーションの力は大事です。この授業を通して、論理的に筋道を立てて考える力、自分の考えを的確に伝える力、相手の考えを理解する力を養っていきましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
情報処理演習	1	15	1年前期	合同	平間 嘉 実務経験あり(第一種情報処理者)

科目のねらい

パソコンの基本操作を理解し、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等アプリケーションソフトの基本操作、表やグラフ、画像等を使ったドキュメントの作成方法を習得することをねらいとする。

他の授業でのレポートやプレゼンテーション等の作成時に活用できるような、基礎的な知識・技術を身につけられるように教授する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	Windows 基礎	Windows 基礎 Windows の仕組みや基本的な操作方法を習得する。	講義 演習
4	Word 基礎	Word 基礎 日本語の入力方法、報告書や案内文の作成方法を習得する。	講義 演習
4	Excel 基礎	Excel 基礎 文字・数値・計算式の入力方法、計算を伴う帳票・グラフの作成方法を習得する。	講義 演習
4	PowerPoint 基礎	PowerPoint 基礎 スライドの作成方法やプレゼンテーション時の効果設定方法を習得する。	講義 演習
1	単位修得試験		

評価方法：単位修得認定試験用提出物にて評価する

教科書：ワード2016、エクセル2016（学研）、プリント

参考文献：

学生のみなさんへ：仕事の効率化を高めるためには、パソコンは必要不可欠なツールです。

パソコンの基本操作を、しっかりと身につけましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
情報技術と看護	1	15	3年前期	合同	小杉直美(大学教育学部教授) 根本 香(看護師)

科目のねらい

情報通信技術（ICT）の発展に伴い、保健医療福祉の分野にも様々な ICT が導入されている現状にある。看護師は、患者に一番近い専門職者として、患者を観察することから得られる情報をもとに、適切なケアを展開するとともに、様々な職種と連携・協働を行っていることから情報リテラシーを習得することは重要なことである。しかし、その一方で情報の流出や情報がうまく伝わらないことによるトラブルや医療事故の危険性もある。

この授業では、ICT を活用するための基礎的知識と保健医療における情報の特徴、情報と倫理について理解を深めるとともに医療・看護情報に関係する倫理的課題について検討する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	情報と情報社会 (小杉)	1. 情報の定義と特徴 2. 社会と情報	講 義
4	保健医療における情報 (根本)	1. 保健医療と情報 2. 看護と情報 3. 医療における情報システム ・電子カルテ ・地域医療福祉ネットワークと情報システム * 医療現場における実践的な取り組み	
4	医療情報と倫理 (小杉、根本)	1. 情報倫理と医療 2. 患者の権利と情報 3. 個人情報の保護	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院

参考文献：必要に応じて紹介します。

学生のみなさんへ：

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
法学入門	1	15	1年前期	合同	小野田 充宏 実務経験あり(弁護士)

科目のねらい

看護師が関係する法律を学習するための基礎として、この授業を位置づけている。この授業では、法の基礎知識および憲法、刑法、民法等の基本的な法律について学ぶことを通して、看護の対象者の人格の尊厳を尊重することの意味を検討する機会としたい。さらに、社会生活における様々な現象について法律の視点から考えられるようにしたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	法の基礎知識	法的な思考というものの特色や、法と倫理の関係を含め、法を学んでいく上で理解しておくべき基本的な知識を学ぶ。	講義
2	患者の人権と医療政策の基礎－憲法と行政法	憲法（日本国憲法）と行政法の概要を学んだ上で、医療従事者が特に理解しておくべき患者の自己決定権やプライバシー権（個人情報の保護を含む）、生存権等を重点的に学ぶ。	
2	人の生命・身体の安全の刑法的保護－刑法	犯罪と刑罰について定める刑法の基本を学んだ上で、人の生命及び身体の安全が刑法等においてどのように保護されているのかを、安楽死・尊厳死の問題や脳死・臓器移植法の内容を含めて学ぶ。	
2	市民社会における「人」とその保護－民法①	市民社会の主役である「人」がどのように守られているかを、「子ども」や「高齢者」の保護に関する民法上及び関連する法律上の制度を中心に学ぶ。	
2	契約と不法行為－民法②	民事医療過誤法を理解するための基礎となる「契約」（医療契約・医療保険制度を含む）や「不法行為」の基本的な事項を学ぶ。	
1	事故による法的責任と紛争解決制度	事故を起こした場合に生ずる刑事上、民事上及び行政上の3つの法的責任と、それぞれの責任を問う手続について学ぶ。	
3	労働に関する法	働く者として理解しておくべき労働に関する法（母性保護のための措置や各種ハラスメントを含む）の基礎を学ぶ。	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：看護のための法学（第5版）

ミネルヴァ書房

参考文献：必要時、資料を配布します

学生のみなさんへ：積極的な質問を歓迎します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
心理学	1	30	1年前期	合同	鈴木 珠世 実務経験あり(認定心理士)

科目のねらい

心理学は人間の心のメカニズムを科学的に解明する学問であり、大きく基礎心理学と応用心理学に分かれている。基礎心理学は、すべての人間が持っている心の仕組みの一般法則を解明することを目的としており、応用心理学は基礎心理学をふまえて生活の中で具体的に活用することをねらいとした学問である。この授業では、心理学の歴史の変遷と研究方法などから学問としての特徴をふまえて、基礎心理学の中から、代表的な心理学を学ぶことを目的とする。看護の対象である人間および自分自身の心理状態を理解するための基盤となる授業であり、演習を含めて教授する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	心理学とは何か	心理学の分類・歴史 錯視から学ぶ心理学	講義
2	パーソナリティ理論	遺伝と環境、類型論と特性論	講義+演習
6	心理査定	心理検査の分類・種類・体験 体験・アセスメント プロフィール作成・まとめ	講義+演習 演習+講義 演習+講義
6	患者理解	フロイト・構造論と局所論・防衛機制 ストレス理論・ストレスチェック	講義+演習 演習
8	発達の心理学	発達段階（胎児・乳児・幼児）・ピアジェ スクイグル法実施・スクイグル法発表 発達段階（児童・青年・成人） 発達段階（老年）・エリクソン	講義 演習 講義 講義
2	学習の心理学	古典的条件付け・道具的条件付け	講義
4	ヒトの欲求	人間心理学（マズローの欲求階層説） 葛藤と欲求不満・グループワーク・まとめ	講義 講義+演習
1	単位修得試験		

評価方法：出席状況・授業態度・提出物・レポート・テストにより総合的に評価する。

教科書：心理学 医学書院

参考文献：その都度紹介します

学生のみなさんへ：心理学に対して「人の心が読めるようになる・・・」、心理学＝心理テスト・恋愛テストという印象をもつ人が多いようですが、実際には「科学的」な検証によって確立された学問の1つであり、安易なものではありません。ですが、できるだけ皆さんに興味を持ちながら講義に参加してもらえるように、身近に起きている事象を取り上げながら進めていく予定です。

科目	単位	時間数		講義時期	授業形態	講 師
人間関係論	1	30		1年後期	合同	鈴木 珠世 実務経験あり(認定心理士)

科目のねらい

看護は、援助を必要とする人々や多職種との密接な人間関係を形成し、成り立っている。さらに、対象者とのケアを実践するにあたって、看護職者間及び多職種との連携・協働が必須である。そのため、人間関係を築くことの重要さと考え方、知識と専門的な技法についての基礎的理論を学ぶことをねらいとする。

この授業では、グループワークや心理療法体験などの演習をとおして自己理解を深め、良好な関係づくりの基本を学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	アサーション コミュニケーションとは	アサーションチェック SPカードを使用して自己理解とグループワーク	講義・GW 演習
4	グループワークによる 多様な情報のまとめ方	KJ法(説明・作業・制作) KJ法(制作・発表・質疑応答・まとめ)	演習
8	様々な心理療法	支持的精神療法・表現療法・洞察療法 訓練療法(体験)・認知療法 行動療法(作成) 芸術療法(体験) 家族療法・家族システム・サイコドラマ	講義 講義+演習 演習 演習 講義
4	SST	SST(説明・ロールプレイ実施) SST(発表・まとめ)	講義+演習 演習+講義
6	インテーク面接	説明 ロールプレイ実施 まとめ・報告書作成	講義 演習 講義+演習
4	心の病理と健康	精神障害者とのコミュニケーション・支援 コラージュ療法(体験)・まとめ	講義 講義+演習 演習+講義
1	単位修得試験		

評価方法 : 出席状況・授業態度・提出物・レポート・テストにより総合的に評価する。

教科書 : 人間関係論 医学書院

参考文献 : その都度紹介します

学生のみなさんへ : 患者さんや心に問題を抱えた人々が実際に行なっている心理療法の紹介も含めながら、実際に体験し、自己理解を深める様な内容を中心に進めていく予定です。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
仏教学概論	1	15	1年後期	合同	谷川 靖郎 実務経験あり (文学部東洋哲学博士課程修了)

科目のねらい

日本の文化には仏教の教えがさまざまな形でいきっており、人々の生活習慣や死生観にも影響をおよぼしている。この授業では、仏教の基礎知識を学ぶとともに、人間の生と死、人生の意味や目的などの根源的な問題について問い、人間にとっての宗教の意味を考えることをねらいとする。

授業進度と内容

時間	学習内容	学習方法
2	宗教としての仏教	講 義
2	釈尊の生涯と教え	
2	菩薩と大乘仏教	
2	浄土と大乘仏教	
2	浄土と他力	
2	空の思想	
2	禪	
1	単位修得試験	

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 毎回資料を配布

参考文献 : その都度紹介します。

学生のみなさんへ :

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
生命倫理	1	15	1年後期	合同	谷川 靖郎 実務経験あり (文学部東洋哲学博士課程修了)

科目のねらい

倫理学の基本的な考え方を学び生命倫理をめぐる諸問題を検討することをねらいとする。この授業では、自ら考え、自らの言葉で表現することを通じて、看護師として、あるいは人間として必要な倫理的感性および判断力を身につけさせたい。

授業進度と内容

時間	学習内容	学習方法
2	1. 倫理学とは何か	講義
2	2. 倫理学の諸理論	
2	3. 医療と生命倫理	
2	4. 医療資源の配分問題	
2	5. 誕生をめぐる問題	
2	6. 死をめぐる問題	
2	7. 現代の諸問題	
1	単位修得試験	

評価方法 : 各回で行う小レポート (60%)、および学期末のレポート (40%) により評価する。

教科書 : 『看護のための生命倫理』ナカニシヤ出版、2019.

参考文献 : その都度紹介します。

学生のみなさんへ :

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
社会学	1	30	1年前期	クラス別	鄭斗鎬 (チョン・ドウホ) 実務経験あり (文学部文学研究課程修了)

科目のねらい

社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する。

最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	社会学	社会学とは何かを紹介	講義
2	現代社会の理解(1)	社会始システムと社会システムの安定性	講義
2	現代社会の理解(2)	法と社会システム-法の疎遠生・普遍性・不変性-	講義
2	現代社会の理解(3)	経済と社会システム -交換と市場-	講義
2	現代社会の理解(4)	社会変動とは何か	講義
2	現代社会の理解(4)	人口からみた社会変動	講義
2	生活の理解(1)	生活のとらえ方	講義
2	生活の理解(2)	家族について	講義
2	生活の理解(3)	地域について	講義
2	人と社会の関係(1)	社会的行為	講義
2	人と社会の関係(2)	社会的役割	講義
2	人と社会の関係(3)	社会集団と組織	講義
2	人と社会の関係(4)	社会的ジレンマ	講義
2	人と社会の関係(5)	社会関係資本と社会的連帯	講義
2	社会問題の理解	社会問題のとらえ方と日本の社会問題・共生社会	講義
1	単位修得試験		

評価方法： 出席状況・毎回の小テスト+単位修得試験

教科書： 新・社会福祉養成講座 社会理論と社会システム 中央法規

参考文献： 講義中に適宜紹介します。

学生のみなさんへ： 看護は社会の中で営まれます。また、看護のあり方は社会のあり方に大きく影響をうけます。それゆえ、よりよい看護を行うためには、適切に社会の現状や社会問題を把握する能力が必要です。そうした能力を、楽しみながら身につけてほしいと思います。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
英語 I	1	30	1年後期	クラス別	鳴海 恭子 実務経験あり(英語講師)

科目のねらい

日常にも使える自己紹介、道案内などのほか、看護場面で想定されるもっとも基本的な会話表現と、診療科目、病状、病名などの看護に必要な専門用語を学びます。

授業進度と内容

回	時間	単元	学習内容	学習方法
1	2	Unit 1	聞き返し方 診療科名①	<ul style="list-style-type: none"> 医療現場に必要な会話を覚え Activity で何度も練習し、実際に使えるようにする。 医療用語の英単語を毎回導入し、次回小テストを行う。
2	2	Unit 2	初対面の会話 診療科名②	
3	2	Unit 3	受付での会話(1) 症状名①	
4	2	Unit 4	受付での会話(2) 症状名②	
5	2	Unit 5	道順の尋ね方 症状名③	
6	2	Unit 5	病院内の案内 症状名④	
7	2	Unit 6	症状の Q&A (1) 人体外部名称	
8	2	テスト*1 Unit 6	人体外部名称テスト 症状の Q&A (2) 人体内部名称	・筆記テスト
9	2	テスト*1 Unit 7	人体内部名称テスト 症状の Q&A (3) 病名①	・筆記テスト
10	2	Unit 8	病歴の Q&A 病名②	・第1回～第7回と同じ
11	2	Unit 8	アレルギーの Q&A 病名③	
12	2	Unit 9	薬の服用時の表現 病名④	
13	2	テスト*2	問診票 Q&A	・問診票の Q&A を暗記して発表する。
14	2	テスト*2	問診票 Q&A	
15	2	Unit 10	予約を取るときの会話	

*1 8回目、9回目 人体外部、人体内部名称の筆記テスト

*2 13回目、14回目 患者と看護師の役になって問診票を記入するのに必要な英会話を覚えて発表する。役割を交代して会話を行う。

評価方法 : 筆記テスト、発表のテスト、毎回の医療用語の単語テストや聞き取りの小テストなど全てを加味して評価します。地道な努力が必要です。

教科書 : クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院

学生のみなさんへ : 毎回の授業で医療用語を導入し、次の授業で小テストを行います。

また医療現場に必要な英会話を聞き取り、その中の必要表現を Activity で何度も練習し、外国人が来院した時に役立つ英語を身につけます。間違いを恐れず相手の目を見てはっきりとした声で積極的に発言しましょう。目標は『医療現場で実際に使える英語』です。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
英語Ⅱ	1	30	2年前期	クラス別	鳴海 恭子 実務経験あり(英語講師)

科目のねらい

英語Ⅰに引き続き医療現場で使われる会話を聞き取り、その内容を理解し、自分の意思を相手に伝えるコミュニケーション能力を培うことをねらいとします。英語Ⅰで習った内容を復習しながら、さらに看護に関する英語特有の表現や語彙を増やせるように、医療の場面設定の工夫を図ります。

授業進度と内容

回	時間	項目	学習内容	学習方法
1	2	Pre-Unit	人と知り合い紹介しあう	会話主体
2	2	Unit 1	診療科目	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場で使われる英単語を導入、次回小テスト。 ・原則毎回医療現場で使われる会話をディクテーション（聞き書き）し、内容を理解する。 ・モデルの会話を使ってペアで会話練習。 ☆協力し合って楽しく学べるようペアやグループでの練習をできるだけ多く取り入れます。
3	2	Unit 2	受診申込書	
4	2	Unit 3	身体各部位名	
5	2	Unit 4	病名、症状	
6	2	Review	Unit 1～4の復習	
7	2	Unit 5	日課	
8	2	Unit 6	医療用具	
9	2	Unit7	用具の置き場所	
10	2	Unit 8	病院案内	
11	2	Review	Unit 5～8の復習	
12	2	Unit 9	道案内	
13	2	Unit 10	患者と話す	
14	2	Unit 11	病歴を尋ねる	
15	2	Unit 12	確認の表現	

評価方法： 診療科名、職業名、身体各部分名、症状に関する短い会話、医療器具、位置を表す表現など10回程度の小テストの合計で評価します。

教科書： ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs 南雲堂

学生のみなさんへ： ☆ 大変残念な事に英語は使わないと『覚えたはずなのに』忘れてしまいます。あきらめずに去年習ったことを復習しつつ、医療現場で必要な英語を身につけるべく励みましょう。
☆ 語学だけでなく、学力も教養も持てる物が多いほどそれを使って社会に活かし、貢献する事が多くなります。貴重な学ぶ機会を最大限に生かして下さい。積極的な発言、質問を歓迎します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
日本語表現	1	15	1年後期	クラス別	小杉 直美 実務経験あり(大学教育学部教授)

科目のねらい

この授業では、「読む、書く、話す」の基本的な日本語の表現能力を身につけることを目的とする。語彙や語法などの基礎的な事項から、論文・レポート作成で必要となる文章構成法、論理的な論文・レポートの書き方に加え、社会人として求められる敬語や文書に関する基本的な知識を学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	日本語とは	日本語と国語	講義 演習 レポート提出
2	日本語とは	日本語の位置	
2	日本語の位相	話しことばと書きことば	
2	日本語の位相	日本語の語彙	
6	表現の実践	小論文・論文・レポート・報告書等の実践・演習 各時間課題文の提出	
1	単位修得試験		

評価方法 : 試験及び小論文とレポート、毎回の授業毎の課題提出で評価します。

教科書 : 「看護学生のための科学的作文レッスン」 倉茂 好匡 著 医学書院

参考文献 : 都度紹介します

学生のみなさんへ : 正しい日本語の理解と文章表現を学びましょう

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
教育学	1	30	3年前・後期	合同	杉浦 勉 実務経験あり(大学教育学部講師)

科目のねらい

教育学の意義を確認するとともに、教育現場における今日的な課題について理解を深めることをねらいとする。また、それらの課題についてグループワークなどを通して、原因を探り、解決方法を考えたい。将来医療現場で働く受講者に、教育（チーム学校）と医療（医療チーム）が協力し合いながら、学校現場の諸問題を考える講義としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	教育の意義	1. 教育の意義	講 義
2	教育学とは	2. 教育学とは	
2	教育学と関連学問	3. 教育学と関連学問①（教育史など）	
2		4. 教育学と関連学問②（教育心理学など）	
2	教育学と学校制度	5. 教育学と学校制度	
2	今日的な課題とその対策	6. 教育学「今日的な課題とその対策① いじめ」	
2		7. 教育学「今日的な課題とその対策② 不登校」	
2		8. 教育学「今日的な課題とその対策③ 子どもたちの心と体」	
2		9. 教育学「今日的な課題とその対策④ 体罰」	
2		10. 教育学「今日的な課題とその対策⑤ 児童生徒理解」	
2		11. 教育学「今日的な課題とその対策⑥ 教育格差」	
2		12. 教育学「今日的な課題とその対策⑦ 子どもの貧困」	
2		13. 教育学「今日的な課題とその対策⑧ 子どもの学力と体力」	
2		14. 教育学「今日的な課題とその対策⑨ 子どもの命」	
2	まとめ 単位修得試験	15. まとめ及び試験	

評価方法：講義に使用したワークシートの提出（10回×8点＝80点）及び論述試験（20点）

教科書：資料を毎回配布する。

参考文献：特にテキストは指定しないが、必要に応じて文献及び資料を紹介する

学生のみなさんへ：教育学を教育・研究する者としての基本的な姿勢は、学ぶ者と教える者の両者の立場の相互理解と協調である。授業を通して、お互いに理解し、授業の中でも実践的に深めたい。

專門基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
解剖生理学 I	1	15	1年前期	クラス別	渡辺 潤 実務経験あり(柔道整復師)

科目のねらい

看護の対象である人間の身体の構造と機能に関する知識は、最も基本となる学習である。解剖学で学ぶ人体の形態と構造、生理学で学ぶ人体における役割と機能をもとに、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護がおこなわれる。さらに、医療行為は人体へのさまざまな介入が含まれるため、解剖生理学は臨床医学・医療の土台となる極めて重要な科目といえる。

この授業では、細胞や組織、人体の構成、恒常性、身体の支持と運動を担う骨格系・筋肉について各器官の位置と構造、機能を関連づけながら理解し、対象者の病態及び看護介入を行うための基礎的知識とすることをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
1	解剖生理学とは	人体の構造と機能を学ぶ目的、歴史と現在	講 義
2	人体の構造と機能の基本的単位	細胞（発生）	
1	人体の構成	組織、器官、器官系	
1	構造と機能からみた人体	人体構造の区分、身体各部の名称、生命維持システム（植物機能）、運動・調節システム（動物機能）	
1	身体の恒常性（ホメオスタシス）	ホメオスタシスを維持するためのメカニズム	
5	骨格系	身体の支持と運動を担う骨格系の構造と機能	
4	筋肉	身体の支持と運動を担う筋肉の構造と機能	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

参考文献：解剖学カラーアトラス 医学書院、これならわかる要点生理学 南山堂

学生のみなさんへ：人体の各臓器、器官の構造と機能(解剖生理学)を十分に理解し、また、専門用語も学習し、さらに、解剖生理学的な物の考え方を身につけることを希望します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
解剖生理学Ⅱ	1	30	1年前期	合同	井上 貴一郎 実務経験あり(歯科医師)

科目のねらい

看護の対象である人間の身体の構造と機能に関する知識は、最も基本となる学習である。解剖学で学ぶ人体の形態と構造、生理学で学ぶ人体における役割と機能をもとに、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護がおこなわれる。さらに、医療行為は人体へのさまざまな介入が含まれるため、解剖生理学は臨床医学・医療の土台となる極めて重要な科目といえる。

この授業では、血液・造血器系、循環器系、リンパ系、外部環境からの防御について各器官の位置と構造、機能を関連づけながら理解し、対象者の病態及び看護介入を行うための基礎的知識とすることをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	血液・造血器系	血液の働き、造血機構	講義
12	循環器系	心臓の構造、心臓内血液のながれ、刺激伝導系、心臓のポンプ作用、血圧のメカニズム、血管系、胎児循環	
4	リンパ系	リンパ系の構成・構造・機能	
4	外部環境からの防御	生体の防御機構 体温とその調節	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

参考文献：解剖学カラーアトラス 医学書院、これならわかる要点生理学 南山堂

学生のみなさんへ：人体の各臓器、器官の構・造と機能(解剖生理学)を十分に理解し、また、専門用語も学習し、さらに、解剖生理学的な物の考え方を身につけることを希望します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
解剖生理学Ⅲ	1	30	1年前期	クラス別	東城 庸介 実務経験あり(歯学博士)

科目のねらい

看護の対象である人間の身体の構造と機能に関する知識は、最も基本となる学習である。解剖学で学ぶ人体の形態と構造、生理学で学ぶ人体における役割と機能をもとに、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護がおこなわれる。さらに、医療行為は人体へのさまざまな介入が含まれるため、解剖生理学は臨床医学・医療の土台となる極めて重要な科目といえる。

この授業では、神経系・感覚器系、消化器系について各器官の位置と構造、機能を関連づけながら理解し、対象者の病態及び看護介入を行うための基礎的知識とすることをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
14	神経系	神経系の構造と機能 中枢神経系 脊髄と脳の構造と機能 脳の高次機能 末梢神経系 脊髄神経と脳神経の構造と機能 自律神経の構造と機能	講 義
8	感覚器系	感覚機能の種類、感覚の性質 一般感覚 体性感覚、内臓感覚 特殊感覚 眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚	
8	消化器系	口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

参考文献 :

学生のみなさんへ : 人体の各臓器、器官の構造と機能(解剖生理学)を十分に理解し、また、専門用語も学習し、さらに、解剖生理学的な物の考え方を身につけることを希望します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
解剖生理学Ⅳ	1	30	1年前期	クラス別	東城 庸介 実務経験あり(歯学博士)

科目のねらい

看護の対象である人間の身体の構造と機能に関する知識は、最も基本となる学習である。解剖学で学ぶ人体の形態と構造、生理学で学ぶ人体における役割と機能をもとに、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と治療・看護がおこなわれる。さらに、医療行為は人体へのさまざまな介入が含まれるため、解剖生理学は臨床医学・医療の土台となる極めて重要な科目といえる。

この授業では、呼吸器系・腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系について各器官の位置と構造、機能に関連づけながら理解し、対象者の病態及び看護介入を行うための基礎的知識とすることをねらいとする。

授業進度と内容

.	単元	学習内容	学習方法
6	呼吸器系	呼吸器系の構造と機能	講 義
8	腎・泌尿器系	腎臓の構造と機能 排尿路の構造と機能 体液の調節	
8	内分泌系	内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	
8	生殖器系	男性生殖器の構造と機能 女性生殖器の構造と機能 受精と胎児の発生 成長と老化	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院

参考文献 :

学生のみなさんへ : 人体の各臓器、器官の構造と機能(解剖生理学)を十分に理解し、また、専門用語も学習し、さらに、解剖生理学的な物の考え方を身につけることを希望します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
生化学	1	30	1年前期	クラス別	今川 敏明 実務経験あり(一種放射線取扱主任者)

科目のねらい

看護師となるために学ぶ看護学をきちんと理解するためには基礎学科である生理学をはじめ薬理学、栄養学、微生物学などを理解することが必要である。生化学はこれらの学科を理解するために必須の基礎学問である。

科目目標

1. 生化学を学ぶための基礎知識を習得する。
2. 生体を構成する物質を理解する。
3. 物質を理解し、それらの生体内での代謝を理解する。

教授目標

生き物は日々生きてゆくために必要な物質を合成し、不必要になった物質を排泄しています。生物はこうした物質の合成・分解とともにもう1つ生きてゆくために必要なエネルギーの合成を行っています。生化学の講義では人間を中心にこういった生き物がどのようにして日々生きているのか、を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	生化学を学ぶための 基礎知識	A 生化学とは B 生化学を学ぶための基礎的 化学知識の習得 C 細胞の構造と機能	講 義
6	糖質について	A 糖質とは B 糖質の種類 C 単糖の構造と性質 D 二糖類の構造と性質 E 多糖の構造と性質	講 義
4	脂質について	A 脂質とは B 脂質の種類 C 脂質の役割 D 脂質各論、脂肪酸、 中性脂肪、リン脂質 糖脂質、コレステロール E リポタンパク質	講 義
2	タンパク質について	A タンパク質とは B アミノ酸 C タンパク質の構造 D タンパク質の分類	講 義
4	核酸について	A 核酸とは B 塩基 C ヌクレオシドとヌクレオチド D DNA と RNA の構造	講 義

時間	単元	学習内容	学習方法
2	酵素について	A 酵素に関する基礎知識 B 酵素反応 C 酵素反応の阻害 D 酵素の分類	講義
2	ビタミンと補酵素について	A ビタミンとは B 補酵素としてのB群のビタミン	講義
4	糖質代謝について	A 糖質の消化・吸収 B グルコースの分解 1. 解糖系 2. クエン酸回路 3. 電子伝達系と酸化的リン酸化 C 糖新生系 D ペントースリン酸化 E グリコーゲンの代謝	講義
2	脂質代謝について	A 脂質の消化と吸収 B 脂肪酸の分解 C ケトン体の生成と利用 D 脂肪酸の生合成 E コレステロールの生合成と利用	講義
2	タンパク質代謝について	A タンパク質の消化と吸収 B α -ケト酸を経由するアミノ酸の利用 C アミノ酸から含窒素化合物の合成	講義
	核酸の代謝について	A 核酸の合成と分解 B ヌクレオチドの合成 C ヌクレオチドの分解	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 生化学 医学書院

参考文献：その都度紹介します

学生のみなさんへ：生き物は日々生きてゆくために必要な物質を合成し、不必要になった物質を排泄していきます。生物はこうした物質の合成・分解とともにもう一つ、生きてゆくためのエネルギーの合成を行っています。生化学での講義では人間を中心にこういった生き物がどのようにして日々いきているのかを皆さんが理解できるように講義します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
臨床栄養学	1	15	1年後期	クラス別	嶋田 祐子 実務経験あり(管理栄養士)

科目のねらい

人間の健康増進に働きかける正しい食事、適切な栄養に関する知識を深め、病人食の種類、食事の形態と各疾患に必要な食事療法を学ぶ。

授業進度と内容

時間	学習内容	学習方法
2	人間栄養学と看護 健康づくりと食品・食事・食生活	講義
2	栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝 栄養素の消化・吸収、栄養素の体内代謝	
2	栄養状態の評価・判定、栄養ケア・マネジメント ライフステージと栄養	
2	臨床栄養1 病院食の種類、栄養補給法 疾患・症状別食事療法 低栄養状態、肥満、	
2	臨床栄養2 疾患・症状別食事療法 循環器疾患、消化器疾患、肝臓・胆嚢・ 膵臓疾患	
2	臨床栄養3 疾患・症状別食事療法 下痢・便秘、栄養・代謝疾患、腎臓疾患	
2	臨床栄養4 疾患・症状別食事療法 血液疾患、場面別の栄養管理 健康づくりと食生活	
1	単位修得試験	

評価方法：筆記試験

教科書：人体の構造と機能（3）栄養学 医学書院

参考文献：その都度紹介

学生の皆さんへ：栄養学について学習することで、栄養の大切さを知り、看護の実践に生かせるようになりましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
病理学	1	30	1年後期	クラス別	森山 隆則 実務経験あり(臨床検査技師)

科目のねらい

病理学は、基礎医学を構成する1つであり、病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を明らかにする学問である。他の基礎医学の知識を土台としつつ、臨床医学を理解するために欠くことのできない学問であることから、病理学は基礎医学と臨床医学の中間的な学問として位置づけられる。

病理学は、臨床医学の科学的根拠として基礎となる学問であり、対象者に看護を提供する際には、病態をアセスメントするための基盤となるものである。

この授業では、看護の対象者の病態をアセスメントするために、「病気」の本質についての基礎的な知識を学ぶことをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	病理学で学ぶこと	病理学の目的と病院病理部の位置付け, 病気の原因, 病気の分類と病理学の学び方	講 義
2	細胞・組織の損傷と修復, 炎症	細胞・組織の損傷と適応, 細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症	
4	免疫システム	ヒトの免疫システム, 免疫に関与する細胞, 液性免疫と細胞性免疫, 免疫不全症	
2	移植再生医療	移植の病理, 臓器移植と骨髄移植, 再生医療の現状と展望	
2	感染症	病原体の種類, 感染経路, 日和見感染症	
4	循環障害	循環系の概要と病態, 血液凝固と線溶系, 播種性血管内凝固症候群 (DIC)	
4	代謝障害	脂質代謝異常, タンパク質代謝異常, 糖質代謝異常など	
2	老化と死	老化のメカニズムと臓器の変化, 個体の死と終末医療	
2	先天異常と遺伝性疾患	遺伝情報の変化と多様性, 先天異常, 遺伝子の異常と疾患	
4	腫瘍	腫瘍の定義と分類, 腫瘍発生の病理, 腫瘍の診断と治療	
1	生活習慣と環境因子による生体障害	生活習慣による障害, 放射線による障害, 中毒	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座病理学 (医学書院) および教員の作成する配布資料

参考文献 : 新版看護学全集病理学 (メヂカルフレンド社)

学生のみなさんへ : 双方向的授業により学習効果を高めますので積極的な参加をお願いします。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
薬理学 I	1	30	1年後期	クラス別	宇野 健一 実務経験あり(薬剤師)

科目のねらい

薬の効き方と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法を学ぶ。薬理学全般における基礎的な知識と、末梢神経系、循環器系、中枢神経系、炎症免疫系に作用する薬物について理解し、看護に活用するための基礎知識とする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	総論	2. 薬理学の概念 3. 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 4. 医薬品の管理 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講 義
6	末梢神経系作用薬	4. 自律神経作用薬 5. 筋弛緩薬 6. 局所麻酔薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
6	循環器系作用薬	4. 抗高血圧薬 (降圧薬) 高血圧 5. 心臓作用薬 心不全 狭心症 不整脈 高脂血症 6. 腎臓作用薬 7. 血液・造血器系作用薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
8	中枢神経系作用薬	1. 麻酔 2. 疼痛 3. 不眠症 4. 神経症、気分障害、統合失調症 5. てんかん 6. パーキンソン病 7. 認知症、アルツハイマー病 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
4	炎症免疫系作用薬	1. 抗炎症薬 2. 免疫関連薬 アレルギー、関節リウマチ 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : わかりやすい薬理学 (第3版) ヌーヴェルヒロカワ

参考文献 : 必要に応じて紹介します。

学生のみなさんへ : 薬の知識を得ることは看護業務にとって必要なことです。教科書に沿ってわかりやすく講義を進めたいと思います。わからない所があれば積極的に質問して下さい。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
薬理学Ⅱ	1	30	2年前期	クラス別	宇野 健一 事務経験あり(薬剤師)

科目のねらい

薬理学Ⅰで学んだ薬理学全般における基礎的な知識を基に、呼吸器系、消化器系、ホルモン系・生殖器系、抗感染症薬、抗悪性腫瘍薬、漢方薬について学習し、薬物治療中の看護および薬物医療事故の事例から看護師の役割を考えることを目的とする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	呼吸器系作用薬	1. 気管支喘息 2. 呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3. 慢性呼吸不全 4. 睡眠時無呼吸症候群 5. びまん性汎細気管支炎 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	講 義
4	消化器系作用薬	1. 胃炎、胃、十二指腸潰瘍 2. 食欲不振、消化不良 3. 嘔吐 4. 便秘、下痢 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
8	ホルモン系・生殖器系作用薬	1. ホルモン系作用薬 糖尿病 甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症骨粗鬆症 2. 生殖器系作用 前立腺肥大症 陣痛誘発(微弱陣痛) 不妊症 受胎調整(経口避妊薬) 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
6	抗感染症薬	1. 抗感染症薬 2. 消毒薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
4	抗悪性腫瘍薬	看護上の留意点	
2	漢方薬	看護上の留意点	
2	まとめ(復習)	薬の取扱いと医療事故	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : わかりやすい薬理学(第3版) ニューヴェルヒロカワ

参考文献 : 検討中

学生のみなさんへ : 薬理学の苦手な看護師さんが多くいるとききます。だけど看護業務の中から薬をきりはなすことはできません。また重大な医療事故の中には病院スタッフの薬の取扱いの間違いより発生しているものもたくさんあります。そのためにも、薬につよい看護師を目指して頂ければと考えています。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
微生物学	1	30	1年前期	クラス別	澤田 幸治 実務経験あり(理学博士/医博士)

科目のねらい

1. 微生物の種類と特徴を理解する。
2. 感染拡大を防ぐための病原微生物の正しい滅菌、消毒法を理解する。
3. 病原微生物が引き起こす感染症の症状とその予防法について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	微生物学総論	1. 微生物の種類と特徴、常在細菌 2. 真正細菌の種類と構造、増殖 3. ウィルスの特徴と分類、感染と増殖 4. 感染症の種類と対策、感染症法	講 義
4	感染に対する 生体防御機構	1. 自然免疫のしくみ 2. 獲得免疫のしくみ	講 義
4	感染症の予防	1. ワクチンの種類と予防接種法 2. 滅菌と消毒、標準予防策	講 義
14	感染症各論	1. 日和見感染症と院内感染症、消化器感染症 2. 尿路感染症、性感染症 3. 肝炎、針刺し感染症、微生物と腫瘍 4. 呼吸器感染症 5. 発疹性感染症 6. 母子感染症、小児感染症 7. 脳・神経系感染症、高齢者感染症	講 義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 (4) 微生物学 医学書院

参考文献 : 必要に応じてプリントを配布します。

学生のみなさんへ : 毎回の授業の復習のため、小テストを実施します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
病態治療論 I	1	30	1年前後期	合同	田崎 悌史(医師) 加藤 法喜(医師) 五十嵐 毅(医師) 石立 尚路(医師)

科目のねらい

運動器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、呼吸器疾患の病態と検査・治療について学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	運動器疾患の病態と 検査治療処置 (田崎)	1. 運動器の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査治療処置（診療・治療の流れ・画像検査・保存療法・理学療法と作業療法・手術療法・義肢と装具） 4. 運動器疾患の理解 外傷性疾患・内因性疾患	講義
10	循環器疾患の病態と 検査治療処置 (加藤)	1. 総論：循環器の生理と機能 2. 検査：心電図、心臓カテーテル、心エコー、酸素、CVP 3. 病態・治療：虚血性心疾患、弁膜症、心不全、高血圧、動脈系疾患を中心に不整脈、胸部症状、ショックなどの症状	講義
4	血液・造血器疾患の 病態と検査治療処置 (石立)	1. 総論：血液の成分、血液型と輸血、血液成分の欠乏とその症状 2. 病態と処置、検査： 腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の治療、鉄欠乏性貧血）、再生不良性貧血、紫斑病、血友病など 3. 治療：化学療法（抗がん剤）、造血肝細胞移植	講義
6	呼吸器疾患の病態と 検査治療処置 (五十嵐)	1. 総論：呼吸器の生理と機能 (肺機能の分類、酸塩基平衡) 2. 検査と治療処置： 肺機能検査、血ガス、pH、X-P、気管切開・挿管手術、放射線療法、化学療法、薬物療法、酸素療法 3. 病態・治療： 感染症（かぜ・肺炎・結核）、気道疾患（喘息・慢性閉塞性肺疾患—肺気腫・気管支拡張症）、気胸、肺塞栓 肺腫瘍：疫学・診断・治療・予防（肺癌・上大静脈／ホルネル症候群・パネコースト腫瘍） 4. 呼吸不全：呼吸不全の定義、低酸素血症の機序、治療（HOT）	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 成人看護学 (2) 呼吸器 (3) 循環器 (4) 血液造血器
(10) 運動器

医学書院

参考文献：必要時紹介します

学生のみなさんへ：たくさんの質問を期待します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
病態治療論Ⅱ	1	30	1年後期	合同	蔵前 太郎(医師) 猪又 崇志(医師) 猪又 崇志(医師) 河田 哲也(医師)

科目のねらい

消化器疾患、アレルギー・膠原病、代謝・内分泌疾患、腎・泌尿器疾患の病態と検査・治療について学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
12	消化器疾患の病態と 検査治療処置 (蔵前)	1. 胃・十二指腸疾患、胆石症、イレウス、肝炎・肝硬変・ 肝臓病、食道癌、胃癌、大腸癌などを中心に病態の 理解 2. 検査治療は潜血検査、消化器造影検査、肝生検、 内視鏡、腹部エコー、薬物手術療法	講 義
4	内分泌疾患の病態と 検査治療処置 (猪又)	1. 内分泌器官とホルモンの働き 治療薬として使われているホルモン剤 2. 末端巨人症・クッシング病・バセドウ病・橋本病・ クッシング症候群（高脂血症、痛風） 3. 治療検査 ホルモン検査、ヨード検査、糖負荷試験、インス リン療法、食事・運動療法	講 義
4	アレルギー・膠原病の 病態と治療処置 (猪又)	1. 関節リウマチの総論—有病率・臨床症状・検査所見 2. テーマ発表 a. 免疫とは b. 自己免疫異常 c. 膠原病の特徴 d. アレルギーとは 3. 慢性関節リウマチ、SLE、アミロイドーシス、 強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン 4. 検査治療—抗体・関節液・筋生検、ステロイド療法・ リハビリテーション	講 義
10	腎・泌尿器疾患の 病態と検査治療 (河田)	1. 総論：腎臓の解剖生理・検査、水・電解質バランス、 酸塩基平衡 2. 病態と処置・検査：電解質異常、各種腎疾患（IgA腎 症、ネフローゼ、糖尿病性腎症）腎不全と腎機能検 査、腎生検 3. 治療：安静・減塩・利尿・降圧・ステロイド治療、 血液透析を中心に尿路結石、尿路感染、前立腺肥大	講 義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統別看護学講座 成人看護学 (5) 消化器 (6) 内分泌・代謝

(8) 腎・泌尿器 (11) アレルギー・膠原病・感染症

医学書院

参考文献：必要時、紹介します

学生のみなさんへ：たくさん質問してください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
病態治療論Ⅲ	1	30	2年前期	合同	鎌田 理(医師) 金上 宣夫(医師) 鈴木 祐介(診療放射全技師) 学外講師(救急救命士)

科目のねらい

手術療法、麻酔法、救急処置法、放射線や磁気を用いた検査についての基礎知識を学ぶ。

また、女性生殖器疾患の病態、検査治療を学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	外科的治療の実際 (鎌田)	1. 外科患者の病態の基礎 1) 手術侵襲と生体の反応 2) 炎症 3) 感染症 4) 腫瘍の診断と治療 5) 外傷とショック 2. 創傷管理、縫合と抜糸 3. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 術前・術中・術後管理	講義
4	救急処置法 (学外講師)	1. 救急処置の範囲と対象 2. 救急処置法の原則と実際 (BLS) 3. 演習	講義 演習
10	女性生殖器疾患の 病態と検査治療処 置 (金上)	1. 性分化疾患 2. 外陰の疾患 3. 膣の疾患 4. 感染症疾患 (性感染症) 5. 骨盤内炎症性疾患 6. 子宮の疾患 (子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛性疾患) 7. 卵管の疾患 8. 卵巣の疾患 (良性腫瘍、悪性腫瘍) 9. 機能的疾患 (月経異常、更年期障害、不妊症)	講義
10	放射線、磁気を用いた検査 (鈴木)	1. 放射線の種類・性質：人体に与える影響と障害、被爆防護について 2. レントゲン検査 3. CT検査：CTの基礎、単純CTと造影CT 造影剤について (副作用と造影剤の予備テスト) 4. RI検査：放射線同位元素について、RI検査の被爆、放射性医薬品、RI検査室の管理 5. MRI検査：MRIの安全面に関する事項、検査の内容、禁忌事項 6. TVレントゲンの検査	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論 臨床放射線医学 医学書院
系統看護学講座 成人看護学⑨ 医学書院

参考文献：必要時資料配布します

学生のみなさんへ：楽しく学習しましょう。たくさんの質問を期待します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
病態治療論Ⅳ	1	30	2年前期	クラス別	伊藤理恵(認定看護師) 藤原 美秋(医師) 加藤 雅史(医師) 千徳 敏克(歯科医師) 石崎 努(医師) 伊藤 和則(医師)

科目のねらい

脳神経疾患及び感覚器疾患、歯科疾患の病態と検査治療について学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	皮膚科疾患の病態と 検査治療処置 (國分)	皮膚反応テスト、スキンケア 薬物・ステロイド療法	講 義
4	耳鼻科疾患の病態と 検査治療処置 (藤原)	外・中・内耳炎、メニエール病、アレルギー、 咽頭・喉頭がん、ポリープ吸入、減感作、 ステロイド、手術療法など	講 義
6	眼科疾患の病態と 検査治療処置 (加藤)	流行性結膜炎、近・遠・弱視、眼底出血、白内障、 緑内障、網膜症、網膜剥離、薬物・点眼・レーザー・ 手術療法、光凝固、眼鏡など	講 義
4	歯科疾患の病態と 検査治療処置 (千徳)	齲歯、歯髄炎、歯周炎、口内炎、口腔癌、 補綴の種類、適応、義歯の取扱、 小児の矯正・予防歯科	講 義
10	脳神経疾患の病態と 検査治療処置 (外科：石崎6時間) (内科：伊藤4時間)	1. 脳神経の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査、診断と治療・処置 診断と診療の流れ、検査・治療 4. 疾患の理解 脳疾患・脊髄疾患・末梢神経障害・脳神経の 感染症	講 義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 成人看護学 (7) 脳神経 (12) 皮膚 (17) 眼
(14) 耳鼻・咽喉 (15) 歯・口腔 医学書院

参考文献：参考文献：その都度紹介します

学生のみなさんへ：どんどん質問してください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
リハビリテーション概論	1	15	1年後期	合同	田崎 悌史(医師) 鈴木 光広(作業療法士/精神保健福祉士)

科目のねらい

リハビリテーションは、障害をもち「その人らしく生きること」が難しい人を対象として、QOLを高めることを目指し、さまざまな職種が専門性を発揮しながら支援することに関わっている。

この授業では、リハビリテーション理念の形成過程とその発展を理解し、リハビリテーションに係る専門職種の役割とその実践について活動の一端を学ぶ。さらに、看護師は、リハビリテーションに携わるチームの一員であることから、多職種との連携・協働の基礎を学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	リハビリテーションとは (田崎)	5. リハビリテーションの理念 6. リハビリテーションの歴史 7. 生活機能分類と生活機能障害の構造	講 義
10	リハビリテーション医療 に必要なチームアプローチ (鈴木)	1. 各職種の役割 1) 医師 2) 理学療法士 3) 作業療法士 4) 言語聴覚士 2. 各職種の実践活動と連携 1) 医師 2) 理学療法士 3) 作業療法士 4) 言語聴覚士 3. 運動器系疾患のリハビリテーション 4. 中枢神経系の障害とリハビリテーション 5. 呼吸・循環器系疾患のリハビリテーション 6. 感覚器系障害のリハビリテーション	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護

参考文献 : 必要に応じて紹介します。

学生のみなさんへ :

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
病態治療論演習	1	15	1年前・後期	クラス別	高橋 久江 実務経験あり(看護師)

科目のねらい

看護の対象である患者の疾患について理解することは、看護を実践するために必要不可欠である。

この授業では、日本人に多い疾患について、解剖生理学、病態治療論の知識を用いて、身体を構成する器官と機能がどのようになって症状として現れているのか、異常を起こしている原因、治療目的と内容について関連づけながら理解を深めることをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	病態治療論を学ぶ意義	1. 病態治療論を学ぶ目的と意義 2. オリエンテーション 授業の進め方と指導の受け方	講義
13	疾患の理解するとは	有病率、死亡率の高い日本人に多い疾患の中から、学習を深める疾患を選択し、個人とグループによる学習でメカニズムを明らかにする。 1. 解剖生理学的な理解 2. 病態治療論的な理解 機能障害と症状 病理学的な理解:組織の変化と機能の変化 今後、病気はどのように経過するのか 診断と経過を判断するための検査 治療内容 3. 生活への影響	演習 個人ワーク グループワーク

評価方法 : レポート

参考文献 : 系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

系統看護学講座 成人看護学〔2〕～〔15〕 医学書院

ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

学生のみなさんへ:皆さんの学習する力を活用しながら授業を進めていくので、主体的・自主的に取り組むことを期待します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
医療概論	1	15	1年前期	合同	澤田 幸治 実務経験あり(理学博士/医学博士)

科目のねらい

医療は、人々の生と死に遭遇することや、病気に苦悩する人々に出会い医療の限界に直面しながら、最善の医療を問いつける仕事です。そのため、医療の原点を見据え、生命の尊さと死を悼む心について考え、医療者としての心構えを学ぶとともに医学と医療の変遷および現代医療の課題を考える機会とする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	医療における生と死	生命を尊ぶとは：生命の価値、QOL、死生学 健康とは：健康の定義と国際生活機能分類 ヘルスリテラシー、ヘルスプロモーション 社会と健康 終末期医療：がんの緩和ケア、終末期の栄養管理 患者の意思決定	講義
4	医学と医療の変遷	医学の歴史 ヒポクラテス ヴェサリウス フレミング等 日本の医学・医療の歴史 臨床疫学とEBM	
4	現代医療の課題	医療経済学と医療政策 医療サービスの特性と公的医療保険制度 医療者の不足 医療政策の転換	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [1] 医療概論 医学書院

参考文献：適宜、資料配布予定

学生のみなさんへ：「医療とは何か」を考え、他の学生の考えも聞く機会にもなります。少しずつ先人の教えを学びながら医療者としての心構えを培うことを期待します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
地域・在宅医療論	1	15	3年前期	合同	日下 勝博 実務経験あり(医師)

科目のねらい

医学や科学技術の発展に伴い、入院治療を中心とする医療から住み慣れた環境で保健・医療・福祉サービスを受けられるようにシステムが変化してきている。その背景には少子高齢化社会の進展及び人口の偏在化による地域医療の脆弱化、家族および地域社会のサポート力の低下がある。そのため、診療や医療相談に対応することや、必要時には専門医・専門機関を紹介するなどの役割を担う「かかりつけ医」や在宅療養者と家族を支える訪問診療医師、訪問看護師など、地域における医療の専門職の役割が大きくなっている。

この授業では、地域・在宅医療活動の実践から、その特徴について理解することをねらいとし、地域・在宅看護論の基盤となる知識を深めたい。さらに、地域・在宅医療の課題を考える機会としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	プライマリケア（地域総合医療）とは	1. プライマリケアの定義 2. 地域医療におけるプライマリケア 3. 総合診療医と専門医	講 義
2	日本におけるプライマリケアの特徴と課題	1. 日本型プライマリケアである開業医制度の特徴 2. 日本型プライマリケアの課題	
2	在宅医療の特徴	1. 訪問診療の対象者 2. 専門医との連携 3. 地域医療構想と地域包括ケア	
2	在宅医療の診療過程	1. 訪問診療過程の実際 2. 訪問診療における倫理的な課題	
2	地域医療における在宅医療の位置づけと連携	1. 地域医療における在宅医療の役割 2. 地域医療を担う職種・機関との連携	
2	訪問診療同行の看護師の役割	1. 訪問診療同行の看護師の役割 2. 看護職間の連携、多職種との連携	
2	訪問診療同行の看護師の活動の実際	1. 在宅療養者への緩和ケアと看取り 2. 家族への看護 3. 意思決定を支えるケア	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕 総合医療論 医学書院

参考文献：参考文献：その都度紹介します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
社会福祉	1	30	2年前期	クラス別 合同	澤 伊三男 実務経験あり(社会福祉士)

科目のねらい

高齢化の急速な進行と年金制度、介護保険制度の導入などにより、社会福祉・社会保障は普遍的な制度として、その必要性は年々高まってきた。さらに現代社会の中で起こる生活上の多様な問題について対処するには、保健・医療・福祉の連携・協働は欠かせない現状にある。そのため、看護職は医療施設から地域へと活動範囲を広げ、福祉領域の職種と協働する機会が増えてきている。

この授業では、社会福祉の理念と意義、我が国の社会福祉の歴史、社会福祉に関する法律と制度、社会福祉における行政の役割、社会福祉援助技術の基礎を学ぶとともに、現在日本の社会福祉の現状や課題を検討する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	社会福祉の定義と展開	社会福祉の定義と理念、歴史 社会福祉の役割、社会福祉の意義と必要な視点	講 義
2	社会福祉と医療の連携・協働と役割	福祉の範囲と専門職、 医療と福祉の接点と連携・協働	
2	社会福祉の価値と支援	社会福祉の価値前提と支援の原則	
2	社会福祉援助技術と環境調整	ソーシャルワーク理論を中心に相談援助及び環境調整のあり方	
2	社会構造の現状と課題	我が国の社会構造の変化と少子高齢化の課題	
2	日本の社会的課題と方向性	日本社会の抱える福祉的課題と対応	
2	家族構成の変化と労働	世帯構成及び生活環境の急激な変化と家族	
2	社会保障と地域福祉	社会保障の概念と制度、地域福祉の展開と位置づけ	
2	公的扶助論	現代と貧困、生活保護制度と低所得者福祉	
2	社会福祉援助技術論	援助技術の方法論と具体的展開	
2	高齢者福祉論	高齢者の現状と福祉制度	
2	介護福祉論	介護の定義とその内容	
2	子ども家庭福祉論	家族構造の変化とDV・児童虐待への対応	
2	障害者福祉論	障がい者への支援と課題	
2	社会福祉と倫理	社会福祉援助の倫理上のディレンマ	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 特になし。授業開始時にレジュメを配布し、それに従い展開する

参考文献 : 社会福祉士養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」中央法規出版

澤 伊三男、渋谷 哲他編「ソーシャルワーク実践事例集Ⅰ・Ⅱ」明石書店

学生のみなさんへ : 社会福祉とは、「共生」の理念に基づいた共に支え合うことが原点です。

基盤となるものは、「利用者支援」であり、「人権擁護」の視点が求められています。共有の現場での実践を目指した講義を心掛けますので、展開される様々な事例を通して社会福祉を理解していきましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
関係法規	1	15	2年前期	合同	小野田充宏 実務経験あり(弁護士)

科目のねらい

この授業では、法学入門で学習した法規についての基礎知識をもとに、医療・看護を規制する法令や看護師の法的責任について深く学び、看護師として職務を遂行するための根拠や判断の基準を理解することをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療に関する法規制の仕組みと医療提供の理念	法は医療に対してどのようにして規制を加えているのか、また、法が目指す医療提供のあり方はどのようなものかについて学ぶ。	講義
2	医療従事者の資格と業務に関する法－医療従事者法①	医療従事者の資格(免許制度)の基礎的な事項や、医師法や保健師助産師看護師法等の個々の法律を見ただけではわかりにくい医療従事者の業務分担の仕組みについて学ぶ。	
2	医師・看護師等の定義と資格－医療従事者法②	医師や看護師は法律上どのように定義されているかを確認した上で、医師及び看護師の免許制度や行政処分等について学ぶ。	
2	医師・看護師等の業務－医療従事者法③	看護師の業務、及びその前提となる医師の業務等について、法律の規定のほか、行政機関の通達・通知や判例等を含めて深く学ぶ。	
2	医師・看護師等の義務－医療従事者法④	医師や看護師に課せられた各種の業務上の義務や、それに関連する事項(診療録の意義や重要性等)について学ぶ。	
2	医療提供施設と看護師の人材確保に関する法	医療を提供する施設に関する医療法の規制や、看護師人材を確保するための施策等について学ぶ。	
1	薬務に関する法	薬機法や薬剤師法、毒物及び劇物取締法等の内容を概観し、医薬分業という考え方や、医薬品・医療機器、毒物劇物の取扱い等に関する規制を学ぶ。	
3	医療安全と医療事故・医療過誤に関する法	医療法における医療安全確保のための制度のほか、看護師がかかわる医療事故にはどのようなものがあるか、看護師が業務を行うにあたってはどのような義務(業務上の注意義務)を負っているのか、看護師がこの義務に違反して医療事故(看護事故)を引き起こした場合にどのような法的責任を負うのか等について学ぶ。	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護講座 看護関係法令 医学書院

学生のみなさんへ : 積極的な質問を歓迎します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
公衆衛生学	1	15	1年前期	合同	都築 俊文 実務経験あり (元道立衛生研究所研究員)

科目のねらい

公衆衛生活動の特徴は、主に特定の間人集団を対象とするものであり、その目的は疾病の予防のみならず、健康の維持・増進を図ることにある。このような特性を理解するとともに、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	公衆衛生の理念	公衆衛生の目的、公衆衛生と健康、健康に寄与する医療の役割、今日の健康観、ヘルスプロモーション、プライマリーヘルスケアなど	講義
	公衆衛生の技術	疫学と健康指標、人口静態、人口動態、死亡率、健康づくりを支援する新しい健康教育、地域での看護職の役割	
3	医療の動向と医療保障	医療法の概要、医療従事者と患者・家族の関係、医療施設の現況、医療保障制度と医療経済	
	公衆衛生と国際化	国際保健医療協力の現状、情報公開と生命倫理 生命倫理に於ける看護職の役割	
2	公衆衛生と地域保健	地域保健の特性、母子保健、学校保健、保健所の役割	
2	公衆衛生と地域保健	成人・老年保健、精神・難病保健	
2	公衆衛生と環境保健	公害の教訓、地球環境問題、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化、身のまわりの環境問題：一般及び産業廃棄物とその処理	
2	同上 及び産業保健	水質汚染、大気汚染、食品の安全、労働者の健康状態、作業関連疾患と生活習慣病	
2	感染症・危機管理	新興・再興感染症、結核、HIV、AIDS、悪性新生物（癌）	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 医学書院

参考文献：適宜、資料配布予定

学生のみなさんへ：公衆衛生学は看護師あるいは保健師を目指す人たちにとって、必ずしも興味の持てる学問ではないかも知れません。しかし、当該者にとっては極めて基本的かつ常用的な内容であり、さらに一人の間人としても学ぶに値する学問であると確信しています。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
健康管理論	1	15	1年後期	合同	明野聖子(看護師/保健師) 池森康裕(介護福祉士/社会福祉士) 山本真弓(看護師/保健師/助産師) 寄谷千春(看護師/保健師)

科目のねらい

その人らしい生活を営むための基盤として、健康の維持・増進は欠くことができないものである。我が国は、少子高齢化が進む中で、団塊の世代後期高齢者となる2025年を目途に、それぞれの地域で実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に確保する地域包括ケアシステムを政策の柱に位置づけている。看護職は地域包括ケアシステムを構築する一員として重要な役割を担っている。この授業では、地域で生活する人々の健康の維持・増進・予防についての基礎知識と具体的な活動について学ぶことをねらいとする。さらに空知地域における具体的な保健・医療の活動について学ぶことで、地域・在宅医療論、地域・在宅看護論に発展させていきたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	ライフステージにおける健康課題 (山本)	1. 小児期の健康課題と健康づくり 2. 成人期の健康課題と健康づくり 3. 老年期の健康課題と健康づくり 4. ライフステージと歯科・口腔保健	講 義
2	地域包括ケアシステム (山本)	1. 地域包括ケアシステムとは 2. 地域包括ケアシステムの構築 3. 高齢者保健の課題 4. 地域コミュニティによる支えとは	
4	社会福祉施設における健康づくりと高齢者の介護予防(池森)	1. 社会福祉施設とは 2. 社会福祉施設の入所者の特徴 3. 社会福祉施設の入所者の健康づくり 4. 高齢者の介護予防の実際	
2	空知地域の人々の健康の維持・増進に向けた取り組み(寄谷)	1. 空知地域の住民の健康状態 2. 空知地域の住民の健康維持・増進に向けた活動の実際 3. 他の職種との連携の実際	
4	地域生活において人々の健康を守るための活動(明野)	1. 地域で生活する人々とは 2. 人々の健康を守るための看護活動	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [1] 医療概論 医学書院
系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院

参考文献 : 適宜、資料配布予定

学生のみなさんへ : 私たちの健康がどのように守られているのか、幅広く学ぶとともに空知地域の保健医療活動に興味・関心をもつことを期待しています。

専門分野

基礎看護学

基礎看護学(11単位 300時間)

基礎看護学	看護学概論 I (1単位 30時間)	看護の概念 看護の対象 健康の概念と日本人の健康状態 看護の提供者 看護の機能と役割	基礎知識 専門職の倫理
	看護学概論 II (1単位 30時間)	看護倫理 看護理論	倫理的課題の概要 倫理的課題へのアプローチ 看護実践における倫理的課題への取り組み 看護理論とは 主な看護理論の理解
	共通基本技術 (1単位 30時間)	看護技術の概念 コミュニケーション 観察・記録 安全確保の技術 感染防止の技術 安楽確保の技術 環境調整技術 学習支援の技術	
	日常生活援助技術 I (1単位 30時間)	日常生活援助の意義 活動・休息の援助 清潔・衣生活の援助	
	日常生活援助技術 II (1単位 30時間)	食事の援助技術 排泄の援助技術	
	フィジカルアセスメント技術 (1単位 30時間)	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 問診・フィジカルイグザミネーション 身体各部の計測 系統別アセスメントの知識と技術 バイタルサイン測定のための知識 バイタルサイン測定の技術と値の評価	
	診療に伴う援助技術 I (1単位 15時間)	診療に伴う援助技術の意義と看護の役割 検査に伴う看護 医療機器の原理と取り扱い 検体の採取法と看護(排泄物、体液等)	
	診療に伴う援助技術 II (1単位 30時間)	与薬の基礎知識 各与薬方法の特徴と援助(1)(経口薬、点眼、点鼻、点耳、経皮的与薬、吸入薬、直腸内与薬) 各与薬方法の特徴と援助(2)(注射方法) 注射の実施法 検体の採取法(静脈血採血) 静脈内注射と点滴静脈内注射 輸血療法	
	看護過程 (1単位 30時間)	看護過程の概要 ヘンダーソンの看護論を用いた事例の看護過程展開 アセスメント 看護問題の明確化 計画立案 看護計画の実施・評価	
	看護研究の基礎 (1単位 15時間)	看護研究の概要 文献の種類と読み方 文献検索と批判的な論文の読み方	
	看護研究 (1単位 30時間)	看護研究のプロセス 看護研究における倫理的配慮 研究の実際	

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
看護学概論 I	1	30	1年前期	クラス別	斉藤 恭子 実務経験あり(看護師)

科目目的

看護および専門職業としての看護職について理解し、学生個々の看護の見方や考え方を養う。

科目目標

1. 看護の歴史的背景と看護の概念、看護の定義を理解できる。
2. 看護の対象である人間を統合された存在として、とらえる視点を理解できる。
3. 健康について多面的にとらえる視点及び健康に影響を及ぼす要因、日本人の健康状態を理解できる。
4. 看護職の資格と養成制度、継続教育を学び、職業としての看護職の役割を理解できる。
5. 保健医療福祉チームにおける看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解できる。
6. 看護に対する見方や考え方について、自己の考えを述べることができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
16	看護の概念	1. 看護の概念 1) 看護の原点と歴史 2) 職業としての看護 2. 看護の定義 1) 看護の理論家による看護の定義 ・F. ナイチンゲールの看護論 ・V. ヘンダーソンの看護論 他 2) 職能団体の定義 3) 看護ケアとは	講 義 演 習 (GW)
4	看護の対象	1. 人間を理解する視点 1) とらえる視点 2) 人間の基本的欲求 3) 人間と環境 4) 発達理論 5) 心理的行動の理解	講 義
4	健康の概念と日本人の健康状態	1. 健康の概念 2. 健康の実現に向けた取り組み 3. 健康に影響する要因 4. 日本人の健康状態と課題	講 義
4	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 3. 看護職の就業状況と継続教育 4. 看護職養成制度の課題	講 義
2	看護の機能と役割	1. 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割・活動 2. 医療安全と医療の質の保証 3. 看護職をめぐる制度と政策	講 義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験 70%、レポート 30%

教科書 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 医学書院

参考文献 : F. ナイチンゲール: 看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会
V. ヘンダーソンの看護論: 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

学生のみなさんへ : グループワークがあります。積極的に自分の意見をもって参加してください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護学概論Ⅱ	1	30	1年後期	クラス別 合同	斉藤恭子 実務経験あり(看護師/助産師)

科目目的

看護倫理の基礎的知識および看護理論の概要を学び、より良い看護実践を検討するための能力を養う。

科目目標

1. 看護倫理の歴史と看護倫理の原則を理解できる。
2. 看護を実践する際の倫理的課題を理解できる。
3. 看護における倫理の重要性を説明できる。
4. 看護実践の基盤となる看護理論の概要を知り、看護理論を実践に活かす意義を理解できる。
5. 主な看護理論家の看護理論の特徴を理解できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	看護倫理の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは 倫理とは、倫理と道徳、倫理と法 2. 看護倫理を学ぶ意義 3. 看護倫理の歴史 4. 看護の倫理原則 ・善行と無害の原則 ・自律の原則 ・正義の原則 ・誠実と忠誠の原則 5. 看護実践上の倫理的概念 権利擁護（アドボカシー）、責務、協力、ケアリング 	講義
2	専門職の倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職に求められる倫理 2. 専門職の倫理綱領 1) 経緯 2) 国際看護師協会及び日本看護協会 3) 倫理委員会 4) 研究における倫理 	
2	倫理的課題の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人に関する情報と倫理 1) 個人情報と要配慮個人情報 2) SNSの普及における倫理的課題 2. 患者の権利とインフォームドコンセント 3. 患者の意思決定支援と守秘義務 4. 多職種連携と倫理 5. 患者・家族との信頼関係 6. 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 妊娠・出産、臓器移植医療、再生医療等 	講義
2	倫理的問題へのアプローチ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における倫理的問題の特徴 2. 倫理的問題へのアプローチ ・Jonsenらの症例検討シート ・トンプソン&トンプソンの意思決定のためのモデル ・サラ・フライの倫理的分析と意思決定モデルなど 	講義
4	看護実践における倫理問題への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理事例の討議及び発表 	グループワーク

時間	単元	学習内容	学習方法
6	看護理論とは	1. 看護理論とは 1) 定義 2) 種類 広範囲理論、中範囲理論、小範囲理論 3) 構成要素 主要概念(人間、環境、健康、看護) 2. 看護理論の歴史の変遷	講義
10	主な看護理論の理解	1. フローレンス・ナイチンゲール(環境論) 2. ヴァージニア・ヘンダーソン(ニード論) 3. ウィーデンバック(臨床看護における援助技術) 4. ペプロウ(人間関係の看護論) 5. トラベルビー(人間対人間の関係モデル) 6. ロイ(適応モデル) 7. オレム(セルフケア不足理論) 8. ベナー(臨床での看護実践における卓越性とパワー) など	グループワーク (文献の抄読)
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験 70% レポート 30%

教科書 : 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院

看護職の倫理綱領 日本看護協会 2021年

看護学テキストNICE 看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用 南江堂

参考文献 : 都度紹介します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
共通基本技術	1	30	1年前期	クラス別	斉藤 恭子(看護師) 朝倉 あつ子(看護師) 演習 (斉藤、工藤)

科目目的

様々な対象のあらゆる看護実践の基本となる技術を理論的、実践的知識を踏まえながら学ぶ。

科目目標

1. 看護における技術の考え方を理解する。
2. 安全でかつ、安楽な援助技術の必要性を理解する。
3. 看護実践に共通する観察、記録、感染予防、環境調整、コミュニケーション、学習支援についての技術を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	看護技術の概念 (朝倉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術とは何か 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素 5. 看護技術の発展と修得のために 	講 義
2	コミュニケーション (朝倉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーション 4. 効果的なコミュニケーションの実際 5. コミュニケーション障害への対応 	講 義
4	観察・記録 (朝倉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観察 <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察とは 2) 看護における観察 <ol style="list-style-type: none"> ① 観察の目的 ② 観察の方法 ③ 観察の機会 ④ 観察の手段 ⑤ 観察の基本条件 3) 観察の視点と内容 2. 記録 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護記録とは 2) 記録・管理における留意点 3) 看護記録の構成 3. 報告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的 2) 報告の原則 	講 義
4	安全確保の技術 (朝倉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全確保の基礎知識 2. 誤薬防止 3. チューブ類の予定外抜去防止 4. 患者誤認防止 5. 転倒・転落防止 6. 薬剤・放射線暴露の防止 	講 義 演 習 ・安全な療養環境 の整備

	単元	学習内容	学習方法
4	感染防止の技術 (斉藤)	1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 3. 感染経路別予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習 ・衛生的 ・手洗い ・ガウンテクニク
4	安楽確保の技術 (斉藤)	1. 基本的活動の基礎知識 1) 安全で安楽な姿勢 2) 日常生活動作 3) ボディメカニクス 2. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 3. 罨法 冷罨法、温罨法	講義 演習 ・氷枕 ・温枕
8	環境調整技術 (斉藤)	1. 療養生活の環境 2. 病室の環境のアセスメントと調整 3. ベッド周囲の環境調整 4. 病床を整える 5. 就床患者のリネン交換	講義 演習 ・ベッドメイキング ・療養環境の整備 ・就床患者のリネン交換
2	学習支援の技術 (朝倉)	1. 看護における学習支援とは 2. 健康に生きることを支える学習支援 3. 健康状態に伴う学習支援 4. 学習支援の実際	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院
看護が見える①② メディックメディカ

参考文献：都度紹介します

学生のみなさんへ：事前学習をして講義や演習に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
日常生活援助技術 I	1	30	1年前期	クラス別	工藤 美恵子(看護師) 千葉 利代(歯科衛生士) 演習 (学内教員)

科目目的

対象者のセルフケア能力と安全・安楽に配慮した日常生活援助技術を学ぶ。

科目目標

1. 基本的欲求の充足状態とセルフケア能力に応じた日常生活の援助を理解できる。
2. 安全・安楽に配慮した援助方法を理解し、日常生活援助技術（活動・休息、清潔・衣生活）を習得できる。
3. 対象者に合わせて、根拠に基づいた日常生活援助技術（活動・休息、清潔・衣生活）を習得できる。
4. 対象者を尊重した姿勢・態度を行動で示すことができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	日常生活援助の意義 (赤坂)	1. 日常生活援助の意義 2. 日常生活行動のニーズが未充足な対象のアセスメント 3. 日常生活が障害された対象の理解	講義
8	活動・休息の援助 (学内教員)	1. 基本的活動の援助 1) 体位 2) 体位変換 3) 移動 4) 移乗・移送 5) 体位保持 2. 睡眠と休息の援助 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠・休息の援助 3. 移乗・移動の援助 1) 援助の基礎知識 2) 車椅子を用いる場合の援助 3) ストレッチャーを用いる場合の援助	講義 演習 ・安楽な体位の調整 ・体位変換 ・車椅子移乗と移送 ・ストレッチャー移送
20	清潔・衣生活の援助 (学内教員 16) (千葉4：口腔ケア)	1. 清潔の援助 1) 清潔の援助の基礎知識 2) 身体の清潔の援助の実際 ・清拭 ・洗髪 ・足浴・手浴 ・整容 3) 口腔ケア 2. 病床での衣生活の援助 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	講義 DVD 演習 ・清拭・洗髪 ・足浴・手浴 ・整容 ・点滴等を留置していない患者の寝衣交換 ・口腔ケア
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 専門1 基礎看護技術 I II 医学書院
看護がみえる①② メディックメディア

参考文献：都度紹介します

学生のみなさんへ：事前学習して授業・演習に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
日常生活援助技術Ⅱ	1	30	1年後期	クラス別	工藤 美恵子(看護師/助産師) 齊藤 恭子(看護師) 実務経験あり

科目目的

対象者のセルフケア能力と安全・安楽に配慮した日常生活援助技術を学ぶ。

科目目標

1. 基本的欲求の充足状態とセルフケア能力に応じた日常生活の援助を理解できる。
2. 安全・安楽に配慮した援助方法を理解し、日常生活援助技術（食生活、排泄の援助）を習得できる。
3. 対象者に合わせて、根拠に基づいた日常生活援助技術（食生活、排泄の援助）を習得できる。
4. 対象者を尊重した姿勢・態度を行動で示すことができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	食事の援助技術	1. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態 2) 摂食能力 3) 食欲・食に対する認識、社会文化的影響 2. 食事摂取の援助 1) 食事介助技術 3. 摂食・嚥下障害の援助 1) 摂食・嚥下訓練 4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 ・基礎知識と援助の実際：経鼻経管栄養法 2) 瘻管法 ①胃瘻 ②腸瘻 3) 中心静脈栄養	講義 演習 ・食事介助 ・経鼻胃チューブの挿入 ・経管栄養法
20	排泄の援助技術	1. 排泄器官の機能と排泄の基礎知識 2. 排泄のアセスメント 1) 排尿 2) 排便（嵌入便含む） 3. 自然排尿及び自然排便の援助 1) トイレにおける援助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 4. 排尿障害 1) 失禁 ・失禁の種類と予防・骨盤底筋群の訓練 2) 導尿 ・一時的導尿 ・間欠的導尿 ・持続的導尿(膀胱留置カテーテル) 5. 排便を促す援助 1) 排便のアセスメント ・下痢 ・便秘 2) 浣腸 3) 摘便 4) ストーマケア	講義 演習 ・床上排泄 ・ポータブルトイレ ・一時的導尿 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・浣腸 ・摘便
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 専門1 基礎看護技術Ⅰ Ⅱ 医学書院
看護がみえる①② メディックメディア

参考文献：都度紹介します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
フィジカル アセスメント技術	1	30	1年前期	クラス別	中村 恵子 実務経験あり(看護師) 演習(中村、学内教員)

科目目的

看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的がわかり、必要とされる技術を習得する。

科目目標

1. 看護に必要なフィジカルアセスメントの意義と目標がわかる。
2. 身体計測の目的と正確な測定技術を習得する。
3. 系統別フィジカルアセスメントの意義と目的がわかり、技術を習得する。
4. バイタルサインの目的と確実な技術を習得する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	ヘルスアセスメント とフィジカルアセ メント	1. ヘルスアセスメントとは 2. フィジカルアセスメント 1) 目的 全身の情報を得る 焦点を絞って情報を得る 2) フィジカルアセスメントの流れと留意点	講 義
4	問診・フィジカル イグザミネーション	1. 基本情報の問診 2. フィジカルイグザミネーション 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診	講 義 DVD 演 習
2	身体各部の計測	1. 目的 2. 身体計測の技術 1) 器具の正しい使い方 2) 測定の実際と値の評価	講 義 演 習 ・身長 ・体重 ・腹囲 ・胸囲
1 4	系統別アセスメン の知識と技術	1. 頭頸部のアセスメントと技術 2. 呼吸系のアセスメントと技術 3. 循環系のアセスメントと技術 4. 腹部のアセスメントと技術 5. 筋・骨格系のアセスメントと技術 6. 皮膚のアセスメントと技術 など *正常と異常を判別できるようにシミュレータ、視 聴覚教材を活用する *基準と比較し、逸脱している原因を考える	講 義 DVD 演 習 ・眼球運動、 瞳孔反射等 ・胸部 ・呼吸 ・腹部 ・関節可動域 ・徒手筋力検査
4	バイタルサイン測定 のための知識	1. バイタルサインとは 観察する意義と変動因子、個体差 2. 基礎知識と測定方法 体温、脈拍、呼吸、経皮的酸素飽和度、血圧	講 義
4	バイタルサイン測定 の技術と値の評価	1. 腋窩検温 2. 脈拍 3. 呼吸 4. 経皮的酸素飽和度 5. 血圧(触診・聴診法)	演 習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術I 医学書院
看護がみえる③フィジカルアセスメント メディックメディカ

参考文献 : 都度紹介

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
診療に伴う援助技術 I	1	15	1年 後期	クラス別	実務経験あり 斉藤 恭子(看護師) 真下泰(臨床工学技士)

科目目的

対象者が、安全・安楽に診療を受けられるために必要な知識と技術を学ぶ。

科目目標

1. 検査・治療・処置の意義と目的を理解する。
2. 検査・治療・処置を受ける対象のへの援助の必要性和看護の役割を理解する。
3. 医療機器の原理と取り扱いについての基礎的知識を理解する。
4. 診療の援助を安全・安楽に提供するために必要な知識・技術を習得する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	診療に伴う援助技術の意義と看護の役割 (学内教員)	1. 診療の援助と保健師助産師看護師法 2. 診療の基礎知識 1) 感染予防 2) 滅菌と消毒 3) 臨床医療機器と看護 3. 診察における看護の役割 4. 診察時の援助と倫理的配慮	講義
4	検査に伴う看護 (学内教員)	1. 検査の意義 2. 検査時の看護師の役割 3. 対象の検査への理解・受容への援助 4. 主な検査の具体的援助方法と看護 1) 排泄物(尿・便・痰) 2) 体液(血液・穿刺液・分泌物) 3) 生体検査(心電図・脳波・呼吸機能検査・超音波・X線検査・CT検査・MRI検査)	講義
4	医療機器の原理と取り扱い(真下)	1. 医療機器とは 2. 医療機器の安全管理 3. 医療機器使用に伴う事故と対策 電撃事故、電磁波障害と防止対策 4. 診断・観察に用いる医療機器 5. 治療に用いる医療機器 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い	講義
6	検体の採取法と看護 (学内教員)	1. 検体の採取と看護 1) 排泄物 尿、便、痰の採取 2) 体液 穿刺による体液の採取	講義 演習 ・検体の取り扱い ・検査の介助
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
看護技術がみえる2 メディックメディア

参考文献 : 都度紹介します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	工藤 美恵子 実務経験あり(看護師/助産師)

科目目的

対象者が、安全・安楽に診療を受けられるために必要な知識と技術を学ぶ。

科目目標

1. 薬物療法についての基礎知識と看護の役割を理解できる。
2. 各与薬技術（経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼・点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬等）の基礎知識と援助方法を習得できる。
3. 注射法についての基礎知識と注射の準備を理解できる。
4. 安全・安楽・正確に注射（皮下注射、筋肉内注射、静脈路確保と点滴静脈内注射）を実施する知識・技術を習得できる。
5. 輸液療法および輸血時の看護の役割および管理について理解できる。

授業震度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	与薬の基礎知識	1. 薬物の基本的性質 2. 与薬における看護師の役割 ・正しい与薬のための留意事項 ・薬物の管理	講 義
6	各与薬方法の特徴と援助（1）	1. 各与薬方法の種類と看護 1) 経口薬 (1) 種類（食前・食後・食間・時間薬・就寝前・頓服・口内錠） (2) 剤形（粉末・固形・液状） (3) 安全・安楽な技術 2) 点眼、点鼻、点耳 (1) 援助の実際 (2) 留意点 3) 経皮的与薬 (1) 経皮薬の種類（塗布剤・貼付剤） (2) 安全・安楽な技術 4) 吸入薬 5) 直腸内与薬 (1) 援助の実際 (2) 安全・安楽な技術	講 義 演 習 ・経口薬の投与 ・経皮・外用薬の投与 ・坐薬の投与
4	各与薬方法の特徴と援助（2）	6) 注射方法 (1) 注射方法の基礎知識 (2) 注射器の取り扱いと準備 6Rの確認、準備（注射器と注射針、薬液） 皮膚の消毒と感染予防、針刺し予防、廃棄物の取扱、薬液の吸い上げ(アンプル、バイアル) (3) 各注射方法の目的と適応・必要物品と確認・注射部位と穿入方法・留意点 ① 皮内注射 ② 皮下注射 ③ 筋肉内注射 ④ 静脈内注射	講 義

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	注射の実施法	各注射方法の実施法 1. 注射の準備 (アンプル、バイアル) 2. 皮下注射 3. 筋肉内注射	演 習 ・注射の準備 ・皮下注射 ・筋肉内注射
4	検体の採取法 (静脈血採血)	1. 援助の基礎知識 1) 穿刺部位の選択 2) 穿刺方法 3) 合併症 2. 真空採血管を用いた静脈血採血の実際	講義 演習 ・静脈血採血
6	静脈内注射と点滴静脈内注射	1. 静脈内注射 1) 目的と適用 2) 穿刺部位の選択 3) 留意点 2. 点滴静脈内注射 1) 目的と適用、種類 2) 輸液の取り扱い 3) 静脈路の選択 4) 輸液の接続・固定方法 5) 留意点 6) 三方活栓の取り扱い 3. 点滴静脈内注射の管理 1) 観察の視点 2) 滴下速度の調整	講 義 演 習 ・静脈路の確保 (翼状針・静脈留置針) ・点滴静脈内注射の準備と実施 ・点滴静脈内注射の管理
4	輸血療法	1. 援助の基礎知識 1) 目的と適用 2) 種類 3) 副作用 2. 輸血時の看護 1) 準備 2) 実施時の看護 2) 輸血の管理	講 義 演 習 ・輸血の管理
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 (3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 (4) 臨床看護総論 医学書院
 看護技術がみえる2 メディックメディア

参考文献 : 都度紹介します。

学生の皆さんへ : 注射針を使用する演習があるので、体調管理を行い落ち着いて臨むようにしましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護過程	1	30	1年 後期	クラス別	齊藤恭子 実務経験あり(看護師) 演習担当(学内教員)

科目目的

看護の目的を達成するために、対象の健康問題を判断し、解決するための方法論を学ぶ。

科目目標

1. 看護過程とは何か、その概念を知る。
2. 看護活動における看護過程の役割を理解する。
3. 看護過程における各段階を理解する。
4. 計画立案の視点、過程を理解する。
5. 実施評価の視点を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	看護過程の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程と臨床判断 2. 看護過程を学ぶ意義 3. 看護過程の構成要素 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント アセスメントのプロセス 看護理論(看護論)に基づくアセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 計画立案 4) 実施・評価 4. 看護過程の展開に必要な能力 	講義
18	<p>ヘンダーソンの看護論に基づいた事例の看護過程展開</p> <p>アセスメント</p> <p>看護問題の明確化</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘンダーソン看護論の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の独自の機能とは 2) 基本的看護の構成要素 3) 常在条件・病理的状态 2. 情報収集・整理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 系統的な情報収集とは 2) 情報収集の方法 3) 主観的情報と客観的情報 4) V. ヘンダーソンの看護論に基づいた情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的看護の構成要素 ・ 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 ・ 基本的欲求を変容させる病理的状态 3. 情報の分析・解釈 基本的欲求の充足状況の判別と原因・誘因 4. 看護問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連図の作成と問題の原因・誘因の特定 2) 看護問題の設定と看護診断 	講義 演習 GW 個人ワーク

時間	単元	学習内容	学習方法
4	計画立案	5. 計画立案 1) 優先順位の考え方 2) 看護目標と具体的な援助方法 ・長期目標、短期目標 ・具体策 観察計画 (OP)、直接的援助計画 (TP) 教育・指導計画 (EP)	講義 演習 GW 個人ワーク
4	看護計画の実施・評価	6. 実施・評価 1) 計画に基づく看護の実施・評価の体験 2) 計画の終了・修正・継続・	

評価方法 : レポート評価

教科書 : 看護の基本となるもの

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版
系統看護学講座 専門分野1 基礎看護技術 I 医学書院

日本看護協会出版会
ヌーヴェルヒロカワ

参考文献 : その都度紹介します

学生のみなさんへ : 講義とグループワーク、個人ワークで事例を用いた看護過程展開の演習を並行して行います。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
看護研究の基礎	1	15	2年 後期	クラス別 合同	斉藤恭子(看護師)、 福井堅一(図書司書) 実務経験あり

科目目的

看護の問題を科学的に解決できるように、看護研究の基礎および先行研究や文献検討について学ぶ。

科目目標

1. 看護研究の必要性和意義を理解できる。
2. 看護研究の基礎的知識を理解できる。
3. 看護に関連する先行研究や文献検索方法を理解できる。
4. 研究論文を批判的に読み、研究の成果を理解できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	看護研究の概要	1. 看護研究の役割 1) 研究とは 2) 看護における研究とは 2. 看護研究の種類 3. 看護研究のプロセス	講 義
4	文献の種類と読み方	1. 研究論文の種類 2. 研究論文の読み方 3. 文献の整理 文献記録の記載方法	講 義 演 習
8	文献探索と批判的な論文の読み方	1. 文献検索の方法 1) 文献検索の意義 2) 文献の種類 3) 文献検索方法 2. 批判的な論文の読み方の実際	講 義 演 習

評価方法 : レポート、授業中に実施する小テスト

教科書 : 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考文献 : 都度紹介

学生のみなさんへ : 疑問をもちながら積極的に臨んでください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
看護研究	1	30	3年 前・後期	クラス別	齊藤 恭子 実務経験あり(看護師) 演習(学内教員)

科目目的

看護実践を研究的プロセスでまとめ、看護についての理解を深め、研究の意義を実感するとともに研究的姿勢を養う。

科目目標

1. 自己の看護実践を振り返り、研究動機を明確にできる。
2. 計画的に研究に取り組むことができる。
3. 研究に必要な文献検索を行い、文献を批判的・科学的に読み、研究の価値を理解できる。
4. 研究の過程を体験し、論文としてまとめることができる。
5. 研究をとおして、自己の看護観を深められる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	看護研究のプロセス	1. 看護研究のプロセス 1) 研究における疑問 2) 研究方法 3) 研究デザイン等 2. 研究計画書 1) 研究プロセスにおける研究計画書の位置づけと意義 2) 構成要素 3) 先行研究の概要 (1) 文献検索の方法 (2) 文献記録と批判的リーディング 4. 研究論文の構成	講 義 演 習
2	看護研究における倫理的配慮	1. 倫理的配慮 4) 医療分野における倫理規程 5) 看護研究における倫理原則	講 義
24	研究の実際	研究計画立案から発表までの一連の過程を体験する 1. 研究計画書の立案 2. データ収集 3. データ分析 4. 論文作成 5. 発表	演 習

評価方法 : レポート評価、研究発表時の評価

教科書 : 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考文献 : 都度紹介

学生のみなさんへ : 積極的に看護研究に臨んでください。

地域・在宅

看護論

地域・在宅看護論(6単位 150時間)

地域・在宅看護論

地域・在宅看護概論 I
(1単位 15時間)

- 地域・在宅看護の概念
- 地域・在宅療養者と家族の支援
- 地域・在宅ケアを支える制度と社会資源
- 地域・在宅療養を支える看護

地域・在宅看護概論 II
(1単位 30時間)

- 訪問看護サービスの仕組みと提供
- 地域・在宅ケアのケアマネジメントと
関係機関・関係職種間の連携
- 訪問看護技術

地域・在宅看護援助論 I
(1単位 30時間)

- 地域・在宅療養生活を支える基本的な技術
- 日常生活を支える看護技術
- 地域・在宅療養者の症状・状態別看護
- 療養を支える看護技術(医療ケア)

地域・在宅看護援助論 II
(1単位 30時間)

- 地域・在宅療養における医療機器・福祉用具
- 地域・在宅療養者の看取り
- 地域・在宅看護の展開

家族看護論
(1単位 15時間)

- 家族看護の基本
- 家族看護の対象理解
- 家族看護理論
- 家族看護の展開
- 家族看護の実践

多職種連携
(1単位 30時間)

- 多職種連携の基本
- 多職種の専門分化
- 多職種連携の意義
- 各環境における多職種連携
- 各職種の地域・在宅での役割
- 多職種連携の実際

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	1年 後期	クラス別	小宮山 政枝 実務経験あり(看護師)

科目目的

統合看護の視点で在宅看護の対象及びその家族の特徴を理解し、看護の役割・機能を学ぶ。

科目目標

1. 在宅看護の変遷、制度と地域活動について理解する。
2. 地域・在宅看護の対象と家族を理解する。
3. 地域・在宅看護の目的と役割を理解する。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学 習 方 法
4	地域・在宅看護の概念	1. 在宅看護の歴史と現状 2. 地域・在宅療養を支える看護師の役割・機能 3. 地域・在宅看護の基本理念と倫理 4. 地域・在宅ケアと地域・在宅看護	講 義 DVD
4	地域・在宅療養者と家族の支援	1. 地域・在宅における看護の対象者 2. 地域・在宅看護の対象者と在宅看護の成立要件 3. 地域・在宅看護と家族 4. 家族介護者の個別性に応じた支援	講 義
5	地域・在宅ケアを支える制度と社会資源	1. 社会資源の活用 2. 地域・在宅ケアを支える制度 3. 高齢者を支える制度と社会資源 4. 障害者を支える制度と社会資源 5. 難病療養者を支える制度と社会資源 6. 子どもの在宅療養を支える社会資源 7. 地域・在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源	講 義
2	地域・在宅療養を支える看護	1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護の実践 4. 訪問看護の記録 5. 地域・在宅療養者への看護活動	講 義 DVD
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考文献 : その都度資料配布、文献紹介をする。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	柴田ひとみ 実務経験あり(看護師)

科目目的

1. 地域・在宅ケアシステムにおけるケアマネジメントの役割や展開について学ぶ。
2. 地域・在宅で療養する対象及びその介護者を支援する看護の展開を理解し、在宅看護の訪問技術を学ぶ。

科目目標

1. 地域・在宅看護に必要な知識・技術を理解する。
2. 地域・在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。
3. 地域・在宅看護の展開までのプロセスを理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	訪問看護サービスの仕組みと提供	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの開設基準 2. 訪問看護サービス開始までの流れ 3. 訪問看護サービスの展開 4. 訪問看護サービスの質保証 5. 訪問看護サービスの管理・運営 	講義
2	在宅看護における安全と危機管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活における安全管理 2. 在宅療養を支える災害対策 	講義
18	在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケアとケアマネジメント 2. 在宅ケアにおける関連機関・関連職種との連携・協働 3. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 4. 事例検討 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護における在宅ケアとケアマネジメント 2) 訪問看護計画 	講義 GW
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

参考文献 : その都度紹介します

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30	2年 前期	クラス別	小宮山政枝(看護師) (技術) 三宅由佳(看護師) (症状・状態別看護・医療ケア)

科目目的

在宅で療養する対象者およびその介護者を支援する日常生活援助技術と医療技術について学ぶ。

科目目標

1. 地域・在宅療養を支援するために必要な知識・技術について理解できる。
2. 地域・在宅療養者の対象疾患とその援助について理解できる。
3. 地域・在宅看護で行われる医療処置の種類、援助方法について理解できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学 習 方 法
4	地域・在宅療養生活を支える基本的な技術 (小宮山)	1. コミュニケーション 2. フィジカルアセスメント 3. 環境整備 4. 生活リハビリテーション 5. 感染予防 6. ターミナルケア	講 義
6	日常生活を支える看護技術 (小宮山)	1. 食生活 2. 呼吸 3. 排泄 4. 睡眠 5. 清潔と更衣 6. 肢位の保持と移動	講 義
10	地域・在宅療養者の症状・状態別看護 (三宅)	1. 小児在宅療養者 2. 認知症のある高齢在宅療養者 3. 精神疾患のある在宅療養者 4. 難病がある在宅療養者 5. 在宅ターミナルケア (家族へのグリーフケア含む)	講 義 DVD
10	地域・在宅療養者を支える看護技術 (医療ケア) (三宅)	1. 薬物療法 (インスリン自己注射も含む) 2. がん化学療法・放射線療法 (外来通院中の在宅療養者に対する援助) 3. 酸素療法 4. 人工呼吸療法 5. 中心静脈栄養法 6. 褥瘡管理 7. 疼痛管理	講 義 DVD
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

参考文献 : 資料配布、その都度紹介します。

科 目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	小宮山 政枝 実務経験あり(看護師)

科目目的

地域・在宅での看護展開方法と医療技術を伴う看護の必要性を理解し、安全性や経済性を考慮した看護技術を習得する。

科目目標

1. 地域・在宅で行われる医療機器・福祉用具について理解できる。
2. 地域・在宅で行われる緩和ケア・看取りの特徴と看護について理解できる。
3. 紙上事例をもとに地域・在宅看護を展開する方法を理解する。
4. 地域・在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	地域・在宅療養における医療機器・福祉用具	1. 様々な病状、ADL に合わせた生活調整 1) 対象者に必要な医療機器と福祉用具の種類 2) 医療機器と福祉用具の取り扱い	ウェルネス職員 講義 演習
6	地域・在宅療養者の看取り	1. 地域・在宅の看取り、緩和ケア 1) 在宅での看取り・緩和ケアの特徴について 2) ホスピスの DVD 学習 3) 事例検討	講義 DVD 学習 GW
20	地域・在宅看護の展開	1. 在宅看護の展開（疾患：大腸がん） 1) 在宅看護の展開の視点 2) 在宅看護過程の特徴 2. 在宅看護過程 1) 情報収集とアセスメント 2) 目標・計画 3. 訪問看護の実践（ストーマ管理を含む） 1) 事例を用いた実践 2) 実践の評価	講 義 GW 演 習 (ロールプレイ)
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

参考文献 : その都度紹介します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
家族看護論	2	15	3年 前期	クラス別	小宮山 政枝 実務経験あり(看護師)

科目目的

家族のエンパワーメントを理解し、家族の力を発揮できるようなケアを実践する能力を身に着ける

科目目標

1. 家族看護の基本と対象の理解ができる。
2. 家族看護を支える理論について理解できる。
3. それぞれの状況下にある家族への介入方法について理解できる。
4. 家族看護の事例を通し、家族看護の実践について考えることができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	家族看護の基本	1. 家族看護とは 1) 家族看護の特徴と理念 2) 家族看護の実践の場面	講義
2	家族看護の対象理解	1. 家族看護の対象 1) 家族とは 2) 家族の構造 3) 家族機能 4) 現代の家族とその課題	講義
2	家族看護理論	1. 家族看護を支える理論と介入法 1) 家族を理解するための理論 2) 家族の変化を把握するための理論 3) 家族に変化をもたらすための介入	講義
2	家族看護の展開	1. 家族看護展開の方法 1) 家族看護過程とは 2) 家族看護の実践 3) 様々な家族アセスメントモデル	講義
7	家族看護の実践	1. 事例に基づく家族看護学の実践 1) 急性期患者の家族看護 2) 慢性期疾患・先天奇形をもつ小児患者の家族看護 3) 終末期患者の家族看護 4) 精神疾患患者の家族看護 5) 高齢者・認知症の患者の家族看護	講義 グループ ワーク
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 家族看護学 医学書院

参考文献：都度紹介します

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
多職種連携	1	30	3年 前期	クラス別	小宮山政枝(看護師)新居弘堯(理学療法士) 飯泉智子(言語聴覚士)千葉利代(歯科衛生士) 池森康裕(介護福祉士/社会福祉士) 芥川豊(作業療法士)

<科目のねらい>

地域包括ケアシステムにおける他の職種との連携をはじめとする多職種協働を実践できる能力を身に付ける。

<科目目標>

1. 多職種連携の意義と必要性が理解できる
2. 各場所による職種の役割と実践方法が理解できる
3. 多職種連携の実際を学ぶことができる

<授業進度と内容>

時間	単元	学習内容	学習方法
4	多職種連携の基本 (小宮山)	1. 多職種連携とは 1) 多職種連携とその教育の必要性 2) 多職種連携の形態 3) 多職種連携の基本的理念	講義
2	多職種の専門分化 (小宮山)	1 医療職の専門分化 1) 医療専門職とは 2) 医療専門職の分化史 3) 医療専門職の分化と連携	講義
2	多職種連携の意義 (小宮山)	1. 多職種連携の意義 2. 多職種連携の課題 3. 現代医学の疾患傾向の変化 4. パターナリズムと患者の権利	講義
4	各環境における多職種連携 (小宮山)	1. 地域・在宅医療における連携 1) 地域・在宅医療における多職種連携の必要性 2) 地域・在宅医療において多職種連携が必要な局面 2. 病院と地域における連携 1) 病院・地域連携における多職種連携の必要性 2) 病院・地域連携において多職種連携が必要な局面	講義 DVD 学習 グループ ワーク
1 2	各職種の地域・在宅での役割 理学療法士 (新居) 作業療法士 (芥川) 言語聴覚士 (飯泉) 歯科医師・衛生士 (千葉) 介護福祉士・介護ヘルパー (池森)	1. 理学療法士の連携 1) 理学療法士の業務・役割	講義
		2. 作業療法士の連携 1) 作業療法士の業務・役割	講義
		3. 言語聴覚士の連携 1) 言語聴覚士の業務・役割	講義
		4. 歯科医師・歯科衛生士の連携 1) 歯科の業務・役割	講義
		5. 介護福祉士・介護ヘルパーの連携 1) 介護福祉士・介護ヘルパーの業務・役割	講義
6	多職種連携の実際 (小宮山)	1. 多職種連携の実際 1) 事例検討：多職種連携の展開	講義 グループ ワーク
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

参考文献：都度紹介します

成人看護学

成人看護学 (4単位120時間)

成人看護学概論
(1単位30時間)

- 成人期にある人の理解
 - 成人看護の目的
 - 青年期・壮年期・向老期の健康問題
- 成人の生活を理解する視点と方法
 - 成人の生活の理解とアセスメント
- 身体機能の特徴と看護
 - 身体機能の安定性と変化
 - 身体機能の理解に基づく看護
 - 身体機能の変化に着目したアセスメントと看護
- 成人期に見られる健康障害
 - 生活習慣に関連する健康障害
 - ワークライフバランスと健康障害
 - 職業と健康障害
 - 生活ストレスと健康障害
 - セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害
 - 身体活動と健康障害
 - 更年期にみられる健康障害
- 成人への看護に有用な概念
 - ストレス理論・コーピング理論
 - 危機理論
 - 役割理論
 - ナラティブアプローチ

成人看護学

成人看護学援助論Ⅰ
(1単位30時間)

- 急性期にある患者の看護
 - 急性期にある患者とその家族の特性
 - 急性期における看護の目標
 - わが国の救急医療・救急看護体制
- 救急医療における患者の看護
 - 救急看護と法的・倫理的側面
 - 救急患者の特徴
 - 救急救命処置
 - 救急患者への心理的援助
 - 救急患者の家族に対する援助
- 変化する医療・生活環境に対応した看護
 - 新たな治療法・先端医療の実際と看護
 - 倫理的課題
- 成人期にある対象の看護過程の展開
 - 紙上事例を用いた看護過程の展開

成人看護学援助論Ⅱ
(1単位30時間)

- 成人期に多く見られる疾患をもつ患者の看護
 - 消化機能障害を持つ患者の看護
 - 循環機能障害を持つ患者の看護
 - 運動機能障害を持つ患者の看護
 - 脳・神経機能障害を持つ患者の看護
 - 呼吸機能障害を持つ患者の看護
 - 排泄機能障害を持つ患者の看護
 - 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護
 - 身体防御機能障害を持つ患者の看護

成人看護学援助論Ⅲ
(1単位30時間)

- 成人看護援助技術
 - 包帯法
 - 創傷管理
 - 穿刺・簡易血糖測定
 - 吸入法
 - 吸引法
 - 輸液管理 (輸液ポンプ)

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
成人看護学概論	1	30	1年 後期	クラス別	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

成人期にある対象の特徴を学び、看護の役割を果たすために必要な基礎知識を理解する。

科目目標

1. 成人看護の機能と役割を理解する
2. 成人の生活と役割・特徴を理解する
3. 成人期にある対象の身体機能の特徴について理解する
4. 成人期に見られる健康障害について理解する

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	成人期にある人の理解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の目的 2. 成人の定義 人間の成長発達と成人期 GW:「大人」とは 3. 成人の特徴の概要 青年期・壮年期・向老期の健康問題 身体的・心理社会的特徴と健康障害 日本の衛生統計からみる成人期 	講義 GW
2	成人の生活を理解する 視点と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活の理解とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族における成人の役割と特徴 2) 仕事における成人の役割と特徴 3) 地域における成人の役割と特徴 	講義
4	身体機能の特徴と 看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体機能の安定性と変化 2. 身体機能の理解に基づく看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 部位別看護 2) 臓器別看護 3) 系統別看護 4) 身体機能を理解する見方とその重要性 3. 身体機能の変化に着目したアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による影響 2) 疾病・外傷による影響 3) 生活習慣・生活行動による影響 4) 症状別看護 5) 疾患別・治療別看護 6) 健康レベル・経過別看護 7) 機能障害別看護 	講義

時間	単元	学習内容	学習方法
10	成人期に見られる健康障害	1. 生活習慣に関連する健康障害 1) 生活習慣病の要因 2) 健康問題の現状と推移 2) 生活習慣の是正	講義
		1. ワークライフバランスと健康障害 1) ワークライフバランス 2) ワークライフバランスと健康障害	
		1. 職業と健康障害 1) 職業性疾病および業務上疾病 2) 予防と対策	
		1. 生活ストレスに関連する健康障害 1) 成人の生活ストレス 2) 予防と対策	
		1. セクシュアリティに関連する健康障害 1) 性的健康の指標および実態 2) 予防と対策	
		1. 身体活動と健康障害 1) 成人の身体活動と健康障害 2) 成人期の障害者の身体活動 3) 余暇活動におけるスポーツ	
		1. 更年期に関連する健康障害 1) 更年期障害の原因・症状 2) 予防と治療	
10	成人への看護に有用な概念	1. 健康状態に応じた援助（支援）のための主な理論 1) ストレス理論・コーピング理論 2) 危機理論 3) 役割理論 4) ナラティブ・アプローチ 2. 事例展開の紹介	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：ナースンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版

参考文献：その都度紹介します。

学生のみなさんへ：人生の中で一番長く充実している成人期について理解を深め、自らも成人としての自覚を持ち学習に取り組んでください。

グループ学習への積極的な参加も期待しています。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
成人看護学援助論 I	1	30	2年 前期	クラス別	千葉祐子 実務経験あり(看護師) 渡辺静香 実務経験あり(看護師) (救急医療)

科目目的

生命の危機的状況にある対象と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ
健康障害のある成人期にある対象に対して、看護過程を展開する能力を養う。

科目目標

1. 急性期にある患者の特徴と必要な看護を理解する。
2. 救急患者および家族、救急看護の特徴を理解する。
3. 救命救急に必要な救急処置と看護技術を理解する。
4. 侵襲的治療を受ける患者の特徴と看護を理解する。
5. 成人期にある対象の事例をもとに、看護過程を展開し対象者に合った看護を計画できる。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	急性期にある患者の看護 (千葉)	1. 急性期にある患者とその家族の特徴 2. 急性期における看護の目標	講義
10	救急医療における患者の看護 (渡辺)	1. わが国の救急医療・救急看護体制 2. 救急看護と法的・倫理的側面 3. 救急患者の特徴 4. 救急患者への心理的援助 5. 救急患者の家族に対する看護	講義
2	変化する医療・生活環境に対応した看護 (千葉)	1. 新たな治療法・先端医療の実際と看護 2. 倫理的課題	講 義
14	成人期にある対象の看護過程の展開 (千葉)	1. 紙上事例を用いた看護過程の展開 1) 学習計画の立案 2) 事前学習 3) 発達段階・課題、病理的状态 4) 14項目アセスメント 5) 看護課題の明確化 6) 関連図 7) 優先順位の根拠の明確化 8) 看護計画の立案 9) 実施・評価の視点	講義 個人学習 GW
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 臨床看護総論 メヂカルフレンド社

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 急性期の看護目標を意識し、事例をとおしてその実際を学びます。

疾患や治療などの基礎知識を復習して講義に臨みましょう。

看護過程では事前学習が大切です。文献を十分に活用し、学習を深めましょう。

個人学習が中心ですので、計画的に学習しましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
成人看護学援助論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	阿部裕矢(消)佐藤恵美(循) 竹内明美(運)千葉祐子(呼他) 実務経験あり(看護師)

科目目的

1. 成人期にある対象の持つ多様な健康課題を理解し、対象および家族に必要な看護を学ぶ。

科目目標

1. 疾患による健康障害を患った対象者および家族に必要な看護を理解する。

授業進度と内容

単元	時間	学習内容	学習方法
成人期に多くみられる疾患を持つ患者の看護	4 (千葉)	1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 肺がん	講義
	4 (阿部)	2. 循環機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 心筋梗塞	講義
	4 (佐藤)	3. 消化機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 胃がん	講義
	4 (千葉)	4. 排泄機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 慢性腎不全	講義
	4 (竹内)	5. 運動機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 疾患を持つ患者の看護 (1) 大腿骨頸部骨折	講義
	4 (千葉)	6. 脳・神経機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 疾患を持つ患者の看護 (1) 脳梗塞 (2) クモ膜下出血	講義
	4 (千葉)	7. 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 糖尿病	講義

単 元	時間	学 習 内 容	学習方法
成人期に多く見られる疾患を持つ患者の看護	2 (千葉)	8. 身体防御機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 白血病 (2) 膠原病 ※ 感覚器機能障害を持つ患者の看護は 病態学IVで学習する	講義
単位修得試験	1		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 成人看護学 (医学書院)

②呼吸器 ④血液・造血器 ⑥内分泌代謝 ⑦脳神経 ⑧腎・泌尿器 ⑩運動器

⑪アレルギー、膠原病、感染症

参考文献 : その都度紹介します。

学生のみなさんへ :

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
成人看護学援助論Ⅲ	1	30	2年 前期	クラス別	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

成人看護に必要な看護技術を学ぶ。

科目目標

診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、安全・安楽に提供できるように習得する。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	包帯法	1. 包帯法の基礎知識・方法 2. 包帯法に関するアセスメント	講 義 DVD ジグソー学習 ・DVD視聴 ・個人学習 ・GW ・技術演習 ・レポート
2	創傷管理	1. 創傷の分類・治癒過程・創傷管理の方法 2. ドレッシング法 3. 創傷管理に関するアセスメント 4. 創傷処置の方法	
2	穿刺・ 簡易血糖測定・	1. 穿刺の基礎知識・方法・留意点 2. 穿刺に関するアセスメント 3. 血糖自己測定の方法、滅菌手袋の装着方法	
2	吸入法	1. 吸入法の基礎知識・方法・留意点 2. 吸入法に関するアセスメント 3. 薬液吸入・気道内加湿の方法 4. 酸素吸入の方法	
2	吸引法	1. 吸引の基礎知識・方法・留意点 2. 吸引に関するアセスメント	
2	輸液管理	1. 輸液管理の基礎知識・方法・留意点 2. 滴下数の求め方 3. 輸液療法に関するアセスメント 4. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	
18		1. 上記学習内容についての技術演習 1) 演習内容 ①創傷管理、滅菌グローブ着脱・鑷子間の受渡 ②酸素吸入、気道内加湿 ③吸引（口腔・気切部） ④簡易血糖測定 ⑤シリンジポンプ・輸液ポンプ（滴下計算含む） 2) 演習方法（ジグソー学習法）	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験、レポート、演習参加態度

教科書：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

看護が見える①② メディックメディカ

参考文献：その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ：事前学習をして授業・学内実習に臨みましょう。ジグソー学習は、専門家の役割を持った学生が、他の学生に技術を教え互いに学び合うことを目的にした学習方法です。主体性と責任感を持って活発な学習になることを期待しています。

老年看護学

老年看護学 (3単位 75時間)

老年看護学概論
(1単位 15時間)

老年期の理解

- 高齢者を知ろうとすること
- 老いのイメージ
- 高齢者の定義

老年看護の特徴

- 老年看護のなりたち・定義
- 老年看護の役割
- 老年看護における理論・理念の活用
- 老年看護に携わる者の責務

超高齢社会の統計的輪郭

- 超高齢社会の現況

高齢社会における
保健医療福祉の動向

- 保健医療福祉システムの構築
- 高齢者を支える多職種の連携と看護活動

高齢者の人権と倫理

- 高齢者の権利擁護
- ・スティグマと差別 ・エイジズム ・高齢者虐待
- 権利擁護のための制度

老年看護学

老年看護学援助論 I
(1単位 30時間)

健康障害の特徴と
アセスメント・看護

- 老年症候群-主要症候と起こりやすい問題・アセスメントと看護

高齢者に特有な症候・
疾患・障害

- 高齢者の疾患の特徴

身体可動性に障害のある
高齢者への看護

- 高齢者の健康の維持・増進の方法
- 身体可動性に障害のある高齢者への看護

認知機能障害のある
高齢者への看護

- 認知機能障害のある高齢者への援助

コミュニケーション障害の
ある高齢者への看護

- 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方
- コミュニケーション障害のアセスメントと看護

老年看護学援助論 II
(1単位 30時間)

日常生活を支える基本的動作

- 基本動作と環境のアセスメントと看護
- 老年看護の援助技術

老年看護の援助技術

- 生活リズムのアセスメントと看護
- 高齢者とのコミュニケーション
- 転倒のアセスメントと看護
- 身体機能に障害のある高齢者の移動の援助
- 食生活のアセスメントと看護
- 嚥下機能障害のある高齢者への食事の援助
- 排泄のアセスメントと看護
- 清潔のアセスメントと看護
- 排泄機能に障害のある高齢者への排泄と清潔の援助
- セクシュアリティ

老年期にある人の
看護過程の展開

- 高齢者の看護過程展開における特徴
- 事例展開

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
老年看護学概論	1	15	1年 後期	クラス別	沼田 環 (看護師) 朝倉 あつ子 (看護師)

科目目的

1. 老年期にある対象の特徴を理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ。
2. 高齢者と家族の健康・生活を支える保健・医療・福祉の現状と課題を理解する。
3. 高齢者における老人保健の意義と老人保健対策の現状と看護の果たす役割を学ぶ。

科目目標

1. 老年看護の概念と、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。
2. 老年看護の実践の場とその役割、機能を理解する。
3. 高齢社会における保健の動向、保健活動について理解することができる。
4. 高齢社会の保健・医療・福祉の課題とそのサービスについて述べるができる。
5. 高齢者の人権の重要性について述べるができる。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	老年期の理解 (乗次)	1. 高齢者を知ろうとすること 2. 老いのイメージ 3. 高齢者の定義	講 義 GW
2	老年看護の特徴 (乗次)	1. 老年看護のなりたち・定義 2. 老年看護の役割 3. 老年看護における理論・概念の活用 4. 老年看護に携わる者の責務	講 義
4	超高齢社会の統計的輪郭 (沼田)	1. 超高齢社会の現況 1) 人口動態、高齢化率、平均寿命 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の健康状態 4) 死因の動向、死亡場所 5) 高齢者の暮らし	講 義
4	高齢社会における保健医療福祉の動向 (沼田)	1. 保健医療福祉システムの構築 1) 保健医療福祉制度の変遷 2) 介護保険制度の整備 3) 高齢者医療の仕組み 2. 高齢者を支える多職種の連携と看護活動 1) 高齢者の生活と健康を支える多様な職種 2) 看護職の活動の場の拡大と専門性	講 義
3	高齢者の人権と倫理 (乗次)	1. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度	講 義 G W
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 老年看護学 医学書院

参考文献 : 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

学生のみなさんへ : 老年看護学の導入となる科目です。高齢者の理解につなげ、高齢社会にある我が国の現状を学んでいきましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
老年看護学援助論 I	1	30	2年 前期	クラス別	朝倉あつ子(看護師)小原菜穂(看護師) 疋田 健(認定看護師) 山下いずみ(看護師)若林崇雄(医師)

科目目的

- 健康障害の特徴と健康状態に応じ、高齢者とその家族に対する看護を実践するための知識・技術・態度を養う。
- 老年の健康障害の特徴と老年期に多い健康障害を学ぶ。

科目目標

- 高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康障害に応じた看護について理解する。
- 高齢者に多く見られる疾患、主な症状の看護方法を考えられる。
- 身体可動性に障害のある高齢者とその家族の問題を知り、看護方法を理解する。
- 認知症高齢者の特徴を理解し、対象に適した看護援助について述べることができる。
- 高齢者に特徴的なコミュニケーション障害が理解でき、看護方法を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	健康障害の特徴とアセスメント・看護 (山下)	1. 老年症候群—主要な症候とおこりやすい問題・アセスメントと看護 1) 意識障害 2) 発熱・熱中症・脱水症 3) やせ 4) 痛み・かゆみ 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 8) 手足のしびれ	講義
4	高齢者に特有な症候・疾患・障害 (若林)	1. 高齢者の疾患の特徴 1) 心不全、浮腫、胸水 2) 肺炎 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 腎不全 5) 骨粗鬆症・骨折・変形性関節症 6) うつ病 7) 脳血管障害 8) 前立腺肥大症 9) 皮膚癢痒症	講義
8	身体可動性に障害のある高齢者の看護 (小原)	1. 高齢者の健康の維持・増進の方法 2. 身体可動性に障害がある高齢者の看護 1) 廃用症候群の主な症状 2) 廃用症候群のアセスメントと看護ケア 3) 褥瘡のリスクアセスメント 4) 褥瘡の予防と看護ケア	講義 ビデオ GW
6	認知機能障害がある高齢者の看護 (疋田)	1. 認知機能障害がある高齢者の看護 1) せん妄 2) 認知症（認知機能及び生活機能の評価含む） 3) 認知症の高齢者への援助 4) 家族への援助	講義
6	コミュニケーション障害のある高齢者の看護 (朝倉)	1. 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 1) 視力障害 2) 聴力障害 3) 失語症の症状と分類 4) 構音障害の症状と分類 2. コミュニケーション障害のアセスメントと看護	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：老年看護病態・疾患論、老年看護学 医学書院

参考文献：その都度配布・紹介します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
老年看護学援助論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	実務経験あり 緑川 弥生 (看護師) 中村 園美 (看護師)

科目目的

1. 高齢者の特徴をふまえ、高齢者の生活機能を整える知識を修得する。
2. 老年の健康課題に対する生活上の問題を判断し、解決するために理論的知識を用いて、問題解決思考の方法を習得する。

科目目標

1. 高齢者の日常生活の変化が理解できる。
2. 高齢の対象者を援助する際のアセスメント方法を学び、安全性を考慮した日常生活の援助方法を実践できる。
3. 高齢者の身体的・心理的・社会的問題を踏まえ、対象の健康障害と個別性を考慮した看護過程の展開ができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	日常生活を支える基本的活動 ① (緑川)	1. 基本動作と環境のアセスメントと看護 1) 生活の基本となる日常生活動作 2) 基本動作と環境の理解と看護 3) 日常生活活動(動作)の評価指標	講義
6	日常生活を支える基本的活動 ② (中村)	2. 転倒のアセスメントと看護 1) 高齢者模擬体験 3. 清潔のアセスメント 4. 生活リズムのアセスメントと看護	講義 演習
4	日常生活を支える基本的活動 ③ (緑川)	5. 食生活のアセスメントと看護 6. 嚥下機能障害のある高齢者への食事の援助	講義 演習
4	日常生活を支える基本的活動 ④ (緑川)	7. 排泄のアセスメントと看護 8. 清潔のアセスメントと看護 9. 排泄機能に障害のある高齢者への排泄と清潔の援助	
2	日常生活を支える基本的活動 ⑤ (中村)	1 1. セクシュアリティ 1) 高齢者のセクシュアリティ 2) 加齢に伴う性機能の変化 3) セクシュアリティのアセスメントと看護	講義

1 2	高齢者の特徴踏まえた事例展開 (中村)	1. 高齢者の特徴を踏まえたアセスメントの視点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢変化 2) 日常生活の状況、生活習慣 3) 疾病、症状及び経過 4) 価値観・健康の認識 5) 心理状況 6) 認知・コミュニケーション能力 7) 家族背景・役割 2. 事例を用いた健康障害のある高齢者の看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院による影響と高齢者の特徴をふまえたアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)加齢変化(身体的・精神的・社会的)及び疾患の日常生活への影響 (2)疾患の経過・治療 (3)認知・理解の程度 (4)生活習慣、価値観、健康に関する認識 (5)家族背景、サポート状況 2) 看護問題の明確化 3) アセスメントに基づいた看護計画 <ol style="list-style-type: none"> (1)生活機能、その人の望む生活のあり方を考慮した目標設定 (2)加齢変化、生活習慣を考慮した援助 (3)強み、残存機能を活用した援助 (4)対象の個別性や自尊心に配慮した計画 (5)活動と休息と生活リズムを考慮した計画 (6)事故防止を配慮した計画 (7)二次障害の予防に向けた計画 (8)家族への援助 4) 援助の実施・評価 講義： 2時間 演習： 10時間 事例： 高齢者に特有な疾患に罹患した後期高齢者(複数の既往歴をもつ大腿部頸部骨折)	講義 演習
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験・レポート・演習参加態度

教科書：老年看護学 医学書院 ・ヘンダーソン看護論の実践

参考文献：その都度紹介

学生のみなさんへ：高齢者への生活援助技術の基本を学んでいきましょう。

演習

1. 高齢者の看護過程展開における特徴
2. 事例展開
 - 1) 情報収集、アセスメント
 - 2) 看護問題の明確化(関連図作成)
 - 3) 看護計画の立案
- 4) 実施・評価

小児看護学

小児看護学 (3単位 90時間)

小児看護学	小児看護学概論 (1単位 30時間)	小児看護の対象と目的	小児看護の対象 子どもの成長・発達 小児看護の目的と役割
		小児と家族の諸統計	わが国の人口構造 出生と家族 子どもの死亡
		小児医療・看護の変遷	諸外国、我が国の児童観・育児観 諸外国、我が国の小児医療の変遷 諸外国、我が国の小児看護の変遷
		小児看護における倫理	子どもの権利と擁護 医療現場でおこりやすい問題点と看護
		小児看護の課題	疾病の構造の変化と小児看護 社会の変化と小児看護 小児看護の専門分化
		子どもと家族	子どもにとって家族とは 家族が子どもの健康に及ぼす影響 病気や入院が子供と家族に与える影響
		子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉法・児童憲章・児童権利宣言 児童福祉 母子保健 医療費の支援 予防接種 学校保健 食育 特殊支援教育 臓器移植
	小児看護学援助論Ⅰ (1単位 30時間)	新生児疾患	低体重児、染色体異常、先天性奇形
		栄養	母乳栄養、人工栄養
		子どもに起こりやすい症状	肥満、拒食 誤嚥、発熱、脱水症など
		運動器疾患	小児骨折、発育性股関節形成不全、内反症、骨端症、骨肉腫など
		心臓・脈管疾患 (動脈・静脈・リンパ管)	心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症など
		悪性腫瘍・血液・造血器疾患	神経芽腫、鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、白血病、 血友病、悪性リンパ腫など
		感染症	ウイルス性疾患 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘症など) 細菌感染症、結核など
		腎疾患	ネフローゼ、糸球体腎炎など
		内分泌、先天性代謝異常	I型・II型糖尿病、先天性代謝異常など
		神経・筋疾患	脳性麻痺、てんかん、筋ジストロフィーなど
		身体障害	身体障害の定義・分類 脳性麻痺・身体不自由の特徴と支援
		重症心身障害	重症心身障害の特徴と支援
		発達障害	発達障害の特徴と支援 障害児(者)と家族のための法律と資源
小児看護学援助論Ⅱ (1単位 30時間)	病気・障害を持つ 子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 子どもの事故防止	
	子どもの状況(環境)に 特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護	
	急性期にある子どもと 家族の看護	急性期の特徴と看護 急性期の代表疾患の看護	
	慢性期にある子どもと 家族の看護	慢性期の特徴と看護 慢性期の代表疾患と看護	
	ハイリスクの子どもと 家族の看護	新生児・先天性疾患・心身障害のある子どもと家族の看護	
	検査・処置を受ける 子どもの看護	子どもにとっての検査・処置の恐怖・苦痛体験 正確、安全かつ迅速に検査・処置が受けられるための技術 検査・処置の実際	

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
小児看護学概論	1	30	2年 前期	クラス別	岡田 千佐子 花井 未帆 実務経験あり(看護師)

科目目的

成長・発達段階にある子どもの特徴、家族および環境が子どもに与える影響を理解するとともに子どもと家族を対象とした看護実践の基盤となる知識を学ぶ。

科目目標

1. 子どもと家族を対象とした小児看護の役割を考えることができる。
2. 小児看護の理念・目的・変遷を学び小児医療とその課題を理解できる。
3. 小児医療・小児保健の実際と課題を理解し、子どもを取り巻く社会の現状を考えることができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	小児看護の対象と目的 (花井)	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目的と役割 3. 子供の成長・発達 1) 小児看護学における発達論 2) 小児期の発達の区分 3) 成長・発達の進み方(一般的原則) 4) 成長・発達に影響する因子 ①遺伝的因子 ②環境的因子 5) 成長と発達の評価	講義
2	小児と家族の諸統計 (岡田)	1. わが国の人口構造 2. 出生と家族 3. 子どもの死亡	講義
4	小児医療・看護の変遷 (岡田)	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2. 日本の児童観・育児観の変遷 3. 日本の小児医療の変遷 4. 小児看護の変遷 5. 現代の小児看護	講義
	小児看護における倫理 (岡田)	1. 子どもの権利 2. 医療現場でおこりやすい問題点と看護	講義(GW) レポート
4	小児看護の課題 (花井)	1. 疾病構造の変化と小児看護 2. 社会の変化と小児看護 3. 小児看護の専門分化	講義

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	小児各期の養育 および看護 (岡田)	新生児期の養育および看護	講 義
2		乳児期の養育および看護	
2		幼児期の養育および看護	
2		学童期の養育および看護	
		思春期・青年期の看護	
2	子供と家族 (岡田)	1. 子供にとっての家族とは 2. 家族アセスメント 3. 家族が子供の健康に及ぼす影響 4. 病気や入院が子供と家族に与える影響	講 義
4	子供と家族を 取り巻く社会 (岡田)	1. 児童福祉法・児童憲章・児童権利宣言 2. 児童福祉 1) 児童福祉の変遷 2) 虐待防止 3) 子供の貧困対策 3. 母子保健 1) 母子健康手帳 2) 訪問指導 3) 健康診査 4. 医療費の支援 1) 未熟児養育医療 2) 小児慢性特定疾病医療費助成制度 3) 難病 5. 予防接種 1) 予防接種の歴史 2) 現在の予防接種 3) 副反応と健康被害救済制度 6. 学校保健 1) 学校保健の歴史 2) 健康診断・健康相談 3) 学校保健活動の推進 7. 食育 8. 特殊支援教育 9. 臓器移植 10. 子どもの虐待と看護 1) 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5) 求められるケア	講 義 DVD レポート

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

参考文献 : その都度紹介・配付

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
小児看護学援助論 I	1	30	2年 後期	クラス別	佐藤 俊哉 実務経験あり(医師)

科目目的

小児医療の実際と、子どもに特有な病態・症状・治療に関する基本的知識を系統的に学ぶ。

科目目標

子どもに特有な病態・症状・治療に関する基本的知識を理解し、小児看護のあり方を考えることができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	新生児疾患	新生児反射・疾患 (低体重児、染色体異常、先天性奇形)	講義
6	栄養 子どもに起こりやすい症状 小児の救急法	1. 発達、プレパレーション 2. 栄養について(母乳栄養、人工栄養など) 3. 発熱、脱水症など 4. 呼吸停止、心停止、誤飲、溺水、外傷、出血 中毒など	講義
2	運動器疾患	乳児検診時に発見されやすい異常 発育性股関節形成不全、小児骨折、内反症 など	講義
2	消化器疾患 心臓・脈管疾患(動脈 ・静脈・リンパ管)	腸重積、心房中隔欠損症、動脈管開存症、 ファロー四徴症、など	講義
2	呼吸器疾患 悪性腫瘍・血液 造血器疾患	肺炎、気管支喘息など 神経芽腫、鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、 白血病、血友病、悪性リンパ腫など	講義
2	腎疾患 神経・筋疾患	ネフローゼ、糸球体腎炎など 脳性麻痺、てんかん、筋ジストロフィーなど	講義
6	アレルギー・免疫 感染症	ウイルス性疾患 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘症など) 細菌感染症、結核など 学校感染症 母子感染症(TORCH)	講義
2	内分泌 先天性代謝異常	I型・II型糖尿病、先天性代謝異常など	講義

6	身体障害 重症心身障害 発達障害	1. 身体障害の定義・分類 2. 脳性麻痺・身体不自由の特徴と支援 3. 重症心身障害の特徴と支援 4. 発達障害の特徴と支援、在宅支援 5. 障害児(者)と家族のための法律と資源 6. 医療ケア時の支援について 7. 心の問題と虐待	講義
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：小児臨床看護各論 医学書院 参考文献：その都度紹介・配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
小児看護学援助論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	佐藤 真紀子 実務経験あり(看護師/助産師) 花井 未帆実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ子どもと家族への心身および社会的影響を理解し、健康を障害された子どもとその家族に必要な看護援助を提供するための知識、技術、態度を養う。

科目目標

1. 小児期に特徴的な疾患の病態・治療の基礎的知識を基に、事例を通して健康障害や治療が子どもの身体・心理・発達および家族に及ぼす影響を理解する。
2. 基本的な小児看護学技術の目的・原則を理解し実践できる

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	病気・障害を持つ子どもと家族の看護 (佐藤)	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護 1) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 2) 子どもの日常生活にかかわる看護 3) 健康問題を持つ子どもの看護 3. 子どもの事故防止	講義
4	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 (佐藤)	1. 入院中の子どもと家族の看護 1) 入院環境と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の特徴・看護 2. 外来における子どもと家族の看護 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 3) 外来における子どもと家族の特徴・看護	講義 DVD
8	急性期にある子どもと家族の看護 (佐藤)	1. 急性期の特徴と看護 2. 急性期の代表疾患の看護 ①川崎病 ②気管支喘息 ③ウイルス性急性胃腸炎	講義 DVD (川崎病:幼児) 演習
6	慢性期にある子どもと家族の看護 (佐藤)	1. 慢性期の特徴と看護 2. 慢性期の代表疾患と看護 ①ネフローゼ糖尿病 ②I型糖尿病	講義 DVD (ネフローゼ:学童) 演習
2	ハイリスクの子どもと家族の看護 (佐藤)	1. 新生児・先天性疾患・心身障害のある子どもと家族の看護 2. 周手術期の子どもと家族の看護 3. 終末期の子どもと家族の看護 (2. 3は領域横断科目でおこなう)	講義

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
6	検査・処置を受ける 子どもの看護 (佐藤・花井)	1. 子どもにとっての検査・処置の恐怖・苦痛体験 2. 正確、安全かつ迅速に検査・処置が受けられるための技術 1) 動くことにより起こりうる事故の防止の技術と人権の侵害 2) 対象に合わせた不安の軽減 ①コミュニケーション ②説明 ・プレパレーション ③ディストラクション 3. 検査・処置の実際 1) バイタルサイン測定、身体測定 2) 与薬 ①経口薬：水薬、粉薬 ②座薬 3) 輸液管理 4) 検体採取：採尿、採血、腰椎穿刺 5) 排泄：おむつ交換	講義 DVD 演習 (バイタルサイン測定、 身体測定、 採尿)
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献：紹介します。

母性看護学

母性看護学 (4単位 105時間)						
母性看護学	1年後期	母性看護学概論 (1単位 30時間)	母性看護の主な概念	母性とは		
			母性看護の対象を取り巻く	母子関係と家族発達		
			社会の変遷と現状	セクシュアリティ、性の多様性		
			母性看護の対象理解	リプロダクティブヘルス/ライツ		
			ライフステージ各期の健康課題と看護	母性看護のあり方		
	2年前期	母性看護学援助 I (1単位 30時間)	妊娠に伴う母体の身体的特性	母性看護における倫理		
			胎児の発育と成長と妊婦の特性	母性看護の歴史の変遷		
			正常に経過する妊婦の看護	日本の母子保健統計の動向		
			ハイリスク妊婦の看護	母子看護に関する主な組織と法律		
			妊娠・出産に関する法律と施策	母性看護に関する施策		
			妊婦健康診査に必要な看護技術	女性生殖器系の構造と機能		
			2年後期	母性看護学援助論 II (1単位 30時間)	産婦の看護	性と生殖の機能のメカニズム
					褥婦の看護	家族のライフサイクルと家族
					新生児の看護	母性の発達・成熟・継承
					新生児期の母性看護技術	思春期
母性看護過程の特徴と援助の方向性	成熟期					
2年後期	母性看護学援助論 III (1単位 15時間)	母性看護過程の特徴と援助の方向性	更年期・老年期			
		妊産褥婦と早期新生児の看護過程の展開	リプロダクティブヘルスケアとは			
			家族計画			
			性感染症とその予防			
			HIVに感染した女性に対する看護			
		人工妊娠中絶と看護				
		喫煙女性の健康と看護				
		性暴力を受けた女性に対する看護				
		児童虐待と看護				
		国際化社会と看護				
		妊娠の成り立ち				
		妊娠経過に伴う母体の身体的特性				
		胎児の発育成長と健康状態				
		妊婦の心理的・社会的特性				
		母親・父親役割獲得過程				
		妊婦と胎児の健康状態のアセスメントと看護				
		妊婦と家族の看護				
		ハイリスク妊婦に必要な看護				
		正常な妊娠の逸脱に伴う妊婦の看護				
		母子保健法等と主な施策				
		勤労妊婦に関する主な法律				
		子宮底長計測、腹囲計測、レオポルド触診法				
		胎児心音聴取、妊婦の観察				
		分娩のメカニズムと胎児の健康状態				
		正常に経過する産婦の看護				
		ハイリスク産婦の看護				
		産褥経過の診断				
		正常に経過する褥婦の健康状態のアセスメント				
		正常に経過する褥婦の看護				
		ハイリスク褥婦の看護				
		新生児の生理的特徴				
		出生直後の早期新生児の看護				
		早期新生児の看護				
		新生児(生後28日まで)の看護				
		新生児の健康診査、沐浴と衣服の着替え				
		抱き方、抱き上げ方と寝かせ方、ドライテクニック				
		母性看護過程の特徴と援助の方向性				
		正常に経過する妊産婦のアセスメント				
		正常に経過する褥婦の看護過程展開				
		正常に経過する早期新生児の看護過程展開				

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
母性看護学概論	1	30	1年 後期	クラス別	小林 和子(看護師/助産師/保健師) 齋藤 麻木(看護師/助産師)

科目目的

1. 母性看護の主な概念と母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護の対象を学ぶ。
2. 女性のライフステージ各期の看護とリプロダクティブヘルスケアの主な健康課題を学ぶ。

科目目標

1. 母性看護の概念が理解できる。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を学び、主な法律関係と施策を理解できる。
3. 母性看護の対象を理解できる。
4. 女性のライフステージ各期の特徴とその健康課題が理解できる。
5. リプロダクティブヘルスケアと母性看護における健康課題について考えることができる。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
8	母性看護の主な概念 (小林)	1. 母性とは(母性、父性、親性) 2. 母子関係と家族発達 3. セクシュアリティ、性の多様性 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 5. 母性看護のあり方 6. 看護における倫理	講 義
4	母性看護の対象を取り巻く 社会の変遷と現状 (齋藤)	1. 母性看護の歴史の変遷 2. 日本の母子保健統計の動向 3. 母子保健に関する主な組織と法律 4. 母子保健に関する施策	講 義
6	母性看護の対象理解 (小林)	1. 女性生殖器系の構造と機能 2. 性と生殖機能のメカニズム(性周期等) 3. 家族のライフサイクルと家族 4. 母性の発達・成熟・継承	講 義
4	女性のライフステージ 各期の健康課題と看護 (齋藤)	1. 思春期 2. 成熟期 3. 更年期・老年期	講 義
8	リプロダクティブヘルスケア (小林)	1. リプロダクティブヘルスケアとは 2. 家族計画 3. 性感染症とその予防 3. HIVに感染した女性に対する看護 4. 人工妊娠中絶と看護 5. 喫煙女性の健康と看護 6. 性暴力を受けた女性に対する看護 7. 児童虐待と看護 8. 国際化社会と看護	講 義 グループワーク
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 母性看護学概論 医学書院 母性看護学各論 医学書院

参考文献: 国民衛生の動向 その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ: 母性看護学の導入となる科目です。対象と看護の役割をしっかりと学習しましょう。

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
母性看護学援助論 I	1	30	2年 前期	クラス別	齊藤 麻木 実務経験あり(看護師/助産師) (演習: 齋藤、島、小林、工藤)

科目目的

妊娠期の正常な経過及び胎児の発育経過を学び、妊婦とその家族に必要な看護が実践できる能力を養う。

科目目標

1. 妊娠期の身体的、心理的、社会的特性を学び、正常に経過する妊婦の看護を理解する。
2. 正常に経過する胎児の発育と成長を理解する。
3. 妊婦の健康診査に必要な看護技術を学び、体験をとおして理解ができる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	妊娠に伴う母体の身体的特性(齋藤)	1. 妊娠の成り立ち 2. 妊娠経過に伴う母体の身体的特性	講 義
8	胎児の発育成長と妊婦の特性(齋藤)	1. 胎児の発育成長と健康状態 2. 妊婦の心理的・社会的特性 3. 母親・父親役割獲得過程	講 義
10	正常に経過する妊婦の看護(齋藤)	1. 妊婦と胎児の健康状態のアセスメントと看護 1) 妊娠初期 2) 妊娠中期 3) 妊娠後期 2. 妊婦と家族の看護	講 義 グループワーク
2	ハイリスク妊婦の看護(齋藤)	1. ハイリスク妊娠とは 2. ハイリスク妊婦に必要な看護 3. 正常な妊娠からの逸脱に伴う妊婦の看護 1) 切迫流早産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 妊娠貧血	講 義
4	妊娠・出産に関する法律と施策(齋藤)	1. 母子保健法等と主な施策 2. 勤労妊婦に関する主な法律	講 義
4	妊婦健康診査に必要な看護技術(齋藤、島、小林、工藤)	1. 子宮底長の計測と腹囲の計測 2. レオポルド触診法 3. 胎児心音聴取 4. 妊婦の観察(視診、触診等による全身観察)	講 義 演 習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 母性看護学各論 医学書院

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 事前学習をして授業や学内演習に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
母性看護学援助論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	齊藤 麻木 実務経験あり(看護師/助産師) (演習：齋藤、島、小林、工藤)

科目目的

分娩期及び産褥期の正常な経過及び新生児の正常な成長発達を学び、産褥婦と新生児とその家族に必要な看護が実践できる能力を養う。

科目目標

1. 産婦の身体的、心理的特性を学び、正常に経過する産婦の看護を理解する。
2. 褥婦の身体的、心理的、社会的特性を学び、正常に経過する褥婦の看護を理解する。
4. 正常に経過する早期新生児の看護を理解する。
5. 新生児の健康診査及び沐浴の技術を学び、沐浴ができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	産婦の看護 (齋藤)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩のメカニズムと胎児の健康状態 2. 正常に経過する産婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩開始時と入院時健康診査 2) 分娩第1期の看護 3) 分娩第2期の看護 4) 分娩第3期の看護 5) 分娩第4期の看護 3. ハイリスク産婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 微弱陣痛、過強陣痛、分娩遷延 早産 等 	講義
12	褥婦の看護 (齋藤)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥経過の診断(退行性変化と進行性変化 等) 2. 正常に経過する褥婦の健康状態のアセスメント 3. 正常に経過する褥婦の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常生活の援助 2) 復古現象促進の援助 3) 母乳栄養確立のための援助 4) 退院に向けての保健指導 4. ハイリスク褥婦の看護(マタニティブルー、産後うつ等) 	講義
6	新生児の看護 (齋藤)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理的特徴 2. 出生直後の早期新生児の看護 3. 早期新生児の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の原則 2) 保育環境 3) 日常の看護(清潔、着替え、オムツ交換、授乳、排気) 4) 母親への保健指導 4. 新生児(生後28日まで)の看護 	講義 (デモンストレーションを含む)
4	新生児に必要な看護技術(齋藤、島、小林、工藤)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の健康診査(デモンストレーション) 2. 沐浴と衣服の着替え 3. 授乳時の抱き方、ベッドからの抱き上げ方と寝かせ方 4. ドライテクニック(デモンストレーション) 	演習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 母性看護学各論 医学書院

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 事前学習をして授業や学内演習に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
母性看護学援助論Ⅲ	1	15	2年 後期	クラス別	小林 和子 実務経験あり(看護師/助産師/保健師) (グループワーク：小林、島、工藤)

科目目的

正常に経過する褥婦と早期新生児の看護過程展開が実践できる能力を養う。

科目目標

1. 正常に経過する褥婦と早期新生児の看護の特徴をとらえ、事例からセルフケア能力に視点をおいた看護過程を展開することができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	方法
2	母性看護過程の特徴と援助の方向性	1. 母性看護過程の特徴と援助の方向性 2. 正常に経過する妊産婦のアセスメント	講義
13	妊産褥婦と早期新生児の看護過程の展開	1. 正常に経過する初産褥婦の看護過程展開 1) 情報収集、アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 実施・評価 2. 正常に経過する早期新生児の看護過程展開 1) 情報収集、アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画の立案	講義 個人ワーク グループワーク

評価方法：レポート

教科書：母性看護学概論 医学書院
母性看護学各論 医学書院

参考文献：その都度配布・紹介します。グループ学習がありますので事前学習をして臨みましょう。

精神看護学

精神看護学 (4単位 105時間)

精神看護学	精神看護学概論 I (1単位 15時間)	こころの構造と人格の形成	フロイト構造論・対象関係論・愛着理論 成熟した心理とは(こころの健康) 自我防衛機制 こころの健康を脅かすもの
		認知から発生する感情と 脳の関係	感情と脳内の神経伝達物質 ストレスと感情 自我防衛機制
		精神障害を取り巻く環境	当事者と家族との関わり
	精神看護学概論 II (1単位30時間)	精神障害の歴史	精神障害と治療の歴史 日本における社会問題 文化・社会問題
		差別とスティグマ	根底となる課題(事件) 昔の差別と現代の差別の違いから
		法律と制度の変遷	社会的な変化と法律・制度を中心 精神障害と法制度(精神保健福祉)
		精神科領域での法律と制度	権利擁護に関する法律と制度 医療を受けるための法律と制度 生活を支えるための法律と制度 情報のための法律と制度 個人の課題に対応した法律
		主要な精神保健福祉対策	自殺・うつ対策 薬物・アルコール依存症対策 認知症対策 てんかん対策
		生活を支えるための社会資源と サービス	長期入院患者の地域移行への支 地域で生活するための原則 相談支援 医療に関わるサービス 生活をささえるサービス 居宅サービス 就労支援サービス
		精神看護学援助論 I (1単位30時間)	精神障害の回復プロセスと 診断方法
	精神疾患の病態生理		統合失調症 気分障害 ストレス関連障害 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群 パーソナリティ障害 器質性精神障害 精神作用物質使用による精神・行動障害 神経発達障害群 秩序破壊的・衝動制御・素行障害 心身症
	治療方法		薬物療法 電気けいれん療法 精神療法 集団療法 家族療法 環境療法・社会療法
	検査方法		知能検査の方法と目的 人格検査の方法と目的
	精神看護学援助論 II (1単位 30時間)	治療に関する看護	入院生活への援助
		症状に対する看護	日常から気をつけたい身体合併症 精神科における身体のケア 睡眠のケア グループアプローチ 主な精神疾患の看護
精神障害予防と保健活動		精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える 地域で暮らすための原則 リエゾンと精神専門看護師の目的と役割	
精神看護師のレジリエンスを 高める		患者-看護師関係における感情体験 看護師の不安と感情 看護師のレジリエンスを高める	
	精神に障害のある対象の看護 過程	成人期の統合失調症患者の看護過程	

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
精神看護学概論 I	1	15	1年 後期	合同 クラス別	千葉 弘恵 実務経験あり(看護師)

科目目的

精神の健康とはなにか学習する。
 精神の健康と障害とはどのようなことであるか学習する。
 精神障害を持つ人々の課題と取り巻く環境の課題を考える。

科目目標

精神の健康とはなにか理解できる。
 精神の健康と障害とはどのようなことであるか理解できる。
 精神障害を持つ人々の課題と取り巻く環境の課題を理解することで社会の構造がイメージできる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	心の構造と人格の形成	1. 脳の正常な発達と機能 2. 感情と神経伝達物質 3. 人格の形成 (1) フロイトの局所論と構造論 (2) 対象関係論 (3) 愛着理論 (4) 自己心理学と甘えの構造 4. 精神の健康と成熟した大人とは (1) 中井久夫の精神健康 (2) トランスパーソナル心理学から	講義
4	認知から発生する感情と脳との関係	1. 人間の心の活動 (1) 意識と認知機能 (2) 感情 2. 自我防衛規制 3. 脳内神経伝達物質と感情 4. 神経障害とストレス (1) ストレスが身体や精神に及ぼす影響 (2) ストレス脆弱性モデル	講義
5	精神障害とそれを取り巻く環境	1. 家族の多様性 2. 家族の発達段階 3. 家族内のコミュニケーション 4. 家族関係を構造的に見る (1) 円環的な見方 (2) 親密な関係と境界線の曖昧さ (3) 自己分化度と三角関係化 5. 地域における精神保健と精神看護 (1) 精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える (2) 地域で暮らすための原則	講義
1	単位習得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院

参考文献 : 適宜紹介します

学生のみなさんへ : 健康な心の発達を知ることから始めましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
精神看護学概論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	栗内 崇 実務経験あり (精神保健福祉士/認定心理士/社会福祉士)

科目目的

精神保健の歴史から精神保健福祉の概要と変遷を学び、現在の社会の構造を学ぶ。

科目目標

1. 精神保健の概念について理解する。
2. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と施策について理解する。
3. 精神保健の動向について学び、現状の問題や課題について理解する。
4. 精神保健活動と看護の役割を考える。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	精神障害の歴史	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医療 3. 文化・社会問題	講義
2	差別・スティグマ	1. 根底となる課題（事件）より 2. 昔の差別と現代の差別の違いから	講義
4	法律と制度の変遷	1. 社会的な変化と法律・制度を中心に 2. 精神障害と法制度（精神保健福祉法等）	講義
4	精神科領域での法律と制度	1. 権利擁護に関する法律と制度 2. 医療を受けるための法律と制度 3. 生活を支えるための法律と制度 4. 情報のための法律と制度 5. 個人の課題に対応した法律	講義
8	主要な精神保健福祉対策	1. 自殺・うつ病対策 2. 薬物・アルコール依存症対策 3. 認知症対策 4. てんかん対策	講義
8	生活を支えるための社会資源とサービス	1. 長期入院患者の地域移行への支援 2. 地域で生活するための原則 3. 相談支援 4. 医療に関わるサービス 5. 生活を支えるサービス 6. 居宅サービス 7. 就労支援サービス	講義
1	単位習得認定試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開 医学書院

参考文献：適宜紹介します

学生のみなさんへ：大変古い歴史的な事件からもわかるように精神障害は、人々にとって「理解できない現象」であったと思います。そのためにたくさんの誤解を受け痛ましい事件も起こりました。そのような過去の出来事から現在の法律や制度、現在の課題を明らかにしこれからの看護に活かせるようにしましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
精神看護学援助論 I	1	30	2年 後期	クラス別 合同	嶋岡修平(医師) 北村一紘(医師) 吉田隼輔(医師) 石橋幹之介(医師) 鈴木ゆき(臨床心理士/公認心理士)

科目目的

精神障害の特徴と検査や治療方法について学ぶ。

科目目標

1. 脳の解剖学的理解、神経伝達物質やストレスと関連し、疾患の成り立ちを理解する。
2. 1の解剖学的理解と治療方法の関連について理解できる。
3. 主な臨床検査の種類とその方法や目的について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	精神障害の回復プロセスと診断方法	1. 精神症状論と状態像 (1) 精神障害のなりたちと回復過程 (2) 様々な精神症状と診断 2. 精神障害の診断と分類 (1) D M S・I C Dの分類 (2) 医学モデル・社会モデル	講義
8	精神障害の病態生理	1. 統合失調症 2. 気分障害 3. 神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害 4. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 5. 器質性精神障害 6. 精神作用物質による行動障害 7. てんかん 8. 神経発達障害 9. 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群	講義
8	治療方法	1. 薬物療法 2. 電気けいれん療法 3. 精神療法 4. 家族療法 5. 環境療法・社会療法	講義
5	検査法	1. 知能検査の方法と目的 (1) ウェクスラー式知能検査 (2) 田中-ビネー知能検査 2. 人格検査の方法と目的 (1) ロールシャッハテスト (2) P-F スタディ (3) MMPI (4) Y G 性格検査 (5) MMSE-J (6) SDS うつ性自己評価尺度	講義
1	単位習得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院

参考文献 : 適宜紹介します。

学生のみなさんへ : 精神症状・状態像から精神疾患を理解し、その検査方法や治療を学びます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
精神看護学援助論Ⅱ	1	30	2年 後期	合同 クラス別	齋藤伸 実務経験あり(看護師) 千葉弘恵 実務経験あり(看護師)

科目目的

精神障害を持つ対象の生活や症状からその対象にあった援助の方法を学ぶ。

看護師として対象者を守ることと自分を守ることの重要性を学ぶ。

科目目標

1. 対象者一看護師関係の意義、発展させるための方法を理解する。
2. 対象の特徴を知り、様々な状況における看護の展開と援助技術について理解する。
3. 精神障害をもつ対象の社会的におかれている状況から、その課題や援助方法について理解できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	治療に関する看護	1. 入院生活への援助 (1) 入院の目的 (2) 回復を助けるということ (3) 入院時のアセスメントとは 2. 薬物療法に関する援助 (1) 投薬・自己管理 (2) 副作用に対する観察と予防 副作用とは 3. 電気けいれん療法 (1) 治療の手順と観察 (2) 注意すべきこと (3) 倫理的課題 4. リスクマネジメント (1) 身体拘束 身体拘束の目的と倫理性および法律 身体拘束の例外 観察 (2) 行動制限・隔離 行動制限の目的と方法 行動制限の倫理性と法律 (3) 緊急時の対処 自殺 暴力 無断離院 (4) 院内を中心とした災害時のケア	講義
4	症状に対する看護	1. 日常から気をつけたい身体合併症 2. 精神科における身体のケアの実際 3. 睡眠のケア 4. グループアプローチ 5. 主な精神疾患の看護	講義

		<ul style="list-style-type: none"> (1) アルツハイマー病 (2) 血管性認知症 (3) アルコール依存症・薬物依存症 (4) てんかん (5) 統合失調症 (6) 気分障害 (7) 心因性精神病と神経症 (8) パーソナリティー障害 	
4	精神障害予防と保健活動	<ul style="list-style-type: none"> 1. 精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支える 2. 地域で暮らすための原則 3. リエゾンと精神看護専門看護師の目的と役割 	講義 DVD 視聴
4	精神看護師のレジリエンスを高める	<ul style="list-style-type: none"> 1. 患者-看護師関係における感情体験 <ul style="list-style-type: none"> (1) 対処の難しい場面 (2) チームスピリットィング (3) 意識のズレ 2. 看護師の不安と感情ワーク 3. 看護師のレジリエンスを高める 	講義 DVD (バーチャル ハルシネーシ ョン)
14	精神に障害のある対象の看護過程	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成人期の統合失調症患者の看護過程を考える (緊張型・医療保護入院・隔離室使用) <ul style="list-style-type: none"> (1) 面接 (情報収集の方法) ケアの原則 ケアの方法 (2) 観察 (アセスメント) (3) ヒストリーを読む (4) プロセスレコードの目的と活用 (5) 看護過程 (6) 看護計画の実践 (ロールプレイ) 	講義 GW ロールプレ イ
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験、レポート、グループワークの参加状況

教科書 : 系統看護学講座 精神看護学 (1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 精神看護学 (2) 精神看護の展開 医学書院

参考文献 : 適宜紹介します。

学生の皆さんへ : 精神障害を持つ対象を理解することによって自分の考え方の傾向を知りましょう。
自分を認め、なぜそうなるのかを内省してゆきましょう。

看護の

統合と実践

看護の統合と実践 (4単位 120時間)

看護の統合と実践

看護管理
(1単位30単位)

- 看護管理の概要
- 看護ケアのマネージメント
- 看護職のキャリアマネージメント
- 看護サービスマネージメント
- マネージメントに必要な理論
- 看護専門職として共有する価値

医療安全
(1単位30時間)

- 医療安全を学ぶことの意義
- 事故防止の考え方
- 療養上の世話の事故防止
- 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因
- 医療安全とコミュニケーション
- 看護師の労務安全衛生上の事故防止
- 組織的な安全管理体制への取り組み
- 医療安全対策の国内外の潮流
- 職業感染予防の実際

災害看護と国際看護
(1単位30時間)

- 看護とグローバル化した社会
- 求められる災害看護と国際看護
- 災害看護学
- 地震災害看護の展開
- 国際看護

看護統合演習
(1単位30時間)

- 演習オリエンテーション
- 看護の展開1(個人・GW)
- 看護の展開2(個人・GW)
- プレゼンテーションの準備(GW)
- プレゼンテーションの実施と参加

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
看護管理	1	30	3年前・後期	クラス別	根本 香 実務経験あり(看護師)

科目目的

看護管理に必要な基礎知識と方法を学ぶ。

科目目標

1. 看護管理の概要について理解できる。
2. 看護ケアのマネジメントについて理解できる。
3. 看護職のキャリア形成とマネジメントについて理解できる。
4. 組織としてのマネジメントについて理解できる
5. マネジメントに必要な基礎的な理論を理解する。
6. 看護専門職として共有する価値について理解する。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	看護管理の概要	1. 看護管理とは 2. 看護におけるマネジメント 3. 「看護覚書」における管理とは	講 義
6	看護ケアのマネジメント	1. 看護を提供する看護ケアのマネジメント 2. 患者の権利の尊重 3. 安全管理 4. チーム医療と連携 5. 日常業務のマネジメント	講 義
2	看護職のキャリアマネジメント	1. 看護職のキャリア形成 2. タイムマネジメント 3. ストレスマネジメント	講 義
8	看護サービスのマネジメント	1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 看護サービス提供のしくみ 3. 人材のマネジメント 4. 施設・設備環境、物品、情報のマネジメント 5. 組織におけるリスクマネジメント 6. 業務領域を超えて発生する多重課題と防止	講 義
6	マネジメントに必要な理論	1. マネジメントプロセスとサイクル 2. 組織とマネジメント 3. リーダーシップとマネジメント 4. 組織の調整と組織文化 5. コミュニケーション 6. 動機づけ等	講 義
4	看護専門職として共有する価値	1. 看護を提供する際に求められるべき価値・義務について 2. 看護の責任を果たすために求められる努力について 3. 土台としての個人的徳と組織的取組について	演 習 「看護職の倫理綱領」の抄読
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 「統合分野 看護管理 看護の統合と実践 I」医学書院
「看護職の倫理綱領」日本看護協会

参考文献 : 「看護覚え書」・必要時、資料を配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
医療安全	1	30	3年 後期	クラス別	実務経験あり 吉田 尚子 (看護師) 小池ひとみ (看護師/認定看護師)

科目目的

医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、間違いや不適切行為が、患者にどれほど重大な結果をもたらすのかを理解する。

科目目標

1. 医療看護におけるリスクマネジメントについて理解する。
2. 看護職の責任と法的責任について理解する。
3. 看護・医療事故予防と看護実践について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全を学ぶことの意義	1. 人は何故間違いをおかすのか 2. 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 3. 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 4. 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	
2	事故防止の考え方	1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 3. 看護事故防止の考え方	講義
6	診療の補助の事故防止	1. 患者に投与する業務における事故防止 1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器での事故防止 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服与薬業務と事故防止 6) 経管栄養(注入)業務と事故防止 2. 継続中に危険な医療行為の観察・管理における事故防止 1) チューブ管理と事故防止	講義
4	療養上の世話の事故防止	1. 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 1) 転倒・転落事故防止 2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3) 異食事故防止 4) 入浴中の事故防止	講義
2	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域を超えて共通する患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全とコミュニケーション	1. 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2. 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4. 自己の未然防止上重要なコミュニケーション	講義
4	看護師の労務安全衛生上の事故防止	1. 職業感染 2. 抗がん剤の暴露防止 3. 放射線被爆 4. ラテックスアレルギー 5. 院内暴力	講義
1	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての医療安全対策 2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チーム及び組織	講義
1	医療安全対策の国内外の潮流	1. 我が国の医療安全対策の潮流 2. 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3. 産業界から学ぶヒューマンファクターズの取入れ	講義
6 (小池)	職業感染予防の実際	1. 感染防止技術 1) 感染の3要素 2) 感染成立の輪 3) 3つの感染経路 4) 医療関連感染対策の基本「基本の木」 ①手指衛生(手洗い、手指消毒) ②个人防护具(PPE)の選択と着脱方法とタイミング 2. 職業感染 感染経路とその予防策 1) 接触感染 ①血液・体液 ②排泄物 ③ウイルス・細菌 ④ダニ 2) 飛沫感染 ①インフルエンザ ②コロナウイルス 3) 空気感染 ①結核 ②麻疹・水痘	講義 演習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院
看護が見える1・2 MEDIC MEDIA

参考文献 : 必要時、資料を配布します。

学生のみなさんへ : 日常の実習で遭遇するまた、引き起こしやすい事故事例を皆さんとディスカッションしながら進めます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
災害看護と国際看護	1	30	3年 後期	クラス別	島津世子 (看護師) (28) ゲストスピーカー (2)

科目目的

災害が暮らしと密着に関係しながら、人の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。また、災害時における看護の役割を果たすために必要な知識と看護活動について学ぶ。

グローバル化の中に生きる現代の看護職者として国際看護を学ぶ意義を理解する。

科目目標

1. 災害及び災害看護に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の社会の仕組みと対応について理解する。
3. 災害が人々の生命に及ぼす影響を理解する。
4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。
5. 世界の国々に関心を持ち、国際協力開発を進めることが、地球全体の減災につながることを理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	看護とグローバル化した社会	1. グローバル化の影響 2. 看護職者に求められるグローバルな視点	講義
4	求められる災害看護と国際看護	1. 災害看護と国際看護を学ぶ意義 1) 災害被害の国際化 2) 近年の国内外の災害 3) 災害看護の役割 4) 国際的な広がりをもつ災害看護 2. 災害看護・国際看護の原則 1) 看護行為の判断の基盤になるもの 2) 人道支援の起源と思想 3) 人道支援の原則	講義
6	災害看護	1. 災害看護の歩み 2. 災害医療の基礎知識 3. 災害看護の基礎知識 4. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 5. 被災者特性に応じた災害看護の展開 6. 災害とこころのケア	講義
12	地震災害看護の展開	1. 発災直後から出動までの看護 2. 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 1) 超急性期・急性期の医療のニーズ 2) 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 ①トリアージ ②治療(観察と応急処置) ③搬送 3. 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践 1) 災害時の医療と看護実践 2) 災害時の地域保健と看護実践 4. 亜急性期の災害保健医療と看護実践 1) 亜急性期の医療ニーズ 2) 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践 4. 慢性期の災害保健医療と看護実践 1) 慢性期の医療・福祉ニーズ 2) 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践	講義 DVD

	単 元	学 習 内 容	学習方法
		5. 静穏期の災害保健医療と看護実践 1) 静穏期の災害保健医療と看護実践 2) 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践 6. 要配慮者への看護 1) 要配慮者の救護 2) 子供への看護 3) 妊産婦への看護 4) 高齢者への看護 5) 障害者への看護 6) 継続治療の必要な人・医療依存度の高い人への看護 7) 在日外国人への看護 7. 災害時のメンタルヘルス 1) 被災者のメンタルヘルス 2) 遺族のメンタルヘルス 3) 支援者のメンタルヘルス 4) 被災地支援者のメンタルヘルス 8. 災害医療に関連した特殊な医療・看護実践 1) 瓦礫の下の医療 2) シーバーンへの対応 9. 災害時特有の疾病 1) 圧挫症候群 2) 深部静脈血栓症、肺動脈血栓塞栓症 3) 四肢外傷 4) 熱傷 5) 津波肺 6) たこつぼ心筋症 7) 爆傷 10. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 2) 国際貢献	
4	国際看護	1. 国際看護とは 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバルヘルス 3) 国際協力のしくみ 4) 文化を考慮した看護 5) 国際看護活動の展開過程 6) 開発協力と看護 7) 国際救助と看護 8) 21世紀の国際協力の課題	講 義
2	国際協力の実際	開発途上国における国際救援活動の実際	講 話
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践【3】災害看護学・国際看護学

医学書院

参考文献 : 必要時、資料を配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護統合演習	1	30	3年 後期	クラス別	吉野 悦子 実務経験あり(看護師)

科目目的

1. 紙面事例に応じた看護実践ができる
2. グループメンバー全員による参加型実践とする

科目目標

1. 2事例の紙面事例に対して看護計画立案ができる
2. 看護計画に基づいた看護(安全、安楽、自立を促す援助)が実践できる
3. 他のメンバーに対して、紙面事例の看護過程の展開(実施を含め)を講義形式でプレゼンテーションし、質疑に答える

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	オリエンテーション	1. 目的、目標 2. 展開 3. 方法 4. 評価 5. グループメンバー発表	全体講義
8	看護の展開 (紙面事例1)	1. 1) 疾患の理解 2) 情報のアセスメント 3) 関連図作成と看護計画の立案 2. 1) 情報のアセスメント 2) 関連図の作成と看護計画の立案 3) 一場面の実施	個人ワーク グループワーク グループ(実技練習)
8	看護の展開 (紙面事例2)	1. 1) 疾患の理解 2) 情報のアセスメント 3) 関連図作成と看護計画の立案 2. 1) 情報のアセスメント 2) 関連図の作成と看護計画の立案 3) 一場面の実施	個人ワーク グループワーク グループ(実技練習)
6	プレゼンテーション	1. 担当事例のプレゼンテーション準備 1) 看護計画の修正 2) 実技練習 3) プレゼンテーション計画書作成 4) プレゼンテーション配布資料作成	グループワーク
6	プレゼンテーション の実施と参加	1. プレゼンテーションの実施 2. 他メンバーのプレゼンテーションの参加	演習

評価方法 : 個人ワーク 看護の展開 20点(事例各10点)
 GWワーク 看護の展開 20点(事例各10点)
 プレゼン資料 20点
 プレゼンの実施 40点(講義20点、実技20点)

教科書 : 各看護学で学習した看護技術の教科書全般

参考文献 : 必要時、資料を配布

領域横断科目

領域横断科目 (4単位 120時間)

領域横断科目

人間発達論
(1単位 30時間)

- 小児期の成長・発達
- 成人期の成長・発達
- 老年期の成長・発達

- 成長と発達
 - 小児期の成長発達の区分
 - 各期の成長・発達
 - 新生児期、乳児期、幼児・学童期、思春期
- 成人期にある人の理解
 - 成人期の成長・発達の特徴
 - 成人の学習の特徴と看護
- 老年期の特徴
 - 加齢と老化
 - 老年期の発達・成長
 - 加齢に伴う変化とアセスメント

周術期看護
(1単位 30時間)

- 侵襲的治療と看護
- 手術を受ける子ども
- 手術を受ける高齢者

- 集中治療下における患者の看護
- 周術期における患者の看護
 - 外科的治療の実際
 - 周手術期の看護の概要
 - 手術前・手術中・手術後の看護
 - 侵襲的治療を受ける患者の看護
 - 健康の急激な破綻
 - 侵襲的治療と看護
 - 低侵襲的治療と看護
- 手術を受ける子ども
 - 手術を受ける子どもと家族に反応
 - 術前・術中・術後急性期・回復期の看護
 - 扁桃腺摘出術を受ける幼児と母親の看護
- 手術を受ける高齢者
 - 外科的治療をうける高齢者への看護
 - 術前の看護
 - 検査・処置・薬物療法(休薬と術前処方)
 - 術中の看護
 - 術後の看護
 - 全身症状・基礎疾患の悪化の予防と早期発見
 - 術後合併症の予防と早期発見
 - 肺炎、イレウス、縫合不全、廃用症候群、せん妄など
 - 行動拡大(リハビリテーション)
 - 回復期の看護
 - 家族への指導

セルフマネジメント
を支える看護
(1単位 30時間)

- 小児期
- 成人期
- 老年期

- 生活習慣病の子どもと家族の看護
- 肥満といじめによる不登校児の子どもと母親の看護
- 健康観の多様性と看護
 - 主要な健康観
 - 健康観に影響を及ぼす影響
 - 健康観を理解する方法
 - 保健行動と健康観
- 回復期にある患者の看護
 - 患者とその家族の特性
 - 看護の目標
 - リハビリテーションを必要とする患者の看護
- 慢性期にある患者の看護
 - 患者とその家族の特性
 - 看護の目標
 - 生涯コントロールを必要とする患者の看護
- 老年期とヘルスプロモーション
 - 老年期のヘルスプロモーション
 - 介護とヘルスプロモーション
 - 保健医療福祉施設及び住居施設における看護
 - 社会参加

がん看護
(1単位 30時間)

- 小児期
- 成人期
- 老年期

- がん疾患の子どもと家族の看護
- 終末期にある子どもと家族の看護
 - 終末期の特徴
 - 子どもの生命・死のとらえ方
 - 子どもをなくした家族の看護
 - 急性リンパ性白血病 (事例)
- 治療を受ける患者の看護
 - 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護
 - 治療の継続と就労
- 終末期にある患者の看護
 - 成人の死
 - 終末期医療の現状と課題
 - 終末期療養の場と見取りの場
 - 終末期における概念
 - 終末期にある人とその家族の特性
 - 終末期におけるチーム医療と看護師の役割
 - 意思決定
 - 学生の心構えについて
- 終末期における高齢者の理解
- エンドオブライフケアの概念
- 死生観
- 意思決定の支援
- 終末期における高齢者、家族への看護

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
人間発達論	1	30	1年 前期	クラス別	千葉 祐子 (看護師) 岡田 千佐子(看護師) 船橋 久美子(看護師)

科目目的

各期にある対象の特徴を学び、看護の役割を果たすために必要な基礎知識を理解する。

科目目標

1. ライフサイクルからみた小児期、成人期、老年期の特徴を理解する。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
6	新生児期の子ども (岡田)	1. 成長と発達 2. 小児期の発達段階の区分 3. 新生児期の成長・発達 1) 形態的特徴 ①出生時の成熟度：デュボヴィッツ評価法 ②出生直後の発育：在胎期間別出生時体格標準曲線 2) 身体生理の特徴 ①呼吸 ②循環 ③体温 ④消化器 ⑤体液の生理 ⑥黄疸 ⑦血液 ⑧免疫 ⑨神経系 3) 感覚機能・運動機能・知的機能の発達 4. 新生児の養育 1) 日常生活の世話 2) 事故防止 3) 感染防止 4) 家族関係の調整 5) 愛着形成	講義
	乳児期の子ども (岡田)	1. 乳児の成長・発達 1) 形態的特徴 2) 身体生理の特徴 3) 感覚機能・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能の発達 2. 乳児の養育 1) 日常生活の世話 2) 遊びの支援 3) 事故防止 4) 乳幼児突然死症候群とその予防 5) 育児支援	講義
	幼児期の子ども (岡田)	1. 幼児の成長・発達 1) 形態的特徴 身体生理の特徴 2) 感覚機能・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能の発達 2. 幼児の養育 1) 日常生活の自立と世話 2) 遊びと運動の支援 3) 事故防止 4) 生活習慣の改善 5) 育児支援	講 義
4	学童期の子ども (岡田)	1. 学童の成長・発達 1) 形態的特徴と発育の評価（ローレル指数） 2) 身体生理の特徴 3) 感覚運動機能・知的情緒機能・社会的機能 4) 不適応行動・症状 5) 学童を取り巻く諸環境 2. 学童の養育 1) 学校生活への適応 2) 食生活 3) 学習と遊び 4) 生活習慣病の予防 5) 疾病予防 6) 安全教育・事故防止 7) 性教育	講義
時 間	単 元	学 習 内 容	講 義

	思春期の子ども (岡田)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 形態的特徴 2. 身体生理の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) ホルモン分泌 2) 第二性徴の進行 <ol style="list-style-type: none"> ①精通と初経 ②骨年齢 ③骨塩量 3. 知的・情緒(心理)的・社会的機能 4. 生活の特徴 5. 心理・社会的適応に関する問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自殺 2) いじめ 3) 不登校 4) 引きこもり 5) 家庭内暴力 6. 飲酒・喫煙 7. 性に関する健康問題 8. 反社会的・逸脱行動 9. 事故・外傷 10. 思春期の養育 <ol style="list-style-type: none"> 1) こころの発達への援助 2) 第二性徴に関する援助 3) 思春期の健康教育 4) 生活習慣病予防 5) 日常生活における衛生、健康教育 6) 性教育 7) 安全教育 8) 親へのアドバイス 	講義
2	成人期にある人の理解 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の定義 人間の成長発達と成人期 GW:「大人」とは 2. 成人の特徴の概要 	講義 GW
8	成人期の成長発達の特徴 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の成長発達と成人の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) エリクソン 2) ハビガースト 3) レビンソン レポート:『私の発達課題』	講義 GW レポート
2	成人の学習の特徴と看護 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大人の学びの特徴 2. 成人教育学の概念(アンドラゴジーモデル) 3. 大人の学びの目標(エンパワメントモデル) 	講義
2	老年期の理解 (船橋)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢と老化 2. 老年期の発達・成熟 4. 発達理論と発達課題 3. 高齢者におけるセクシュアリティ 	講義
6	加齢に伴う変化とアセスメント (船橋)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的側面の変化 2. 精神的側面の変化 3. 社会的側面の変化 4. 身体に加齢変化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚とその付属器 2) 感覚器系 3) 循環器系 4) 呼吸器系 5) 消化器系 6) 内分泌系 7) 泌尿器・生殖器系 8) 運動器系 	講義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 小児看護学概論・小児臨床看護総論、医学書院、小児臨床看護各論 医学書院
ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版
老年看護学 医学書院

参考文献 : その都度紹介します。

学生のみなさんへ :

領域横断科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
周術期看護	1	30	2年 前期	クラス別	千葉 祐子(看護師)畑江郁子(看護師) 山下 いずみ(看護師)

科目目的

生命の危機的状況および周術期にある対象と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ

科目目標

1. 集中治療を受ける患者および家族の特徴と看護について理解する
2. 侵襲的治療を受ける患者の特徴と看護を理解する
3. 手術療法を受ける患者および家族の特徴と看護を理解する

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	周術期にある患者の看護 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔を受ける患者の看護 2) 麻酔侵襲・手術侵襲と生体の反応 2. 周術期看護の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける患者の特徴と看護師の役割 2) 安全管理・感染予防 3. 全身麻酔下で手術を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術前患者のアセスメントと看護 2) 手術中患者のアセスメントと看護 3) 手術後患者のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> ①術後合併症 ②術後の回復を促進するための看護 ③セルフケアに向けた看護 	講義
2	侵襲的治療を受ける患者の看護 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の急激な破綻 2. 侵襲的治療と看護 3. 低侵襲的治療 (腰椎麻酔、カテーテル治療等) と看護 	講義
4	集中治療下における患者の看護 (千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集中治療が行われる場の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集中治療を受ける患者の特徴 2) ICU・HCU・CCU 3) 医療チーム 4) 安全管理 2. 集中治療を受ける患者の看護 3. 集中治療を受ける患者の家族に対する看護 	講義

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
6	周術期にある子どもと 家族への看護 (畑江)	1. 手術を受ける子どもの反応 2. 手術を受ける子どもの家族の反応 3. 扁桃腺摘出術を受ける幼児と母親の看護 1) 術前の看護 プレパレーション 2) 術中の看護 術式と麻酔の理解 3) 術後急性期の看護 ①全身状態の観察と看護 ②事故防止 ③術後合併症の予防 ④経口摂取の開始 ⑤創痛への看護 4) 術後回復期の看護 ①生活の拡大と安静 ②退院後の生活 晚期出血の予防・感染予防	講義 演習(事例)
2	周術期にある、検査を必 要とする高齢者への看護 (山下)	1. 検査を受ける高齢者の看護 1) 検査結果のアセスメント 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 3) 薬物療法における援助	講義
4	周術期にある 高齢者への看護 (山下)	1. 手術を受ける高齢者の看護 1) 術前の看護マネジメント 2) 術後の看護マネジメント (1) 廃用症候群のアセスメント 3) 早期発見、予防に向けた看護 2. リハビリを受ける高齢者の看護	講義
2	手術を必要とする 高齢者・家族への看護 (山下)	1. 手術治療を受ける高齢者への看護 1) 入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 2) 家族への配慮 3) 退院調整・退院支援	講義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院
 臨床看護総論 メヂカルフレンド社
 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児臨床看護各論 医学書院
 老年看護学 医学書院

参考文献 : その都度紹介します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり(看護師)
セルフマネジメントを支える看護	1	30	2年 前期	クラス別	千葉 祐子、畑江 郁子 中村 園美

科目目的

各期にある対象の持つ多様な健康課題を理解し、対象および家族に必要な看護を学ぶ。

科目目標

1. セルフマネジメントの基盤となる健康観について理解する。
2. 慢性期・回復期にある患者の特徴とセルフマネジメントに必要な看護を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	健康観の多様性と看護 (千葉)	1. 主要な健康観 2. 健康観に影響を及ぼす要因 3. 健康観を理解する方法 4. 保健行動と健康観	講義 レポート
6	回復期にある患者の看護 (千葉)	1. 回復期にある患者とその家族の特徴 2. 回復期における看護の目標 3. リハビリテーションを必要とする患者の看護 1) リハビリテーションの目的・意味 2) 障害受容の過程	講義
8	慢性期にある患者の看護 (千葉)	1. 慢性期にある対象者とその家族の特徴 2. 慢性期における看護の目標 3. 生涯コントロールを必要とする患者の看護 4. 対象者の支援のための理論 1) 行動変容ステージモデル・自己効力感 2) 病みの軌跡	講義
6	生活習慣病の子どもと家族の看護 (畑江)	1. 肥満といじめによる不登校児の子どもと母親の看護	演習
8	生活・療養の場における看護 (中村)	1. 高齢者とヘルスプロモーション 1) 介護予防とヘルスプロモーション 2. 保健医療福祉施設および居住施設における看護 1) 介護保険施設 2) 地域密着型サービス 3. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 1) レスパイトケアの提供	講義 GW
2	日常生活を支える活動 (中村)	1. 社会参加 1) 地域における高齢者の社会参加の意義 2) 社会参加活動促進に向けての支援	講義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 臨床看護総論 メヂカルフレンド社

小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

小児臨床看護各論 医学書院

老年看護学 医学書院

参考文献 : その都度紹介します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
がん看護	1	30	2年 後期	クラス別	上岡 晃(看護師) 吉田尚子(看護師) 畑江郁子(看護師) 北岡康平(看護師)

科目目的

がん患者および終末期にある対象と家族の特徴と必要な看護を理解する。

科目目標

1. がんを患った患者とその家族について理解する
2. がん治療の実際と、必要な看護を理解する
3. 終末期にある対象および家族に必要な看護を理解する

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	治療を受ける患者の看護 (吉田:化、北岡:放)	1. 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 2. 治療の継続と就労	認定看護師 からの講義
10	終末期にある 患者の看護 (上岡)	1. 成人と死 2. 終末期医療の現状と課題 1) 安楽死 2) 尊厳死 3. 終末期にある人の療養および看取りの場 4. 終末期における概念 5. 終末期にある人とその家族の特性 1) QOL 2) トータルペイン 3) 家族が直面する危機 6. 終末期におけるチーム医療と看護師の役割 7. 意思決定 1) リビング・ウィル 2) アドバンス・ディレクティブ 8. 学生の心構えについて	認定看護師 からの講義
8	がん疾患の子どもと 家族の看護 (畑江)	1. がん疾患の子どもと家族の看護 2. 終末期にある子どもと家族の看護 1) 終末期の特徴 2) 子どもの生命・死のとらえ方 3. 子どもをなくした家族の看護 事例：急性リンパ性白血病	講 義
6	終末期における高齢者の 看護 (上岡)	1. エンドオブライフケアの概念 1) エンドオブライフケアとは 2) 死生観、意思決定への支援 3) 末期段階に求められる援助 ①身体的変化とアセスメント ②緩和ケア ③家族への支援 ④グリーフケア	講 義 GW
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版
小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
小児臨床看護各論 医学書院
老年看護学、老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考文献 : その都度紹介します。

臨地実習

科 目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
基礎看護学実習 I	1	45	1年 前期	斉藤 恭子 実務経験あり(看護師)

科目目的 病院の概要及び対象者の療養環境を理解し、対象者にとって必要な日常生活援助を学ぶ。

科目目標

1. 病院の概要を知り、地域における病院の役割を理解できる。
2. 対象者が生活している療養環境の特徴を理解できる。
3. 対象者および対象者を取り巻く人々と、よい人間関係を形成するための努力ができる。
4. 安全・安楽・自立を目指して、対象者に必要な日常生活援助を実施できる。
5. 看護学生としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
基礎看護学実習 I 1. 病院内・病棟、各部門の見学 2. 病棟・病室の構造、設備、環境 3. 対象者とのコミュニケーションと関係形成 4. 対象者にとって安全・安楽な療養環境の調整 5. 対象者の安全・安楽に配慮した日常生活援助の実践 6. 感染予防行動 7. 看護学生として姿勢・態度	病院実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 基礎看護学で学習した教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	1年 後期	中村 恵子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害をもつ対象者を総合的に理解し、対象者に合わせて必要な看護を実践するための基礎となる知識・技術・態度を学ぶ。

科目目標

1. ヘンダーソンの看護理論に基づく看護過程を用いて、対象者に必要な日常生活の援助を実施できる。
2. 対象者及び対象者を取り巻く人々と、よい人間関係を形成しようと努力できる。
3. 看護学生としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. ヘンダーソンの看護理論に基づく看護過程の展開 1) 基本的欲求に影響を与える常在条件、病理的状态 2) 基本的欲求の充足状況についてのアセスメント 3) 看護問題の明確化 4) 看護計画の立案 5) 実施・評価 2. 対象者とのよい人間関係の形成 3. 看護学生としての姿勢・態度	病棟実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 基礎看護学で学習した教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
地域・在宅看護論実習	2	90	3年 前期	小宮山 政枝 実務経験あり(看護師)

科目目的

地域で暮らす人々、療養する人々とその家族の課題を生活の課題として理解し、その人々が地域や在宅で健康の維持・増進が図られるよう援助できる能力を養う。

科目目標

1. 地域で療養している人々とその家族の療養上の課題を理解できる。
2. 地域で療養している人々が在宅で健康の維持・増進を図り、在宅療養を継続するための看護の方法が理解できる。
3. 地域で生活する人々の健康と安全な暮らしを支援する多職種の役割・機能を理解し地域における看護の在り方を理解できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割と様々な職種の役割を理解し、他職種と協働することの必要性を理解できる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
【訪問看護実習】 1. 対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴 2. 生活上の課題の把握と看護技術の提供方法の実際 3. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護者の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 医療施設内看護と在宅看護の違い	訪問看護 実習
【ディケア実習】 1. 地域で施設を利用している人々とその家族のニーズ 2. 地域における保健・医療・福祉サービスの実際 3. 地域で人々の生活を支える職種間の相互連携 4. 地域における看護の役割	ディケア 実習
【その他】 1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習 I	2	90	2年 後期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 成人期にある対象者の発達段階、発達課題を理解できる。
3. 成人期にある対象者の健康障害について理解できる。
4. 成人期にある対象者の健康障害の改善・回復に必要な援助について理解し実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働の必要性を考えることができる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴、発達課題をふまえた対象者の理解 3. 対象者が患った疾病とその治療、検査と看護 4. 対象者におこなわれている看護援助の目的、方法、留意点 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 対象者におこなった看護援助の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 10. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	病棟実習
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習Ⅱ	2	90	2年 後期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 健康障害をもつ対象者に必要な看護を計画・実施・評価できる。
3. 成人期の特徴を踏まえ、経過別、治療・処置別、症状別看護を実践できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働の必要性を考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 対象者に必要な看護援助の具体化 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 実施した看護の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 慢性期・回復期の疾病の経過と特徴 2. 慢性期・回復期の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習Ⅲ	2	90	3年 前期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人各期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 健康障害をもつ対象者とその家族に必要な看護を計画・実施・評価できる。
3. 成人期の特徴を踏まえ、経過別・治療・処置別、症状別看護を実践できる。
4. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、生命の維持、苦痛の緩和、回復に向けの援助を学ぶ。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種との協働の必要性が理解できる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 対象者に必要な看護援助の具体化 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 実施した看護の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員
老年看護学実習 I	2	90	2年 前期	中村 園美 実務経験あり(看護師)

科目目的

老年期の特徴を理解し、高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い、保健・医療・福祉の連携を理解し、対象者とその家族がよりよい生活を送るための援助に必要な基礎的能力を養う。

科目目標

1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
2. 加齢変化や健康障害による生活上の課題を理解し、自立に向けた援助の実践ができる。
3. 地域における介護老人保健施設の役割と、高齢者の生活を支える職種の役割が理解できる。
4. 高齢者の生活史をふまえ、尊重した態度で関わるができる。
5. 専門職業人としての学習姿勢、態度を身に付け、責任ある行動がとれる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. 対象者の生活行動上の課題に着目したアセスメント 4. 家族を含めたアセスメント 5. 対象者のもてる力を引き出す看護援助の具体化・実施 6. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 7. 実施した看護の評価と修正 8. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 9. 対象者を尊重したコミュニケーションと受容的態度 10. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 11. 高齢者の生活を支える職種の種類とその役割の理解 12. 対象者に合わせたレクリエーションの計画・実施 13. 地域における介護老人保健施設の役割と機能の理解 14. 高齢者の社会参加の実際 15. カンファレンスへの主体的な参加 16. 看護学生としての倫理的行動の実践 17. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法 	施設実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
老年看護学実習Ⅱ	2	90	3年 前期	中村 園美 実務経験あり(看護師)

科目目的

老年期の特徴を理解し、高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い、保健・医療・福祉の連携を理解し、対象者とその家族がよりよい生活を送るための援助を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 老年期の特徴を踏まえ、経過別、治療・処置別、症状別の看護を実践できる。
2. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、可能な限りの自立に向けた看護を安全・安楽に考慮し実践できる。
3. 対象者の意思を尊重する態度を養い、必要な援助を考えることができる。
4. 主体的に学習に臨み、自己の知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の統合的理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 加齢変化・健康障害が及ぼす生活への影響（課題）の明確化 5. 対象者のもてる力に着目した目標設定 6. 対象者の可能な限りの自立に向けた看護援助の具体化・実施 7. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 8. 実施した看護の評価と修正 9. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 10. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 11. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 12. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 13. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 14. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解 15. カンファレンスへの主体的な参加 16. 看護学生としての倫理的行動の実践 17. 自己の課題を明らかにし、それらを解決するための方法 	病棟実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	実習時期	単位認定教員
小児看護学実習 I	1	45	2年8月～	花井未帆 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康な子どもの成長・発達に応じた日常生活の実際を理解することができる

科目目標

1. 乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達の状況を捉えることができる
2. 乳幼児の成長・発達における個別性、および個々に合わせた関わり方がわかる
3. 子どもの日常生活を理解し、発達に応じた養育のあり方を知ることができる
4. 看護師としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる

実習内容と方法

実習内容	方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成長・発達における個別性および個々に合わせて関わるることができる 2. 保育士・幼稚園教諭や乳幼児・家族との相互関係を通してコミュニケーションの特徴を捉えることができる 3. 幼児の気持ちを尊重した言葉遣いと態度を理解し、コミュニケーションがとれる 4. 成長・発達における個別性および個々に合った日常生活を理解し関わるることができる 5. 遊びの重要性を理解し、安全に個々に応じた遊びの展開ができる 6. 安全と健康管理について必要性がわかり、指導者と共に実施できる 7. 保育士・幼稚園教諭の役割を理解できる 8. 健康な乳幼児の生活を理解し、発達に応じた養育(教育・保育)のあり方を考えることができる 9. 看護師としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる 	幼稚園 保育園 認定こども園

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
小児看護学実習Ⅱ	1	45	3年6月～	花井未帆 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害をもつ子ども（患児）の成長・発達を理解し、その子どもおよび家族に応じた看護を実践できる能力を養う

科目目標

1. 患児の成長・発達を理解し、日常生活を理解できる
2. 健康障害の特徴を踏まえた経過別、治療(検査・処置)別、症状別看護の実際を理解できる
3. 健康障害、入院・通院が子どもの成長・発達を妨げないための関わりを理解することができる
4. 患児をもつ家族の不安や疲労を考慮した関わりができる
5. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる

実習内容と方法

実習内容	方法
病棟実習 1. 患児の成長・発達が理解できる 2. 日常生活の世話が理解できる 3. 病態を理解できる 4. 必要な看護を考え、実施できる 5. 成長・発達の妨げを最小限に努めることができる 6. 家族に対して、不安や疲労が軽減できる 外来実習 1. 外来における看護の役割が理解できる 2. 患児の成長・発達が理解できる 3. 病態を理解できる 4. 必要な看護を考え、実施できる 5. 家族に対して、不安や疲労が軽減できる 6. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる	病棟実習 外来実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
母性看護学実習	2	90	3年 前期	島 津世子 実務経験あり(看護師/助産師)

科目目的

周産期にある女性とその家族、地域における母子の保健活動を理解し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 正常な妊娠経過を理解し、妊娠各期に必要な保健指導が理解できる。
2. 正常な分娩経過を理解し、分娩各期に必要な援助を考慮することができる。
3. 正常な産褥経過を理解し、個々に応じた援助ができる。
4. 新生児の生理的な特徴を理解し、母体外生活に適応するための援助ができる。
5. 妊産褥婦を支える家族の心理を理解し、家族の果たす役割について考えることができる。
6. 看護職として母親の母性意識を高めることへの役割を理解できる。
7. 地域における母子の保健活動を通して母子とその家族がより健康に過ごすための援助を学ぶ。
8. 看護職としての姿勢・態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 妊娠経過に応じた身体的変化、心理的变化、社会的変化 2. 妊娠各期に必要な保健指導 3. 分娩経過に応じた必要な援助の理解 4. 産褥経過に応じた身体的変化、心理的变化、社会的変化 5. 褥婦とその家族を含めた観察とアセスメント 6. 産褥経過に応じた援助計画と基本的援助 7. 新生児の生理的变化と健やかに成長発達するための援助 8. 妊産褥婦の心理・社会的特徴を踏まえ、妊産褥婦とその家族とのコミュニケーションと役割の理解 9. 地域における母子の保健活動の理解 10. カンファレンスへの主体的な参加 11. 看護学生としての倫理的行動の実践 12. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	病院実習 助産院実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員
精神看護学実習	2	90	3年 前期	千葉 弘恵 実務経験あり(看護師)

科目目的

メンタルヘル스에 障害を抱える対象者の特徴と生活者としての側面を理解し、地域で生活し続けるための援助を考える。

科目目標

1. メンタルヘル스에 障害を抱え入院している対象者を理解する。
2. 対象者の生活とセルフケア向上の方法を理解し実践できる。
3. 対象者が地域で生活し続けるためのセルフケア能力とその援助を学び、必要な知識と社会資源を考えることができる。
4. 保健・医療・福祉チームの専門性を知り、看護の役割として何が必要なのか考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<p>病棟では、対象理解を中心とした援助を学ぶ。 対象理解は、成育歴からの生活史、発症となったライフイベント、そして現在のセルフケア能力と退院後を見据えたセルフケア能力を向上させるための支援を学ぶ。 病棟における看護計画を参考に看護過程を帰納的に理解する。</p>	病棟実習
<p>就労継続支援施設では、地域で回復するあるいは、再発を予防し続けている対象者のセルフケア能力と支援者との関係を学ぶ。</p>	就労継続支援施設実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員
看護統合実習	2	90	3年後期	吉野 悦子 実務経験あり(看護師)

科目目的

医療チームにおける看護師の役割を理解し、専門職者として継続して生涯学習する姿勢を身につける

科目目標

1. 二人の患者を受け持ち、対象の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践ができる。
2. リーダー・メンバー看護師の管理的役割を理解できる。
3. 継続看護の必要性を再認識し、実際に理解できる。
4. 看護師を含む他職種連携の必要性を理解できる。
5. 自己の看護観を明らかにできる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学 習 方 法
1. 二人の患者を受け持ち、対象の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践する	臨地実習
2. 1日リーダー看護師に同行する	
3. 1日メンバー看護師に同行する	学内実習
4. 退院予定の患者に対して地域連携室または病棟での退院調整場面、あるいは入院中の患者に対しての多職種カンファレンスに参加・見学する	
5. 自己の看護観をまとめレポートする	

評価方法 : 実習評価 レポート

教科書 : 教科書全般

ナイチンゲール「看護の覚書」 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」

複数教員が
担当する科目
の配点表

複数の教員が担当する科目の配点表

・単位認定は学則第11条において必要事項を定める

・同一科目で複数の講師の場合、合計で100点満点とし、1回の単位修得認定試験で実施する。

		科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年	
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	森山 隆則	15	15	100	1	
		論理学	林寺 正俊	30	30	100	2	
		情報処理演習	平間 嘉	15	15	100	1	
		情報技術と看護	小杉 直美	15	11	60	3	
			根本 香		4	40		
	法学入門	小野田 充宏	15	15	100	1		
	人間と生活の理解	心理学	鈴木 珠世	30	30	100	1	
		人間関係論	鈴木 珠世	30	30	100	1	
		仏教学概論	谷川 靖郎	15	15	100	1	
		生命倫理	谷川 靖郎	15	15	100	1	
		社会学	鄭 斗鎬	30	30	100	1	
		英語 I	鳴海 恭子	30	30	100	1	
		英語 II	鳴海 恭子	30	30	100	2	
		日本語表現	小杉 直美	15	15	100	1	
教育学	杉浦 勉	30	30	100	3			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I	渡辺 潤	15	15	100	1	
		解剖生理学 II	井上 貴一郎	30	30	100	1	
		解剖生理学 III	東城 庸介	30	30	100	1	
		解剖生理学 IV	東城 庸介	30	30	100	1	
		生化学	今川 敏明	30	30	100	1	
		臨床栄養学	鳴田 祐子	15	15	100	1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	森山 隆則	30	30	100	1	
			薬理学 I	宇野 健一	30	30	100	1
			薬理学 II	宇野 健一	30	30	100	2
			微生物学	澤田 幸治	30	30	100	1
		病態治療論 I	運	田崎 悌史	30	10	30	1
			循	加藤 法喜		10	30	
			呼	五十嵐 毅		6	25	
			血	石立 尚路		4	15	
		病態治療論 II	消	吉田 秀明	30	12	40	1
			肺	猪又 崇志		4	15	
			内	猪又 崇志		4	15	
			腎	河田 哲也		10	30	
		病態治療論 III	外	鎌田 理	30	6	30	2
			女	金上 宣夫		10	35	
			救	鎌田 理		4	—	
放	鈴木 祐介		10	35				

		科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療論Ⅳ	眼 加藤 雅史	30	6	20	2
			耳 藤原 美秋		4	15	
			歯 千徳 敏克		4	15	
			皮 伊藤 理恵		6	20	
			脳 伊藤 和則		4	10	
			脳 石崎 努		6	20	
	リハビリテーション概論	田崎 悌史	15	5	25	1	
		鈴木 光広		10	75		
	病態治療論演習	高橋 久江	15	15	100	1	
	健康支援と社会保障制度	医療概論	澤田 幸治	15	15	100	1
		地域・在宅医療論	日下 勝博	15	15	100	3
		社会福祉	澤 伊三男	30	30	100	2
		関係法規	小野田 充宏	15	15	100	2
		公衆衛生学	都築 俊文	15	15	100	1
		健康管理論	明野 聖子	15	5	30	1
			池森 康裕		4	30	
山本 真弓			4		30		
寄谷 千春	2		10				
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	斉藤 恭子	30	30	100	1
		看護学概論Ⅱ	斉藤 恭子	30	30	100	1
		共通基本技術	朝倉 あつ子	30	14	50	1
			斉藤 恭子		16	50	
		日常生活援助技術Ⅰ	工藤 美恵子	30	26	80	1
			千葉 利代		4	20	
		日常生活援助技術Ⅱ	工藤美恵子	30	20	65	1
			斉藤 恭子		10	35	
		フィジカルアセスメント技術	中村 恵子	30	30	100	1
		診療に伴う援助技術Ⅰ	斉藤 恭子	15	12	80	1
			真下 泰		4	20	
		診療に伴う援助技術Ⅱ	工藤 美恵子	30	30	100	2
		看護過程	斉藤 恭子	30	30	100	1
		看護研究の基礎	斉藤 恭子	15	11	100	2
		看護研究	斉藤 恭子	30	30	100	3
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	小宮山 政枝	15	15	100
地域・在宅看護概論Ⅱ	柴田 ひとみ		30	30	100	2	
地域・在宅看護論援助論Ⅰ	小宮山 政枝		30	10	30	2	
	三宅 由佳			20	70		
在宅看護援助論Ⅱ	小宮山 政枝		30	30	100	2	
家族看護論	小宮山 政枝		15	15	100	3	
多職種連携	小宮山 政枝		30	18	100	3	
	池森 康裕			4	—		
	芥川 豊	2		—			
	新居 弘堯	2		—			
	飯泉 智子	2		—			
千葉 利代	2	—					

		科目	講師名	総時間数	時間数	配点表	学年	
専 門 分 野	成人看護学	成人看護学概論	千葉 祐子	30	30	100	1	
		成人看護学援助論Ⅰ	千葉 祐子	30	20	60	2	
			渡辺 静香		10	40		
		成人看護学援助論Ⅱ	循	阿部 裕矢	30	4	15	2
			消	佐藤 恵美		4	15	
	運		竹内 明美	4		15		
	呼他		千葉 祐子	18		55		
	成人看護学援助論Ⅲ	千葉 祐子	30	30	100	2		
	老年看護学	老年看護学概論	沼田 環	15	8	50	1	
			朝倉 あつ子		7	50		
		老年看護学援助論Ⅰ	若林 崇雄	30	4	20	2	
			山下いづみ		6	20		
			小原 菜穂		8	20		
			疋田 健		6	20		
		老年看護学援助論Ⅱ	朝倉 あつ子	30	6	20	2	
	緑川 弥生		10		30			
	中村 園美	20	70					
	小児看護学	小児看護学概論	花井 未帆	30	10	30	2	
			岡田 千佐子		20	70		
		小児看護学援助論Ⅰ	佐藤 俊哉	30	30	100	2	
	小児看護学援助論Ⅱ	佐藤 真紀子	30	22	70	2		
		花井 未帆		8	30			
	母性看護学	母性看護学概論	小林 和子	30	22	70	1	
			齊藤 麻木		8	30		
		母性看護学援助論Ⅰ	齊藤 麻木	30	30	100	2	
		母性看護学援助論Ⅱ	齊藤 麻木	30	30	100	2	
	母性看護学援助論Ⅲ	小林 和子	15	15	100	2		
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	千葉 弘恵	15	15	100	1	
		精神看護学概論Ⅱ	栗内 崇	30	30	100	2	
		精神看護学援助論Ⅰ	清水 祐輔	30	20	70	2	
鈴木 ゆき			10		30			
精神看護学方法論Ⅱ		齋藤 伸	30	8	30	2		
千葉 弘恵	22	70						
看護の統合と実践	看護管理	根本 香	30	30	100	3		
	医療安全	吉田 尚子	30	24	80	3		
		小池 ひとみ		6	20			
	災害看護と国際看護	島 津世子	30	30	100	3		
看護統合演習	吉野 悦子	30	30	100	3			
領域横断科目	人間発達論	岡田 千佐子	30	10	30	1		
		高橋 久江		12	40			
		船橋 久美子		8	30			
	周術期看護	千葉 祐子	30	16	50	2		
		畑江 郁子		6	20			
		山下 いづみ		8	30			
	セルフマネジメントを支える看護	千葉 祐子	30	14	50	2		
		畑江 郁子		6	20			
		中村 園美		10	30			
	がん看護	吉田 尚子	30	4	10	2		
北岡 康平		2		10				
上岡 晃		16		50				
畑江 郁子		8		30				